



2016年度 JICA 中国

教師海外研修 —ラオス—

授業実践報告書



目次

- はじめに
- 研修国概要
- 教師海外研修概要
- 訪問先トピックス
- 海外研修日程

授業実践報告

小学校

- ・日本からラオスへ ラオスから世界へ 廿日市市立四季が丘小学校
野村麻衣…10
- ・ラオスの「なぜ?」「どうして?」を追究し未来を問い続ける社会科授業の構築 東広島市立八本松小学校
中村祐哉…23
- ・世界を知ろう!感じよう! 広島市立戸坂小学校
横矢綾乃…33
- ・わたしたちのまち 廿日市市立津田小学校
久藤 映…45

中学校

- ・ラオスを通して、途上国を理解しよう 広島市立日浦中学校
藤井和幸…60

高等学校

- ・経済を軸に、国の立場を想像する ー支援から自立、そしてその先の経済活動ー 山口県立岩国高等学校
山田 泉…72
- ・ラオスから学ぶ!～世界の人々と共に生きるために、私たちにできることは?～ 盈進中学高等学校
上田智子…83
- ・知ることは変わることへの第一歩 山口県立大津緑洋高等学校
小川弘敏…95

はじめに

全世界196ヶ国のうち開発途上国と呼ばれる国は146ヶ国もあります。それらの国の現状や課題、あるいは歴史的背景や先進国との関係などを知らずして、世界の今は語れません。多様な民族、言語、文化、暮らし、考え方、宗教などがあることに興味を持つ好奇心と、その多様性や違いを尊重する寛容な精神なくして、グローバル人材は育成できません。一方、開発途上国に、日本との共通点を意外に多く発見し、共感することで、開発途上国をより身近に感じることもあります。開発途上国の現状を知ることで、日本や郷土のことを、新たな視点で振りかえるきっかけになったりすることもあります。

独立行政法人国際協力機構（JICA：ジャイカ）は、開発途上国における長年の事業で培った経験と人材を活用し、日本国内の国際理解教育の発展に寄与するための活動にも積極的に取り組んでいます。「教師海外研修」は開発途上国の抱える問題に関心をお持ちで、全国の小・中・高等学校・特別支援学校において国際理解教育に取り組んでおられる、または今後それらに取り組むことを考えておられる教員の方を対象に実施しています。参加される教員の方々には、開発途上国の社会の実情や文化・習慣などを肌で感じ、JICAが実施する国際協力の現場視察を通じて、途上国のみならず世界共通の問題や日本と世界の国々の関わりを理解していただき、その学びや知見を日本で待つ子どもたちに還元していただくことを目的として実施しています。

中国地方に勤務する教員対象の今年度の「教師海外研修」は、昨年8月上旬から10日間、ラオスで行われました。同研修に参加した8名の教員の皆さんは、この研修への参加経験を活用し、それぞれの学校で授業実践に取り組まれましたので、今般、その授業の成果を冊子として取りまとめることとなりました。この冊子が開発途上国を題材とした国際理解教育に関心のある方の参考となり、学校教育現場での実践の一助になれば幸いです。

2017年3月

独立行政法人 国際協力機構

中国国際センター所長 池田 修一

研修国概要



ラオス人民民主共和国 (Lao People's Democratic Republic)



- 首都：ビエンチャン
- 面積：24万平方 km (日本の約3分の2)
- 人口：約 649 万人 (2015年、ラオス統計局)
- 政体：人民民主共和制
- 民族：ラオ族 (全人口の約半数以上) を含む計 49 民族
- 言語：ラオス語
- 宗教：仏教
- 気候：熱帯モンスーン気候に属し、高温多湿で雨季 (5~10月) と乾季 (11~4月) がはっきりしている。
ビエンチャンの年平均気温は乾季 22.1℃、雨季 28℃。

通貨：キープ (Kip) 10,000 キープ=139円 (2017年1月)

1人あたり GDP：1,725 ドル (2014年、ラオス統計局)

主要産業：サービス業 (GDP の約 37%)、農業 (約 26%)、工業 (約 31%) (2012年、ラオス統計局)

主要貿易相手国：タイ、中国、ベトナム他 (2014/5年ラオス工業商業省)

<日本との関係>

従来より良好な関係。1955年に外交関係を樹立し、2015年3月に60周年を迎えた。

在留日本人：743人 (2015年10月現在・在留届ベース)

在日ラオス人：2,715人 (2015年12月入管発表)

文化関係：日本は1976年より文化無償協力案件を実施。文化遺産保存、スポーツ交流、人物交流等の文化交流も拡大中。

経済関係：対日輸出 約 127 億円…金属製品、繊維製品、乗用車、一般機械
対日輸入 約 118 億円…衣類、食料品、原料品、化学製品

日本からの投資：コンサルティング、縫製・部品製造業、電力等 (いずれも 2015年財務省貿易統計)

- 日本の援助実績 (2014年度まで)：
- (1) 有償資金協力 381.65 億円
 - (2) 無償資金協力 1,451.78 億円
 - (3) 技術協力 707.14 億円



日ラオス外交関係樹立60周年ロゴ

(2017年1月付 外務省ホームページ「各国・地域情勢」(ラオス)より)

教師海外研修概要

JICA の国際理解教育・開発教育支援

グローバル化が進む昨今、環境や食料、資源といった地球の課題を学び、異文化理解や多文化共生を促進するため、国際教育や開発教育、持続可能な開発のための教育（ESD）といったグローバル化に対応する教育を多くの教育機関が実践し、その関心と需要はますます高まっています。

国際協力活動は主に開発途上国の現場で行われていますが、JICA では途上国と日本の地域との架け橋となるべく、国内でもさまざまな活動を行っています。中でも、長年に渡る国際協力の経験と知見を活用して、地域の自治体や市民団体、大学・学校現場と連携して展開しているのが国際理解教育・開発教育支援プログラムです。

JICA 中国では、国際協力出前講座、JICA 中国施設訪問、国際教育研修会といったプログラムを通じて、一人一人が開発途上国や国際協力の現状について「知り」、自分と世界とのつながりに「気づき」、自分に何ができるかを「考え」、地球市民としての「行動」の一歩を踏み出すためのグローバルな教育活動を支援しています。教師海外研修は、そのプログラムのひとつです。



教師海外研修とは

1. ねらい

本研修は、国際理解教育・開発教育に関心を持つ教員を対象に、実際に開発途上国を訪問し、国際協力の現場を視察することで、途上国の現状や日本との関係性、国際協力への理解を深め、その成果を、学校での授業等を通じて、地球の未来を担う児童・生徒への教育に役立ててもらうことを目的として実施しています。

国内で実施する派遣前・帰国後の研修では、ワークショップ体験などを通じて参加型学習やアクティブ・ラーニングの手法を学び、海外研修での知見をより効果的に還元するための授業づくりのサポートも行います。

帰国後は、教室にいる児童・生徒はもちろん、地域において他の教職員や市民にもその経験を発信してもらい、持続的に国際理解教育・開発教育の担い手として活躍していただくこともねらいとしています。

2. 応募条件

- 中国 5 県の国公立・私立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・高等専門学校・特別支援校に勤める教員及び教育委員会の指導主事（臨時採用、講師も可）
- 教師海外研修の趣旨・目的を十分理解し、国内で実施される研修を含め全研修に参加可能であること
- 原則、2016 年 4 月 1 日現在、おおむね 45 歳以下であること
- 所属する学校の学校長、もしくは教頭の推薦が得られること
- 原則、本研修や JICA ボランティア、JICA 専門家、ODA モニター等、ODA 事業として海外に派遣された経験がないこと
- 将来、JICA が実施する開発教育支援事業やイベントにご協力いただけること
- 本事業に関連して撮影された写真及び事業の結果、作成された著作物について JICA が広報目的で使用することについて承諾すること



3. 研修のながれ (2016年度)

募集・選考

- 募集 (4月～5月20日) ○書類選考 (5月下旬) ○書類選考結果通知 (5月下旬)
- 面接選考 (5月30日～6月6日) ○最終結果通知 (6月8日)

派遣前研修 6月25日(土)～26日(日) 会場：JICA 中国 (広島県東広島市)

※2日目は「第1回国際教育研修会」と併催

- 海外研修について：ラオス国事情、研修日程と訪問先解説、渡航手続きについて
- ブレインストーミング：「ラオスに対する今のイメージとは？」
- 講義：「授業を見据えた準備と実践」鈴木 祐子 教諭 (岡山市立岡山後楽館高等学校 / 2015年度教師海外研修参加)

第1回国際教育研修会

- 「人権を通して考える世界と私」
講師：山中 信幸 氏 (川崎医療福祉大学教授、(特活)開発教育協会大阪事務所 運営委員)
- 「学校から世界を知ろう、感じよう」～2015年度教師海外研修参加者によるワークショップ～
講師：荒木 友子 教諭 (浜田市立三隅小学校)・尾山 誉 教諭 (岡山県共生高等学校)

出発前報告書提出 8月1日(月)

海外研修 (ラオス) 8月8日(日)～18日(木)

現地研修報告書提出 8月29日(月)

派遣後研修 9月3日(土)～4日(日) 会場：JICA 中国 (広島県東広島市)

- 海外研修で得た資料や情報を参加者全員で共有・整理。参加型手法を改めて学びながら、現地の知見をどう教材化するか考え、授業案を作成。
- 助言指導：山中 信幸 氏



所属校での授業実践 9月～2017年1月



授業実践報告書提出 2017年1月10日(火)

第2回国際教育研修会 1月28日(土) 会場：ひろしま国際センター 交流ホール (広島県広島市)

- 模擬授業「教室から世界を知る授業作り」
今年度教師海外研修参加者から2名が、研修の成果を模擬授業として発表
- ワークショップと講義「人権を通して考える世界と私」
講師：山中 信幸 氏



海外研修 訪問先トピックス

8月9日(火)

【JICA 専門家 活動現場視察】UXO-LAO 事務所訪問と不発弾に関する講義

「不発弾の問題について深く考えるよい機会だった。林専門家が『不発弾処理は危険と言われるが、正しい方法で処理すれば危険なことではない。不発弾の問題は日本にもあり、他人事ではない。被害者としての日本、加害者としての日本、支援者としての日本のあり方を考えてほしい』と仰ったのが印象的で、自分の中の思い込みや偏見に気づかされた」(久藤)



8月10日(水)



【青年海外協力隊 活動現場視察】サバナケット県教員養成短大校

ラオスでは国内で格差が大きく、特に南部では教育や医療の深刻な課題が存在しています。青年海外協力隊員が派遣されている当校では、教員養成に携わる現地の先生方からも、直面する問題や想いを伺うことができました。

「短大で繰り上がり繰り下がり計算を教えなくてはならないことに驚いた。そのような状況に対し短大の先生たちは、自分たちの置かれた状況で個別対応等の工夫をし、学生たちの学力向上に向けた努力をしている様子もうかがえた」(藤井)

8月11日(木)

【青年海外協力隊 活動現場視察】サバナケット子ども文化センター

休日や放課後などに子どもたちが過ごす日本の児童館のような施設。

当日は5歳から15歳位まで約30名の子どもたちが集まり、参加者が準備した日本の遊び紹介やクイズに、歓声を上げていました。

「スマホをもつ様子や、遊ぶ姿、話す内容、どれも、日本の子どもとあまり変わらないという印象。日本の子どもたちが、この映像や写真を見て『ぼくたちとよく似てる』と思ってくれたら嬉しい。国際理解は、違いを見つけることではなく、似ているところや身近に感じるところに気づいて初めて歩み寄れると思うから」(横矢)



【日系企業訪問】KP BEAU LAO CO., LTD. 工場見学と「ラオスにおける外国籍企業のビジネス展開」についての講義

「外資系の企業が進出することによるメリット、デメリットを考えることができた。そして現地の人々にどのような影響が出るのかということや、経済の仕組みについても、初めて知ることが多かった」(上田)

8月12日(金)

UXO-LAO 不発弾回避教育と処理現場

ラオスにはベトナム戦争時に投下された爆弾の30%近くが不発弾として残っており、今も人々の生活を脅かしています。不発弾の除去作業や、市民が被害にあわないための啓蒙活動を行うUXO-LAOを訪問、小学校での回避教育を見学し、不発弾処理の瞬間にも立ち会いました。

「今日の経験をどのような言葉にすれば子どもや先生方に伝わるのか、本当に悩む1日だった。知らずに不発弾や戦争、平和について話をするのと、今回の経験があって話をするのでは違うと思う。しかし、どこまで自分の言葉で伝えられるのかまだ実感が沸かない。

頭ではなく身体がずっと覚えていると思った」(野村)





国際NGO「Village Focus International」訪問

ラオスは人身取引被害者の送出国であり、被害者全体の95%が女性、そのうち85%は18歳以下の少女とされています。「Village Focus International」では、被害にあった少女が自立し、社会復帰するための職業訓練や教育支援を行っています。彼女たちが裁縫技術を学ぶ様子や生活するシェルターを見学しました。

「非常に根の深い問題であること、『貧困』が、人権侵害などの温床になっていると感じた。『貧困』から抜け出すには『教育』しかないが、その『教育』を、『貧困』ゆえに受けることができない。この連鎖はいつ断ち切れるのだろうか」(山田)

8月13日(土)

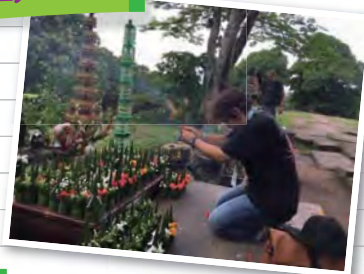
【ホームステイ体験】ドンコー村

「ドンコー村での出会い、それは貴重な体験であった。小学校の先生の意識の高さに驚いた。子どもを変えるためには、村を変えるためにはまず自分が変わらないといけない。先生の学び続ける姿勢は私も含めて日本の教員は見習わなければならないことであると感じた。村を良くしたいという気持ち。そして人を育てる上で最も大切なことは信頼関係であるとドンコー村で学んだ」(小川)

「『暇な時は何をしていますか?』『仕事かな』時間の流れと仕事観の違いを痛感した瞬間」(中村)



8月14日(日)



ワット・パー見学

「ヒンドゥー教と仏教が混在する空間で、厳かな雰囲気伝わってきた。仏前の人々が熱心に三顧参拝をする姿を見ると、この国でどのくらい仏教を大切にしているのかが分かった」(野村)

8月15日(月)

【青年海外協力隊 活重林視察】チャンパーサック県病院

「隊員からは、現地の風習を大切にしながらも、命の大切さについて教え伝えていこうとする意志の強さを感じた。とても活発に活動され、状況判断を上手にしながらラオスに適応しようとしている様子が伝わってきた」(藤井)



8月16日(火)



【草の根技術協力事業 視察】

「アジアの障害者活動を支援する会 (ADDP)」訪問

ラオスの障害者の様々な自立支援活動に取り組んでいるNGOを訪問、クッキー製造と販売を行う作業所にお邪魔し、目の見えない状況で音だけを頼りに行うスポーツ「ゴールボール」も体験しました。

「『障害者支援としてではなく、純粋においしいから、という理由でクッキーを買ってもらえるようになりたい』という言葉に、障害を持った方、障害のある方を支援する方のプライドを感じた。かっこいいな!」(横矢)

8月17日(水)

JICA ラオス事務所 研修成果の報告

「『今回学んだことを日本で生徒達に伝えてほしい』、『日本の良さについても伝え、国際社会の中での日本、という視点で日本を見られる若者を育ててほしい』、『途上国との関わりの中で、お互いをもっとよくするヒントを見つけてほしい』と言われたことが心に残った。今回この研修に参加させてもらったことを、帰国後最大限に活かしていかなければならない、と責任を感じた」(上田)



海外研修日程

研修テーマ：ラオスの子どもを取り巻く現状と課題

月 日	内 容		宿 泊
8月7日(日)	夕刻	【出発前オリエンテーション】(関西空港周辺ホテルにて)	大 阪
8月8日(月)	午前	関西国際空港を出発、乗継地のベトナム・ハノイへ	
	午後	ラオスの首都ビエンチャン到着	
8月9日(火)	午前	【JICA ラオス事務所ブリーフィング】 ・ラオスの概況と JICA の協力内容 ・ラオスの教育事情について	ビエンチャン
	午後	【JICA 専門家 活動視察】 UXO-LAO 事務所 ・不発弾の現状について ・JICA や海外の協力	
8月10日(水)	午前	ビエンチャンから空路、サバナケットへ	サバナケット
	午後	【青年海外協力隊 活動視察】 サバナケット県教員養成短大校 ・青年海外協力隊員の活動紹介 ・教員養成短大校教職員との意見交換	
8月11日(木)	午前	【青年海外協力隊 活動視察】 サバナケット子ども文化センター ・青年海外協力隊の活動紹介 ・子どもとの交流、日本の遊び紹介	バクセー
	午後	【日系企業訪問】 KP BEAU LAO CO.,LTD. ・ブリーフィング「ラオスにおける外国籍企業のビジネス展開」 ・工場見学	
	夕方	陸路にてバクセーへ(移動4時間)	
8月12日(金)	午前	UXO-LAO チャンパーサック支部活動視察 ・不発弾回避教育 見学 ・不発弾処理現場 訪問	バクセー
	午後	国際 NGO 「Village Focus International」 訪問 ・ラオスにおける人身取引について ・シェルター見学	
8月13日(土)	午前	朝市見学	ドンコー村
	午後	【ホームステイ体験】 ドンコー村 ・小学校見学 ・村の散策	
8月14日(日)	午前	ワットプー遺跡見学	バクセー
	午後	バクセーに戻り、ホテルにて中間ふりかえり	
8月15日(月)	午前	【青年海外協力隊 活動視察】 チャンパーサック県病院 ・青年海外協力隊の活動紹介(ラオスの母子保健について) ・病院見学	
	午後	バクセーから空路、ビエンチャンへ	
	午後	ビエンチャン到着後、教材収集(教科書販売所など)	
8月16日(火)	午前	ビエンチャン市内見学(タートルアン寺院、パトゥーサイなど) 学習教材収集(市内市場)	ビエンチャン
	午後	【草の根技術協力事業 視察】 NGO 「アジアの障害者活動を支援する会 (ADDP)」 訪問 ・事業概要ブリーフィング ・障害者就労支援施設見学(クッキー工場) ・障害者スポーツ振興プロジェクト視察(ゴールボール体験)	
		JICA 事務所職員・青年海外協力隊員との夕食懇談会	
8月17日(水)	午前	最終ふりかえりミーティング	機内
	午後	JICA ラオス事務所での研修報告 夜、ビエンチャンより空路乗継地のベトナム・ハノイへ	
		深夜、ハノイを出発、関西国際空港へ	
8月18日(木)	午前	関西国際空港着後、解散	

授業実践報告

日本からラオスへ ラオスから世界へ

◆所属先	廿日市市立四季が丘小学校	◆実践教科	国語科・学級活動・道徳・学校行事・校内研修
◆氏名	野村 麻衣	◆対象学年	第1学年・第6学年・教職員
◆担当教科	全教科	◆対象人数	50名（1年1組、1年2組） 75名（第6学年）

■実践の目的

- ・ラオスの文化や人々の暮らしについて考えることを通して、児童同士が仲良く助け合いながら問題を解決しようとする態度を育てる。
- ・他国のよさを発見したり、違いを認めようとしたりする態度を育てる。
- ・ラオスで働く日本人の活躍について知ることを通して、外国への興味関心を高めたり、自分の生き方について考えたりする心情を育てる。

■授業の構成

時限・対象	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目 教職員	「10日間の研修で学んだこと」 ・10日間で見たことや出会った人について報告をし、どのような授業実践ができそうか提案をする	ラオスの概要や、自分が見てきたこと、考えたことについてプレゼンテーションをする	・写真、動画 ・パワーポイント
2時限目 1年2組	「いつでもどこでも」（道徳） ・気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する心情を育てる 内容項目2-(1)礼儀	(1) 挨拶にはどんな挨拶があるか、発表し合う (2) 「いつでもどこでも」を見ながら話し合う (3) これまでの自分を振り返って、話し合う (4) 他の国の挨拶にはどのようなものがあるのか調べ、言い合う	・「わたしたちの道徳小学校1・2年」
3～12時限目 1年2組	「サラダでげんき」（国語科） ・誰がどんなことをしたかを考えて場面ごとに読むことができる	(1) 学習の見通しを立てる (2) 出てきた動物に気をつけて場面ごとに読む (3) 出てきた動物と関わりのある国の挨拶について知る (4) 単元の学習を振り返る	・ワークシート ・外国の挨拶が入った台本

時限・対象	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
13時限目 第1学年	<p>「学習発表会」(学校行事)</p> <p>「ゆびのロンド」</p> <p>「サラダでげんき」</p> <p>・出てくる動物と関わりのある外国の挨拶を紹介しながら、「サラダでげんき」の劇を発表することができる</p>	<p>(1) 鍵盤ハーモニカの演奏をする</p> <p>(2) 台本の中に外国の挨拶を交えて紹介しながら、「サラダでげんき」の劇をする</p>	<p>・世界の国旗と挨拶を紹介するカード</p> <p>・書画カメラ</p>
14時限目 1年1組	<p>「野村先生の夏休み」 (学級活動)</p> <p>・ラオスの文化や人々の暮らしについて考えることを通して、友だちと関わり合いながら問題を解決しようとすることができる</p> <p>共通事項(2)-ウ 望ましい人間関係の形成</p>	<p>(1) 写真や世界地図を使ってラオスについて知る</p> <p>(2) ラオスのすごろくをし、止まったマスのカードに書かれているクイズに答える</p> <p>(3) 全体で答え合わせをし、ラオスについてさらに深める</p> <p>(4) 学習の振り返りをする</p>	<p>・写真や動画</p> <p>・パワーポイント</p> <p>・ラオスの国の地図</p> <p>・ラオスの国の形をしたすごろく</p> <p>・クイズが書かれたカード</p> <p>・ワークシート</p> <p>・サイコロ</p> <p>・おはじき</p>
15時限目 1年2組	<p>「野村先生の夏休み」 (学級活動)</p> <p>・ラオスの文化や人々の暮らしについて考えることを通して、友だちと関わり合いながら問題を解決しようとすることができる</p> <p>共通事項(2)-ウ 望ましい人間関係の形成</p>	<p>(1) 写真や世界地図を使ってラオスについて知る</p> <p>(2) ラオスのすごろくをし、止まったマスのカードに書かれているクイズに答える</p> <p>(3) 全体で答え合わせをし、ラオスについてさらに深める</p> <p>(4) 学習の振り返りをする</p>	<p>・写真や動画</p> <p>・パワーポイント</p> <p>・ラオスの国の地図</p> <p>・ラオスの国の形をしたすごろく</p> <p>・クイズが書かれたカード</p> <p>・ワークシート</p> <p>・サイコロ</p> <p>・おはじき</p>
16~29時限目 1年2組 (1~2月実施予定)	<p>「はがぬけたらどうするの」 (国語科)</p> <p>・文章を読んで似ているところや違うところを考え、自分のやってみたいやり方を伝え合うことができる</p>	<p>(1) 学習の見通しを立てる</p> <p>(2) 教材文を読んで、それぞれの国の葉が抜けたときのやり方をまとめる(集めたインタビューの動画や文章などを適宜紹介する)</p> <p>(3) 整理した表を見ながらいろいろな国のやり方を比べ、共通点や相違点を見つけて発表し合う</p> <p>(4) 日本以外の五つの国の中から、自分がやってみたいと思うやり方を選び、文章に書いて伝え合う</p> <p>(5) 単元の学習を振り返る</p>	<p>・ラオスの子どもたちにインタビューした動画</p> <p>・ALTなど外国の方にインタビューした文章や動画</p> <p>・ワークシート</p>

時限・対象	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
30時限目 第6学年 (2月末実施予定)	「地球に共に生きる」(道徳) ・外国の人々や文化を大切に する心もち、日本人として の自覚をもって世界の人々と 親善に努めようとする心情 を育てる 内容項目4-(8) 国際理解	(1) 事前に答えてもらったアンケートについて振り返り、ラオスの子どもたちや国の様子について知る (2) ラオスで働く日本人について紹介し、どのような仕事をどのような思いでやっているのかについて考えたことを話し合う (3) 緒方貞子さんの活動に関する教師の説話を聞く (4) 学習の振り返りをする	・パワーポイント ・ワークシート ・緒方貞子さんに関する資料



14・15時限目：

「野村先生の夏休み

～ラオスで過ごした10日間、ラオスってどんな国?～

(学級活動)

対象：第1学年1組 (25名)
第1学年2組 (25名)

ねらい：ラオスの文化や人々の暮らしについて考えることを通して、児童同士が仲良く助け合いながら問題を解決しようとする態度を育てる。

他国のよさを発見したり、違いを認めようとしたりする態度を育てる。

<本時の流れ>

学習活動と内容	T: 主な発問、指示 C: 予想される児童の反応	○: 指導上の留意点
1 ラオスについて地図や写真を見て知る	T 先生が夏休みに行ってきたラオスという国について紹介します。 C とてもきれいな建物だね。 C あの果物、見たことあるよ。 C 広い田んぼがあるんだね。 C ラオスの周りには海がないんだね。 C 川の向こうが違う国なんてびっくり。 C もっとラオスのことが知りたいな。	○パワーポイントで写真を見せながら、必要があれば解説をする。 ○児童の質問について出来る限り答える。

<p>2 すごろくを使って、ラオスのクイズに答える</p>	<p>T もっとラオスについて詳しくなって、「ラオスはかせ」になりましょう。これから「ラオスゴロク」をします。</p> <p>T 順番を決めて、すごろくを進めていきます。止まったマスに書いてある番号と同じ番号のカードを引き、クイズに答えましょう。</p> <p>C このラオスの子どもたち、ぼくたちとどんなところが違うんだろう。</p> <p>C オレンジ色の服を着た人がたくさんいるね。多分お坊さんだよ。</p> <p>C この女の子、誰を待っているんだろう。</p> <p>C あ、野村先生の写真だ。先生、この女の子と何を話しているのかな。</p>	<p>○ すごろくの進め方について説明をする。</p> <p>○ クイズの答えに困ったときは、班の友だちと相談しながら進めることを伝える。</p>
<p>3 クイズの答え合わせをする</p>	<p>T クイズは全部で18問ありました。実は、ラオスは18の地域に分かれています。</p> <p>T 止まっていないマスの問題も考えて手を挙げてくださいね。</p> <p>C あの建物は学校だよ。</p> <p>C やっぱりオレンジ色の服を着た人はお坊さんだったね。</p> <p>C あれは魚を採る道具だったんだね。</p> <p>C ラオスの子どもたちは裸足で外で遊ぶんだね。</p> <p>C 虫って食べれるんだね。</p>	<p>○ 1問ずつパワーポイントを使って答え合わせをする。</p> <p>○ 答えていない問題でも考えて答えることを伝える。</p>
<p>4 学習の振り返りをする</p>	<p>T ラオスについて詳しくなれましたか。今日の学習でびっくりしたことや考えたこと、思ったことをワークシートに書きましょう。</p>	<p>○ 適宜机間指導を行い、書くことが難しい児童に対して声掛けをする。</p>

<児童の様子>


- ・最初のスライドを見たとき、日本では見たことのない建物や風景に驚いていた。
- ・どの児童も班で協力することができ、興味をもって学習に取り組むことができた。






<児童の反応>


じゆぎょうのかんそうをおしえてください。
 おばうさんが「ごはんをちらうのか
 おもしろかった。ラオスのか
 ざしがタイたののかをくりにした。
 日本といろいろちがうと
 ちがうあっておもしろか
 った。おせかいにいせんが
 ちがうおもしろか




じゆぎょうのかんそうをおしえてください。
 ラオスの人のおこめをつまんでた
 るのしかがびっくりした。
 おばうさんに「ごはんをおけるとこ
 びくりました。
 ラオスごのじもよくわかり
 ました。

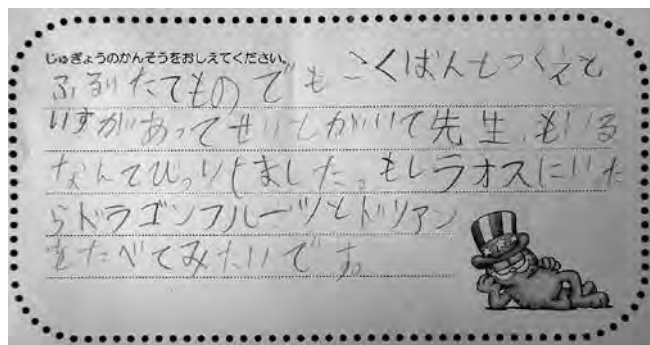
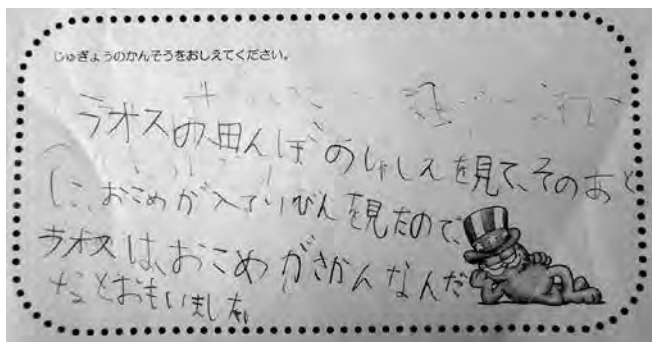


じゆぎょうのかんそうをおしえてください。
 ラオスが「こんなにおもしろいとは
 おもいませんでした。ラオスの点は日本の
 とちがうこんなひななだとおもはなかつた
 でおもしろい
 ところがあるとおも
 いませんでした。



じゆぎょうのかんそうをおしえてください。
 ラオスのことがよく
 わかったから、つぎは、
 ちがうくにちがう
 きてくればほしい
 です。おほいせんが
 ちがうおもしろか





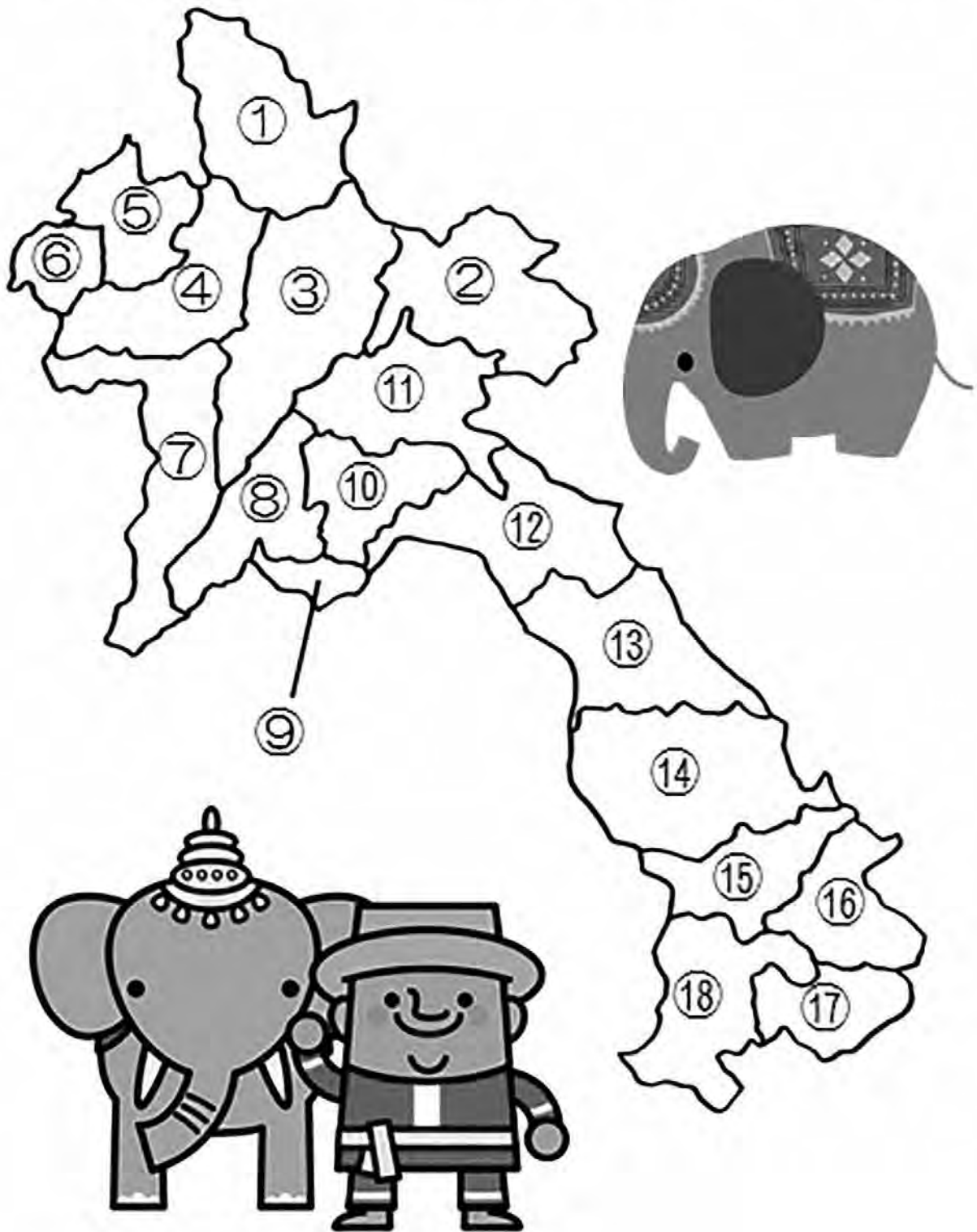
- ・ぼくはきょうラオスをするじゅぎょうをしました。ぼくもラオスにいてみたいけど、おとなになったらいろんなくににいてみたいです。そしてぼくのゆめは、どうにのることです。
- ・田んぼがすごくきれいでした。すごくひろくてびっくりしました。
- ・ラオスのことがいっぱいわかりました。ラオスは日本とちがうんだなとおもいました。ごはんは手でたべるし、はだしてそとに出るし、くだものもすてきてました。字もぜんぜんちがってました。
- ・ラオスのことをもっともってみたいですよ。いちばんびっくりしたことは、こっきのいろと、まんなかのまるのかたちです。
- ・いろいろなフルーツがあるし、おこめの入れものが日本とはちがうことがわかりました。
- ・おぼうさんがすごくおおかたからすごいなとおもいました。
- ・ためた水でシャワーをするのがふべんそうなので、日本のほうがべんりかもしれないとおもいました。
- ・のむら先生、ラオスのことおしえてくれてありがとうございました！またラオスのことをおしえてください。ラオスいてみたいなー。

<所感>

すごろくをラオスの国の形にすること、18の地域に分かれていることを使って18問のクイズにすることで、視覚的に「ラオスという国について学習している」という意識を持たせることにこだわった。教育番組でラオスについて取り上げられていたこともあり、「テレビで見たことあるよ。」という声も上がり、あまり身近ではない国にも関わらず興味深く学ぶ児童の姿を見ることが出来た。また、電子黒板を使用することで建物の大きさや果物の種類、町の様子について写真を見て気付くことが多くあったと感じている。

「ラオスについて学ぶこと」を通して「班の友だちと協力することの楽しさや喜びを感じる心」や「外国の文化や暮らしに興味を持ち、おもしろいと感じる心」の育成に重点を置いた。少し難しい問題を友だちに聞いてみる姿や、次のクイズは何かわくわくしている姿を見ることができ、上記2点について達成することができたと考えている。

ラオスゴロクでラオスのことを知ろう！



この建物は、何に使われているのでしょうか？



- ①家 いえ
- ②学校 がっこう
- ③工場 こうじょう

ラオスでは、どんな言葉ことばが使われているのでしょうか？

- ①英語 えいご
- ②タイ語 ご
- ③ラオス語 ご

ラオスで使われている文字もじはどれでしょうか？

- ①Hello
- ②안녕하세요
- ③ສະບາຍດີ

ラオスの子どもたちの写真しやしんです。

みんなと違うところはありませんか？探してみましよう！



しゃしん うつ ひと しごと なん
写真に写っている人たちの仕事は何でしょう？






- ① お坊さん ぼう
- ② 学校の先生 がっこう せんせい
- ③ サラリーマン

なにかご 何をい つか
このかごは何を入れて使うのでしょうか？



- ① 果物 くだもの
- ② お米 こめ
- ③ お金 かね

こっさき
ラオスの国旗はどれでしょう？

- ① 
- ② 
- ③ 

つか
このボールはどうやって使うのでしょうか？



- ① 投げて遊ぶ なげ あそぶ
- ② 蹴って遊ぶ け あそぶ
- ③ 転がして遊ぶ ころ あそぶ

のむらせんせい がんば ご はな なに はな
野村先生が頑張ってラオス語で話しかけています。何を話

しているのでしょうか？



- ①道を聞いている
- ②男の子の年を聞いている
- ③実は日本語を教えてあげている

ラオスの人(ひと)に「こんにちは！」と挨拶(あいさつ)をしようと思(おも)います。何(なん)と言(い)えは伝(つた)わるのでしょうか？

- ①ブエナスタルデス！
- ②サバイディー！
- ③アッサロームアライクム！
- ④グーテンターク！

あまり(あまり)日本(にほん)では見(み)かけないこの果物(くだもの)。名(な)前(まえ)は何(なん)と言(い)う(う)でしょうか？



- ①マンゴー
- ②ドラゴンフルーツ
- ③ドリアン

ラオスの女(おんな)の人(ひと)が誰(だれ)かを待(ま)っています。誰(だれ)を待(ま)っている(ま)のでしょうか？



- ①帰(かえ)ってくる家(か)族(ぞく)を待(ま)っている
- ②お坊(ぼ)さんが通(と)るのを待(ま)っている
- ③出(で)掛(か)けるのにタクシ-を待(ま)っている

ラオスにある世界遺産の1つ「ワットプー」の写真で

す。この中には何があるのでしょうか？



- ① 仏像があり、中でお祈りができる
- ② お墓として使われていて、中には入れない
- ③ 昔使われていた道具が中に置いてある

笑顔がすてきなラオスの女の人が話しかけてくれました。

たくさん食べ物がとれたそうです。バケツの中には何が入っていたのでしょうか？



- ① キノコ
- ② 虫
- ③ 木の実

ラオスではこの乗り物がたくさん走っています。この乗り物には何を乗せるのでしょうか？



- ① 人
- ② 荷物
- ③ 動物

村長さんが道具の使い方を説明してくれました。こ

の道具は何をするものなのでしょうか？



- ① 山の中に置いてイノシシを捕まえる
- ② 川の中に置いて魚を捕まえる
- ③ 集めた果物を入れて保存しておく

ラオスの料理はどれでしょうか？

①



②



③



家の外に水を溜めてありました。この水、何に使うのでしょうか？



① トイレで使うため

② 火事が起きたとき火を消すため

③ シャワーの代わりに使うため

全体を通しての成果と課題

<成果>

児童の感想の中に、「ラオスにいつてみたい」「ほかのくにについても知りたい」という感想が多く、外国に対して親近感をもたせることができた。スライドで扱った写真とクイズの問題を結びつけて、ラオスで稲作が盛んであると気付いた児童もおり、多くの情報の中から必要な情報を選択する力をより高めることができた。

裸足で過ごすラオスの子どもたちや、沐浴用の濁った水の写真を見てもマイナスなイメージをもつのではなく、シャワーではなくて不便そうだと感じたり、おもしろいと感じたりする児童が多く、先入観なく外国の文化や習慣について学習することができた。

第1学年という発達段階に対しクイズの写真選定は慎重に行った。児童は初めて触れる外国の文化や習慣、暮らしについて想像以上に興味を示していた。「違っているからおもしろい」と感じてくれる児童が多く、自分の伝えたかったことを十分伝えることができた。

<課題>

今回は、45分間の中で振り返りの時間をもつことができなかった。45分間という限られた時間の中に、自分の伝えたいことや児童に考えて欲しいことなどを反映させるためには、活動や提示する資料をより精選していく必要があると感じた。

研修を通して特に自分の印象に残っている場所や内容について伝えたいと考えたが、第1学年という発達段階にはそぐわないものもあり、授業に反映させることは難しかった。ただ、実施予定として第6学年の道徳の時間（国際理解）をいただけたことはありがたく、しっかり準備をして臨みたい。

参考資料

【書籍】

- ・ JICA中国「2015年度 JICA中国 ラオス教師海外研修 授業実践報告書」
- ・ 文部科学省「わたしたちの道徳 小学校1・2年」

【webサイト】

- ・ 「ラオスにおける経済・経営関係の高等教育」
<http://www.edu.kobe-u.ac.jp/gsics-project/laos/Lao-D001.html>
- ・ 「ラオス情報文化観光省」 <http://www.lao.jp/>

ラオスの「なぜ?」「どうして?」を追究し 未来を問い続ける社会科授業の構築

<p>◆所属先 東広島市立八本松小学校</p> <p>◆氏名 中村 祐哉</p> <p>◆担当教科 全教科</p>	<p>◆実践教科 社会科・全校朝会</p> <p>◆対象学年 第5学年・全学年</p> <p>◆対象人数 31名・809名</p>
---	---

■実践の目的

○児童への学習指導に対する目的

- ・ラオスの生活文化等を知らせることから児童の諸外国への興味・関心を高める。
- ・ラオスについて知ること、考えることからラオスで起こっている社会的事象に対して、児童に「なぜ?」「どうして?」「どのようにして?」といった視点から疑問点をもたせ、その問題を多面的に追究させる。
- ・ラオスについて知ること、考えることから児童の多文化共生・異文化理解における社会的見方・考え方の裾野を広げさせ、またその素地を育む。

○教師の海外経験を普通の授業に活用するという視点における目的

- ・教師の海外経験（本稿では、青年海外協力隊・日本人学校・補習授業校勤務経験等を指す）が特に初等学校教育においては、普通の授業など実際の現場では活かし切れていない、または、どこか特別感のあるものになってしまうという点において、小学校学習指導要領に準じながらも、そのフォーマットとなる単元計画・授業構成を教科教育の視点にスポットを当てて探る。
- ・初等学校教育の社会科という教科において、教科横断的な視点も鑑みながら、教師の海外経験を授業に具体的にどのような形で落とし込んでいくことがより効果的なのかを探る。

■授業の構成

時限・対象	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目	<p>『教室の工業製品調べ』 (社会科)</p> <p>身のまわりにある工業製品や日本でさかんな工業の種類を手掛かりに、日本の工業に関心を持ち、学習への関心・意欲を高めさせる</p>	<p>(1) 工業製品の定義について知る</p> <p>(2) 教室の工業製品調べを行う</p> <p>(3) 教室にあるほとんどのものが工業製品だということに気付かせる</p> <p>(4) 「重・軽工業」という社会科用語を確認させる</p> <p>(5) これらの工業製品は、どういった場所で作られているのかという点に疑問をもたせる</p>	<p>(1)～(5)</p> <p>電子黒板</p> <p>(自作PPT資料提示)</p> <p>(2)～(3)</p> <p>教室備品</p> <p>(4) 社会科資料集</p> <p>(5) ラオスで作られ、日本に輸入された実物の工業製品(入浴剤)</p>

時限・対象	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
2時限目	『工業のさかんな地域』 (社会科) 日本の工業のさかんな地域を調べ、それが主に太平洋ベルトに分布していることに気付かせ、その理由を考えさせる。また、その理由から工場の立地条件には多くの共通点があることに気付かせる	(1) 工業製品が作られている工業のある場所を具体的に予想させる (2) 工場のある場所についての予想を、立地条件を中心に児童の考えを発表させる (3) 資料から工場が集まる場所には共通の条件があることに気付かせる (4) 「工業地域／地帯」「太平洋ベルト」という社会科用語を確認させる (5) 工業製品のつくられる工場の在り方自体について疑問をもたせる	(1)～(5) 電子黒板 (自作PPT資料提示) (3) 工業統計調査マップ (4) 社会科資料集 (5) 日本の自動車生産工場の写真資料・ラオスで見学した日系入浴剤生産工場の現地写真資料
3時限目	『日本の工業の技術力』 (社会科) 日本の大工場と中・小工場について知り、それぞれがもつ高い技術力がより優れた工業製品を作り出していること、工場同士が互いに技術協力をしていることについて知る	(1) 大工場の工業生産についてふりかえる (2) 中・小工場が作っている工業製品について予想させる (3) 中・小工場同士が互いに技術協力することによってより品質の高い製品を作り出していることを知る (4) 日本の工業生産技術が海外での工業製品生産においても役立っていることを知る	(1)～(4) 電子黒板 (自作PPT資料提示) (2)～(3) NHK for school映像資料 (4) ラオスで作られ、日本に輸入された実物の工業製品(入浴剤)
4・5時限目	『輸出入と加工貿易』 (社会科) 輸出入製品から、工業生産技術立国・日本の加工貿易について理解させる。また、他国との結び付きの事例としてラオスを取り扱い、工業生産における国情を理解させる	(1) 日本の貿易について「貿易ゲーム」をおこなう (2) 「加工貿易」という社会科用語を確認させる (3) 日本の輸出入の変遷から貿易摩擦について知る (4) 日本とラオスの工業における結び付きについてラオスの概要と国情も併せながら知る (5) ラオスが内陸国であるという点、工業生産高から見える国情より、ラオスにおける工業生産の在り方に疑問をもたせる	(1)貿易ゲーム資料 (2)～(5) 電子黒板 (自作PPT資料提示) (2)～(3) 社会科資料集 (4) 地図帳 (5) ラオスで作られ、日本に輸入された実物の工業製品(入浴剤)
6・7時限目	『「命を奪う工業製品」から「命を支える工業製品」へ』 (社会科／発展的な学習) 日本とラオスにおけるつながりやラオスの国情(不発弾処理等の現状等)を知り、持続可能な発展と、それらに対する日本の今後の関わり方の在り方について考えさせる	(1) ラオスの工業製品を紹介する (2) (1)における工業製品が何から、どのように作られたのか予想する (3) ラオスには、不発弾から生まれたスクラップメタルで作られた工業製品があることを知る (4) 不発弾処理と日本の支援について知る (5) 「命を奪う工業製品(爆弾)」が「命を支える工業製品(食事に使用するスプーン)」へと形を変えることについて情意による価値判断・意思決定をさせる	(1)～(5) 電子黒板 (自作PPT資料提示) (2)～(4) 不発弾から生まれたスクラップメタルで作られた実物の工業製品(スプーン・箸・アクセサリー等) (3)～(4) 映像資料 (参考資料頁に別途記載) (5) 自作ワークシート
8時限目	『世界のある国のお話』 (全校朝会) 全児童を対象に講話	(1) ラオスにおける研修から、「不発弾処理と日本の役割」の部分にスポットを当てながら、その現状と事実について知る	(1) 高ル ーメン プロジェクター (自作PPT資料提示)



6・7時限目：

「命を奪う工業製品」から「命を支える工業製品」へ (社会科)

ねらい：日本とラオスにおけるつながりやラオスの国情（不発弾処理等の現状等）を知り、持続可能な発展と、それらに対する日本の今後の支援の在り方について考えさせる。（思考・判断・表現）

<本時の流れ>

ラオスの工業製品を通して日本とラオスの今後の関わりの在り方について考える

学習活動と内容	指導上の留意点	使用教材と評価（◎）
1. 前時までの学習をふりかえる	・ラオスが内陸国であるという点や工業生産高から見える国情より、ラオスにおける工業生産の在り方に疑問をもたせる	・電子黒板(自作PPT資料提示) ・地図帳 ・前時のキーワードノートの頁
2. ラオスで生産された工業製品について知る	・各グループに実物資料をもたせ、触れさせることでより主体的な学習問題の作成に導く	・不発弾から作られたスプーン・箸・アクセサリーの実物資料①
3. 本時の学習問題を作成する	どうやってラオスのスプーン（工業製品）は作られたのだろうか？	
4. 作成した問題に対する予想を立てる	・海洋交通や道路網の整備面で課題があり、資源の乏しい内陸国での工業生産の方法論と原材料の調達手段について予想させる	・不発弾から作られたスプーン・箸・アクセサリーの実物資料②（グループごとの資料をローテーションさせながら）
5. 不発弾処理から生まれたスクラップメタルで作られた工業製品の資料でその実情を知る	・日本の不発弾処理支援にもふれながら、「命を奪う工業製品（爆弾）」が「命を支える工業製品（食事を使用するスプーン）」へと形を変えることについて情意による価値判断・意思決定をさせる	・ラオス全土地図 ・映像資料 ・自作ワークシート
6. 不発弾処理と日本の支援について知る	・ラオスの国情についてふりかえり、日本とラオスとの関わりについて、自分の意見をワークシートにまとめ、意見交換させる	◎工業製品の生産の在り方の多面性から日本とラオスのこれからの関わりについて、自分の言葉で価値判断・意思決定・自己表現を行うことができています。 (思考・判断・表現)
7. 学習のふりかえりを行う		
8. 次時の導入予告資料から次につながる疑問をもつ		

＜児童の反応・様子＞ ※ふりかえりの自作ワークシートより抜粋（一部ひらがな等を漢字表記に変更）

- ・ラオスの工業製品の生産について勉強していく中で、「戦争と平和」についてすごく考えました。そして、「日本とラオス」についてもたくさん考えました。日本もラオスも今は戦争をしていないかも知れないけれど、ラオスの人たちは今も不発弾と戦いながら生活しているのだとわかりました。だから、このスプーンを使うたびに平和について考える一杯にしていかないといけないなと思いました。
- ・日本の工業製品の生産と今回勉強した工業製品との違いについて考えました。日本の工業製品は「よりよいものをたくさんの人たちに知ってもらい、使ってもらうため（買ってもらうため）」に生産されていました。ラオスのスプーンは、きっと「平和について考えてもらうため」「不発弾が今も残っていることを知ってもらうため」に作られているのだと思いました。
- ・勉強したスプーンも工業製品です。でも、その前の姿の爆弾も工業製品です。最初、日本の自動車工業を勉強していたころには、考えてもいなかったことをこの勉強のまとめでは考えることができました。誰のための工業製品なのか、何のための工業製品なのか、これからも考え続けていきたいです。
- ・日本の工業技術がラオスの不発弾を壊していくことに役立っていると知って、工業技術はとても大切だと感じました。技術を伝えていくことでラオスの人たちだけでできることもたくさんあると思いました。それと、日本がラオスの不発弾の処理にたくさんのお金を使っていることを知って、とてもびっくりしました。

＜所感＞

本授業は、単元全体のまとめとしての位置付けで授業を展開していった。実践の目的の中でも前述したが、初等学校教育において、本研修で得たものをどこまで教科教育（ここでは社会科）の中で教材として活かしていけるのか、という可能性に迫った。

単元全ての時間において特別感のないものとして実践していくことは難しかったが、極力、教科教育の中の社会科として、【実物資料を提示する→その資料から子どもたちが主体的に本時の問題を見出す→作成した問題に対する予想をもつ→その予想を提示資料から確認する→確認した社会的事象からそれらに対する価値判断をおこない、意思決定をする→それらの内容を自己表現し、次時への問いを生み出す】というフォーマットに成り得る単元計画と授業構成で実施することができた。

また、まとめでは、「日本からの視点・ラオスからの視点」や「不発弾から考えたこと・スプーンから考えたこと」など、社会的事象を多面的に把握しながら、その立場に立った価値判断と意思決定を行うことができた児童が多かった点においては成果といえる。



不発弾から作られた
実物の工業製品にふれる児童



児童のグループごとに配布した実物資料
(不発弾から作られた工業製品)



学級の児童全員が手首にラオスリングを付けて
ラオスの社会的事象について主体的に思考を深めた



8時限目：世界のある国のお話（全校朝会）

ねらい：「不発弾処理と日本の役割」の部分にスポットを当てながら、ラオスで起こるその現状と事実について全学年で知る。

<本時の流れ>

初等学校教育における低学年から高学年まで該当学齢に応じてラオスで起こる社会的事象への理解を図る。

(PPT を使用しての講話進行により、スライドデータと補足説明にて記載)



1：「世界の国のお話」というテーマに沿って1月初旬の全校朝会において実施



2：導入で日本のお正月文化について例示



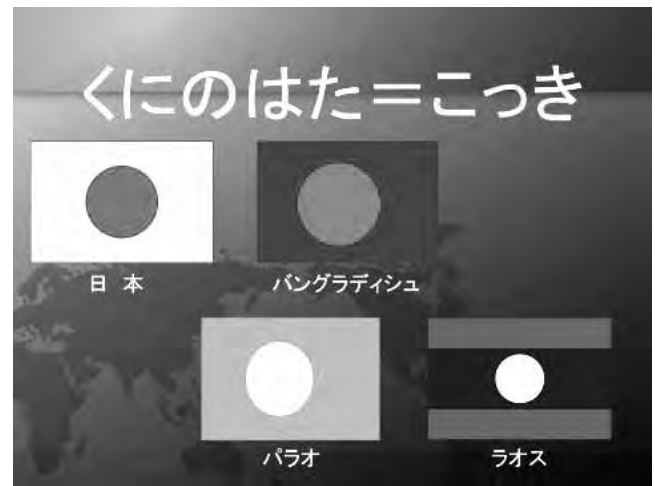
3：続けて筆者が在住経験のある中国を例示



4：中国のお正月文化について例示し、日本との共通点等を知る（異文化理解）



5：前述したような日本と文化の異なる国々の数をクイズ形式で提示（低・中学年向き）



6：国家には国旗が制定されていることを知らせ、類似した国旗からラオスへとつなげる



7：ラオスの国土と位置、日本からの移動距離や時間について知る



8：ラオス研修内容紹介①「サバナケット子ども文化センター」

ラオスのこどもたち



9：ラオス研修内容紹介②
「サバナケット子ども文化センター」

ラオスのこどもたち



10：ラオス研修内容紹介③
「サバナケット子ども文化センター」

ラオスでつくられているもの



11：ラオスで作られているものを紹介
(ここでは通常のスプーンとしての紹介)

ラオスでつくられているもの



12：作られるまでのプロセスを紹介①
(スプーンの原材料を見つける機械として紹介)

ラオスでつくられているもの

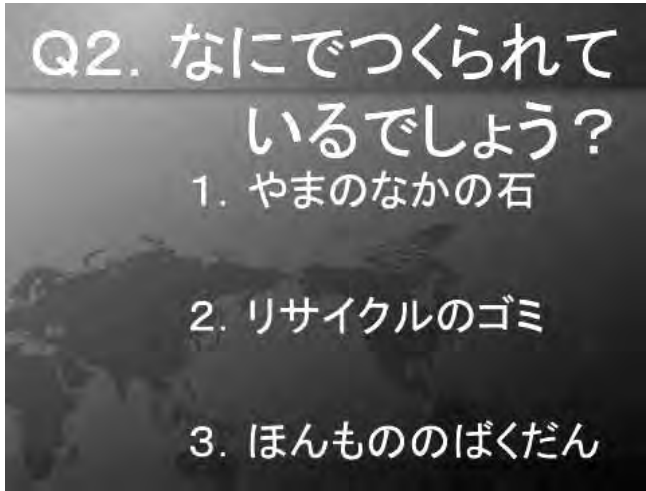


13：作られるまでのプロセスを紹介②
(ここで働いている人たちに注目させる)

ラオスでつくられているもの



14：作られるまでのプロセスを紹介③
(何かを爆発させることを動画で知らせる)



15：スプーンの原材料を考える
(全校挙手にて学齢に応じた理解度を把握する)



16：UXO のマークから社会的事象の本質に迫る



17：スプーンの以前の姿である不発弾について知る①



18：スプーンの以前の姿である不発弾について知る②



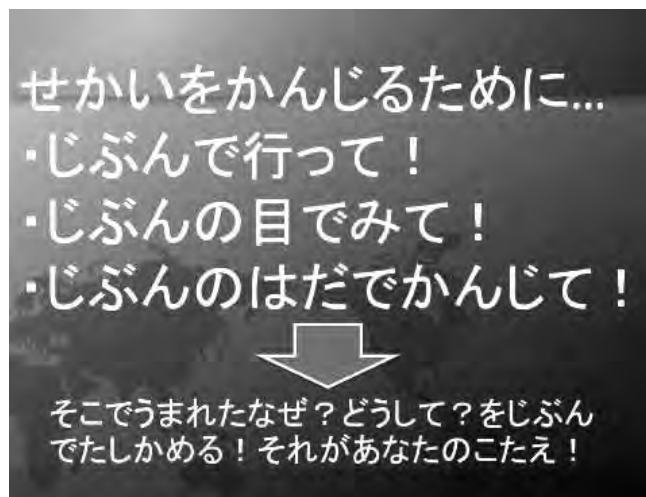
19：スプーンの以前の姿である不発弾について知る③
(UXO-LAO 事務所で撮影した動画資料)



20：スプーンの以前の姿である不発弾について知る④
(不発弾処理現場で撮影した動画資料)



21：不発弾とスプーンについて思考を深める



22：社会的事象における価値判断・意思決定の方法についてアドバイスを送る

<児童の反応・様子>

全校朝会という形式上、児童個々に詳細な意見等を集約できたわけではないが、所感発表児童は「昔の戦争から今に残された爆弾という恐ろしいものが、スプーンという形に変わって人々の生活を支えていることに驚きました。自分にはこれから何ができることなのか、考えてみたいです」と意見を述べた。

<所感>

15分間という限られた時間ではあったが、低・中・高学年児童とも、特に動画資料場面では学齢に応じて驚いた様子の反応があった。児童の既存知識や教養からギャップのある社会的事象を資料提示することによって、児童はそれらの事象を「自分ごと」に近づけながら捉えることができた。学齢を越えて複数学年に今回のような社会的事象を教示していく場合は、教科横断的な視点も踏まえた構成が必要であると感じた。

全体を通しての成果と課題

本研修と授業実践を通じて考察した成果と課題についてそれぞれ以下の点を挙げたい。

<成果>

教師の海外経験を初等学校教育の授業に落とし込む中で、今回例示したフォーマットに沿って展開することで児童実態等は鑑みていく必要性はあるが、その経験を特別感のない展開の形の中で、評価を伴った授業にしていくことは可能であったといえる。

<課題>

教師の海外経験を児童それぞれの思考の中で「自分ごと」と認識させていく上での資料の精選におけるプロセスは課題であるといえる。該当授業でのオリジナル資料活用については、児童にその資料から何を掴ませたいのかを教師が事前に明確化しておくことが単元のまとめに向けて非常に重要であると感じた。

<本研修に際する謝辞>

今回、「2016年度JICA中国ラオス教師海外研修」という貴重な研修機会を与えて下さったJICA中国様、私の在勤校である東広島市立八本松小学校には深甚の謝意を表す次第であります。

また、共に研修に参加したかけがえないメンバーの皆様、そして本研修を担当して下さいましたJICA中国市民参加協力課・開発教育支援事業担当者の新川美佐絵様には、心より御礼申し上げます。本当に有難うございました。

【書籍】

- ・青山 利勝「ラオス—インドシナ緩衝国家の肖像」（1995）中公新書
- ・日本地雷処理を支援する会「オヤジたちの国際貢献—35、256発の不発弾処理1、732回の爆破処理」（2005）
- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 社会編」（2008）東洋館出版社
- ・文部科学省「中学校学習指導要領解説 社会編」（2008）日本文教出版
- ・地球の歩き方編集室「地球の歩き方 ラオス2016～2017」（2015）ダイヤモンド・ビッグ社
- ・JICA中国「平成27年度ラオス教師海外研修授業実践報告書」（2016）
- ・帝国書院編集部「新詳高等地図」（2016）

【映像資料】

- ・「ぐっと地球便 ラオス」
<https://www.youtube.com/watch?v=NrNOtIFAYSA>
- ・「ラオス不発弾撤去 シエンクアン県パーサイ郡」
<https://www.youtube.com/watch?v=WceFVtllK90>
- ・「No More Landmines 地雷畑からのメッセージ」
<https://www.youtube.com/watch?v=8OdVGyEH7rQ>

【webサイト】

- ・「外務省 ラオス人民民主共和国」
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/laos/>
- ・「Wikipedia ラオス」
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A9%E3%82%AA%E3%82%B9>
- ・「公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会 ラオスの教育問題」
http://sva.or.jp/activity/oversea/laos/background.html?gclid=CjwKEAiAqJDBRCG5KK6hq_juDwSjABRm03hjwiCCSZsclti6-VGSVDFJULQCGx38dJ40CG9W_9cghoCBdfw_wcB
- ・「日本地雷処理を支援する会 ラオスにおける不発弾処理事業」
<http://jmas-ngo.jp/specialtopic/309-piceup1-3>
- ・「ナショナルジオグラフィック日本版 ラオス空爆の時代を越えて」
http://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/magazine/15/072200007/072300003/?P=2&img=ph3.jpg&ST=m_magazine
- ・「日本アセアンセンター ラオスの工業団地リスト」
<http://www.asean.or.jp/ja/asean/know/country/laos/invest/industrialestate/index.html.1.html>
- ・「JICA ラオス国工業開発計画準備調査／ファイナル・レポート」
http://open_jicareport.jica.go.jp/pdf/12031407.pdf#search=%27%E3%83%A9%E3%82%AA%E3%82%B9+%E5%B7%A5%E6%A5%AD%27
- ・「DEAR 開発教育協会」
<http://www.dear.or.jp>

世界を知ろう！感じよう！

◆所属先	広島市立戸坂小学校	◆実践教科	総合的な学習の時間
◆氏名	横矢 綾乃	◆対象学年	小学6年生
◆担当教科	全教科	◆対象人数	31名（122名）

■実践の目的

- ・ラオスという1つの国の文化や生活を知ることにより、人や国に対する多面的な考え方ができるようにする。
- ・世界で起きている問題や状況について、話を聞いたり、ワークショップをしたりすることを通して、世界に関心をもつとともに、自分にできることを考えようとする態度を養う。
- ・世界の人々の暮らしに寄り添って考えることにより、自分の家族や友達など、身近な人々の大切さに気付くことができるようにする。

■授業の構成

時限・対象	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目	ラオスってどんな国だろう？ ・ラオスの文化や生活を知る ・ラオスの人や国に対するイメージの変化に気づく	(1) ラオスの国や人々に対するイメージや思いつくキーワードを個人で付箋に書き出す (2) グループで共有し、付箋をグループ分けする (3) ラオスクイズをする (国旗・挨拶・托鉢・食べ物など) (4) 写真のスライドを見ながら、ラオスの文化や生活を知る (5) ラオス575（俳句）を作り、交流する	・シン (1) 付箋 (3)・写真、動画 ・世界地図 (4)・写真・動画 (5)・575を書く紙 ・ワークシート
2時限目	「ラオスごろく」をやってみよう ・ラオス文化や生活を、楽しみながら感じる	(1) グループで、お土産で買ってきたものや写真などを使用して、すごろくをしながら文化を体験する (2) 振り返りをする (3) 不発弾というラオスの課題を知り、次時への見通しを持つ	(1)・セパタクロー ・入浴剤 ・ラオスの教科書 ・動画 ・不発弾キーホルダー ・すごろくセット
3時限目	不発弾から見えるラオス ・不発弾の歴史や現状を知り、ラオスには悲しい歴史があるとともに、そこで明るく生きている人々がいることに気づく	(1) 前時で使用した不発弾のキーホルダーは何からできているか知る (2) ラオスでの不発弾の歴史や現状を、写真や動画などを見ながら知る (3) 不発弾クイズをして、日本にも不発弾があることや、その量などを知る	(1) 不発弾キーホルダー (2)・写真 ・爆発の瞬間の動画

時限・対象	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
4時限目	世界の今を知ろう ～世界がもし100人の村だったら～ ・ワークショップを通して今の世界の現状を知る ・世界に目を向けるとともに、自分たちの生活を振り返る	(1) 「世界がもし100人の村だった」のワークショップを行う ・男女比 ・年齢比 ・食糧問題 ・貧富の差 ・言語・識字率 など (2) 原作を読み、学習の振り返りをする	○「ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら」(開発教育協会) (1)・役割カード ・ひも ・お金カード ・ペットボトル
5時限目	1枚のチョコレートの向こうに ～児童労働の真実～ ・児童労働をしている子どもたちがいることを知る ・自分たちにできそうなことについて、ダイヤモンドランキングで考える	(1) 市販のチョコレートを試食する (2) 児童労働についての動画を視聴する (3) ダイヤモンドランキングを使って、「効果が大きい順」か「自分にやりやすい順」のどちらかを選び、自分たちにできることを考える (4) 友達の意見と交流し、様々な考えがあることを知る (5) 学習の振り返りをする	○「おいしいチョコレートの真実 第6版」 (特定非営利活動法人ACE) (1) チョコレート (2) 写真・動画 (3) ランキングシート
6時限目	世界で活躍する戸坂っ子 ・ゲストティーチャーのお話を聞いて、より多くの世界の国々の生活を知り、関心を持つ ・世界を舞台にして働く仕事の苦労ややりがいを知る	(1) ゲストティーチャー(戸坂小学校出身のJICAラオス事務局の方)のお話を聞く ・協力隊時代の国での生活の様子 ・シリアの人々の生活 ・質疑応答 (2) 自分の家族や身の回りの人とのつながりを振り返る (3) お礼の手紙を書く	(1)・スライドショー(写真・動画) ・現地の伝統産業品



2時限目：「ラオスごろくをやってみよう！」

ねらい：楽しみながらラオスの文化に触れることを通して、その国のよさに気づくことができる。

<本時の流れ>

学習活動	指導上の留意点(☆)と評価(★)
1 前時でラオスについて学んだことや感想を振り返る	☆学習で使ったイメージマップや数名の学習カードから感想を振り返り、想起しやすくする

2 本時の課題を確認する

「ラオスごろく」で、とことんラオスを感じよう！

- ・「ラオスごろく」のルールを確認する
- ・注意事項を確認する

☆目や耳など様々な感覚を使って、ラオスの様々な文化を楽しむことを伝える
 ☆早くゴールすることが目的ではなく、じっくり文化を楽しむことが大切だと伝える

3 「ラオスごろく」を班で行う

- ・セパタクローをやってみる
- ・ラオスの民謡を聞く
- ・ラオスの子どもの教科書の問題を解く など

☆楽しくラオスの文化を感じることができるよう、机間指導を行うとともに、感想を引き出す

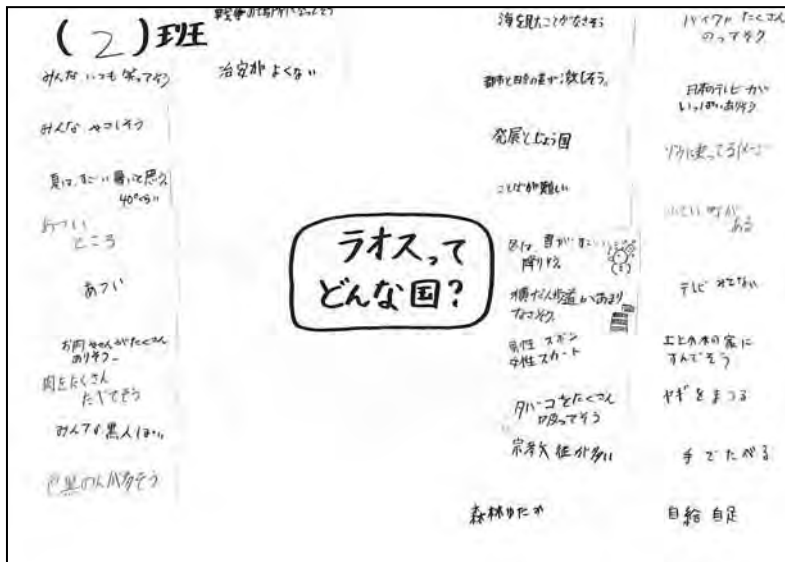
4 学習を振り返る

- ・個人で学習の感想を書く。
- ・班で感想を共有する。
- ・全体で共有する。
- ・不発弾についてのパワーポイントによる教師の補足説明を聞き、ラオスには悲しい歴史もあることを知り、次時への見通しをもたせる

☆ラオスに対して持っていた最初のイメージと比べて変化したことも書くように伝える

★日本の文化と比較しながら、ラオスの文化の良さに気づくことができている
 (観察・学習カード)

(1) 第1時で用いた、ラオスのイメージマップ



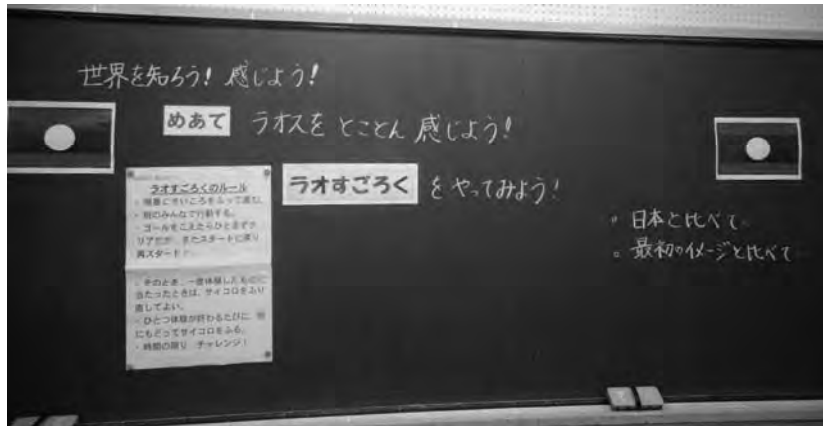
資料1 子どもたちが描いたイメージマップ

子どもたちの言葉

- ・海を見たことがなさそう
- ・発展途上国
- ・自給自足の生活をしていそう
- ・暑い国
- ・変な字で言葉が難しそう
- ・にぎやかで楽しそう
- ・戦争をしていそう 治安が悪そう

(2) 「ラオスごろく」 … 資料2 参照

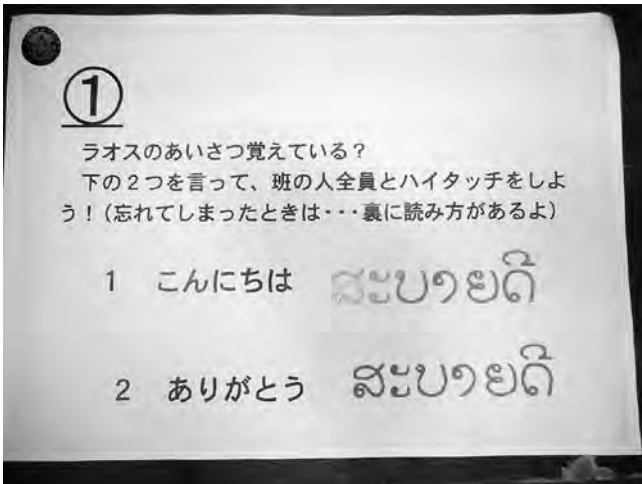
(3)



第2時の板書

(4) ワークシート … 資料3 参照

(5) 「ラオスごろく」で用いた教材(一部)



ラオスの言葉であいさつ



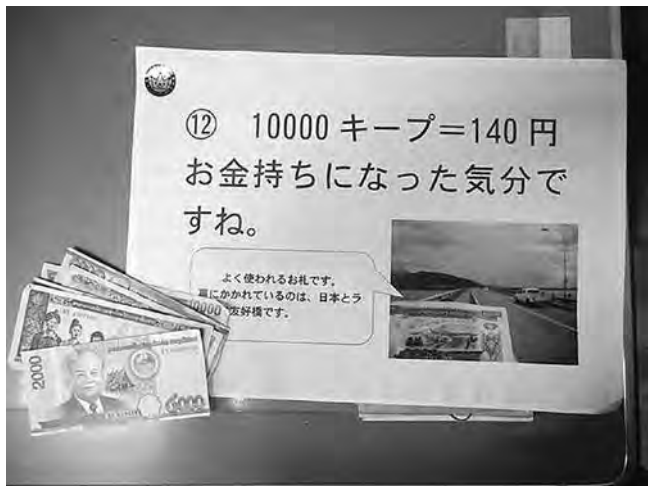
ラオスの新聞・小学校の教科書



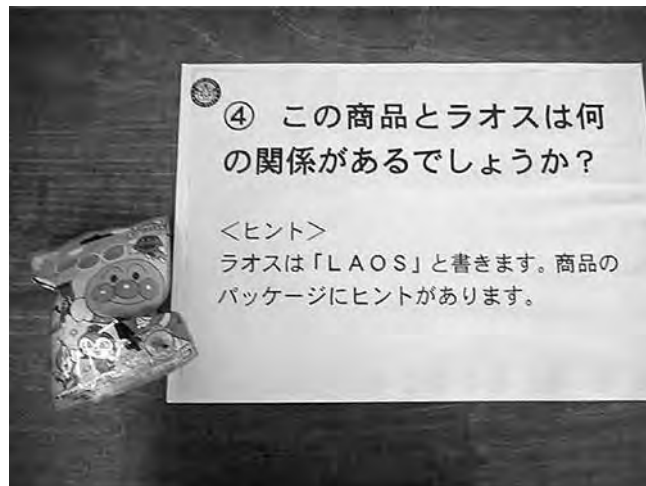
不発弾からできたキーホルダー



セパタクローでキャッチボール



ラオスのお金



ラオスの日系企業で作られた入浴剤

その他の教材の工夫

- ・ラオスの民謡「チャンパーの花」という曲が聞けるコーナーや、ラオスでもらったおしぼりや物のおいをかいてみるコーナーなど、できるだけたくさん感覚を使い、ラオスを感じられるようにした。
- ・班ごとに行動することにより、意見を出し合いながら、楽しみながら活動することができる。
- ・番号の札を、教室の中に散らばらせ、探すことを楽しめるようにした。また、クイズ形式の内容も取り入れ、札を裏にひっくり返すと、ヒントや答えが分かるようにした。
- ・体を動かすコーナーの場所を離したり、各班の机でもできる内容を取り入れたことにより、安全に楽しむことができるようにした。
- ・不発弾のキーホルダーの問題では、あえて正解を札に書いておかず、授業の最後に、「不発弾からできている」ということを伝え、ラオスに悲しい歴史があることを想像させ、次時へつなげた。
- ・最後の5分は、できていないところを回って、じっくり体験してよいこととした。
- ・すごろくの中に「ラオバッグ（ラオス袋）をあけてみよう」という項目を作り、着席してみんなで書いたり考えたりすることができるようにした。

(ラオバッグの内容)

- * ラオスの文字の練習帳のコピーを使ってなぞってみる。
- * ラオスの体育の教科書の体操のページのコピーを見て、班のみんなで体操を真似してみる。
- * ラオスの小学6年生の教科書の問題（算数：分数）を解いてみる。

<児童の反応・様子>



イメージマップを作っている様子



ラオバッグの問題をみんなで解く



みんなで触ってみて考える



体操をやっている様子

<今日の感想>

今日の学習で考えたことや感じたこと、もっと知りたいことなどを書きましょう。

今日の学習で、最初のイメージ(日本とはあまりかかっている)というのがまったくさうんだということが分かりました。浴ざいなんかも、ラオスで作られているんだとびっくりしました。ラオスは、日本と比べて新聞紙がうすくて、文字が小さくて、まるで暗号のようでした。ラオスの人から見て日本の新聞は、もっと暗号のように見えるのかなと思いました。

今日の学習で考えたことや感じたこと、もっと知りたいことなどを書きましょう。

ラオスの言葉や文字は、日本から見れば少し変わったもののように見えるけれど、ラオスの人には日本語がそういうものに見えるかもしれないと思った。ラオスには、セマクローヤ、もち米を入れて蒸すかこのように、竹など自然の素材で作られたものが多いということが分かった。わたしは、始め、ラオスに対して、生活に困っている人多そうというイメージがあったが、豊かでおたやかな国だと分かった。

学習の感想

その他にも…

- ・ラオスのお金に、日本との友好橋が写っていたので、ラオスのお金になるほど、ラオスにとって日本は大切な存在なんだなと思った。
- ・ラオスはインドのような国かと思っていたけれど、ラオスを知ることによって、たくさん日本とちがうところや似ているところがあった。
- ・ラオスの子どもたちも、ぼくらと同じような勉強をしていた。似ているところやちがうところがたくさん分かって、ラオスが楽しそうな国だなあと思った。いつかぼくも行ってみたい。
- ・最初は、ラオスのおしぼりをかいだとき、「変なおい！」と思った。けれど、もしかしたらラオスの人にとっては、日本のおしぼりが「変なおい」と感じるのかもしれない。いろんな文化にふれることができた。

<所感>

私は、以下の3つの願いを意識して今回の授業をつくった。


- ・最初、ラオスに対して持っていたイメージとのギャップに気づいてほしい。
- ・五感を使ってラオスを感じるにより、ラオスを身近に感じ、好きになってほしい。
- ・文化や考え方には色々な見方があり、それぞれの良さがあり、それを認め合う大切さに気付いてほしい。

ラオスの滞在中、たくさんの教材に出会い、それをできるだけたくさん子どもたちに感じてもらいたいと思い、すごろくという形を選んだ。さらに、高学年という発達段階をふまえ、「楽しかった」「おもしろい」という感想だけでなく、日本との文化の違いや、多角的な考え方をもらいたかった。

楽しくすごろくをしながら文化に触れる様子が見られたこと、相手の文化の立場に立って感想を書く子が多くいたことから、おおよそのねらいは達成できたと考える。準備は大変だが、他の国の教材でも今後活用することができると思った。

Let's ラオス ごろく! 6-2 ()班

☆ 出た目の分だけ進みましょう。体験したところにはシールをはっていきう!

<p>スタート! ⇒</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>ラオスの旅に行ってらっしゃい! ラオスはすごいぞ!</p>  </div>	<p>1 ①の場所へ GO! ラオスのあいさつ言え るかな?</p>	<p>2 ②の場所へ GO! これは、何に使う道具 だろう?</p>	<p>3 ③の場所へ GO! 「セパタクロー」で遊ん でみよう!</p>	<p>4 ④の場所へ GO! この入浴剤は、日本と ある関係があります。 ↓</p>
<p>9 JICA スタッフ新川さんの所へ 行って、 ①「サバイナイー!」と笑顔でさ わやかにあいさつしよう。 ②「ラオスでの一番の思い出は 何ですか?」とインタビュー。</p>	<p>8 パソコンのところへ GO! 「チャンパの花」という ラオスの民謡(みんなよ う)を聞いてみよう。</p>	<p>7 ⑦へ GO! ラオスの新聞と幼稚園 の英語の教科書です。 手にとって読んでみよ う。</p>	<p>6 ⑥へ GO! ちよっと一休み。 ラオスの飛行機でもらったお しほいです。ちよっと外国っぽ いにおいかしない? ☆</p>	<p>←5 ⑤へ GO! このキーホルダーは、 ある物からできていま す。何だと思いま すか?</p>
<p>10 ラオス袋の⑩を出して! ラオスの言葉を書く練習を してみよう。(1人1回は書 いてごらん)</p>	<p>11 ラオス袋⑪を出して! これはラオスの体育の教科書で す。1~8の体操を1つ選んで、 みんなまでやってみよう!</p>	<p>12 ⑫へ Go! これはラオスのお金で す。「キーフ」という単 位です。</p>	<p>13 ラオス袋⑬ ラオスの6年生の算数 の問題です。解けるか な?</p>	<p>⇒ ゴール!! ラオスをたっぷり感じましたか? まだ終わっていないところがあれば、 スタートからもう一度☆</p>

世界を知ろう！感じよう！②

ラオスをとことん感じよう

月 日 () 名前 ()

＜ラオスごろくのルール＞

- ・ 順番にさいころをふって進む
- ・ 班のみんなで行動する。
- ・ ゴールをこえたらひとまずクリアだが、またスタートに戻り、再スタート！
- ・ そのとき、一度体験したものに再度当たったときは、サイコロをふり直してよい。
- ・ ひとつ体験が終わるたびに、班にもどってサイコロをふる。
- ・ 体験ブースにある説明の紙は、答え合わせの時や、どうしてもわからないときにひっくり返す。みんなで答えを出す、やってみてからひっくり返すといいよ！
- ・ 時間の限り、何度もチャレンジ！

＜今日の感想＞

今日の学習で考えたことや感じたこと、もっと知りたいことなどを書きましょう。

3時限目：「不発弾から見えるラオス」

ねらい：不発弾の歴史や現状を知り、ラオスには悲しい歴史があるとともに、そこで明るく生きている人々がいることに気づく。

<本時の流れ>

- (1) 前時で用いた不発弾からできたキーホルダーを見せ、どのような歴史があったか想像させる。
- (2) ラオスの不発弾についての写真や動画を見る。
 - ・ベトナム戦争の歴史
 - ・不発弾の被害の現状
 - ・日本での不発弾の被害や処理の様子
- (3) 授業の感想を書き、全体で内容を共有する。



不発弾処理の現場



日本からの支援

<児童の反応・様子>

子どもたちの学習後の感想

- ・戦争をするということは、戦争をしている時代だけでなく、そのあとの時代の人にも大きな影響を与えていることが分かった。また、日本にも不発弾があると聞いて、他人事ではなく、自分にも関係のある話だなと思った。戦争を乗り越えたラオスをもっともっと知りたいと思った。
- ・小さい1個の爆弾の大きな爆発の音を聞いて、怖かったです。その爆弾が雨のようにふっていたことを想像したら、恐怖しかなかったと思います。その爆弾処理を日本が手伝えているのはうれしいけれど、確かに先生が言ったように、支援と自立は難しいなあと思いました。日本もラオスも、完璧な平和がくるのは、まだかなり先だなと思いました。
- ・ラオスの人は、日常に爆弾があるようなものなので、大変だろうなあと思いました。でも、不発弾を工夫して再利用していたり、植木ばちにしていたり、「回避教育」では楽しい授業をしていたりして、おもしろかったです。ラオスの人たちは、とても前向きで、すごく強い国だと思いました。

<所感>

「ラオスは楽しい国」という印象で授業を終えずに、あえてラオスの悲しい歴史の一部も知ってほしいと思い、授業を構成した。子どもたちの中には「やっぱり少し怖いと思った」や「大きな爆発にびっくりして怖かった」という意見もあったが、その中でも前向きに生きているラオスの人々の強さや、日本にも不発弾があるという事実を

知って、「助け合っていきたい」「ラオスのことをもっと知りたいと思った」という感想も多く見られた。

子どもたちの発達段階に応じて、負の部分の事実も正しく知ることは大切であると感じた。そして、他人事ではないことに気づき、世界や日本の「今」にきちんと向き合っていく機会となった。



6時限目：「世界で活躍する戸坂っ子」

ねらい

- ・ゲストティーチャーのお話を聞いて、より多くの世界の国々の生活を知り、関心を持つ。
- ・世界を舞台にして働く仕事の苦勞ややりがいを知る。

<本時の流れ>

- (1) ゲストティーチャー（戸坂小学校出身のJICAラオス事務所の方）のお話を聞く
 - ・青年海外協力隊をしていた時のパプアニューギニアでの生活の様子
 - ・シリアの人々の生活
 - ・質疑応答
- (2) 自分の家族や身の回りの人とのつながりを振り返る
- (3) お礼の手紙を書く



お話をされる様子

<子どもたちの反応・様子>

- ・ラオスとはまたちがう国の文化が知れてよかったです。海がとてもきれいで驚きました。
- ・シリアは、ニュースとかでこわい国だと思っていたけれど、かわいい笑顔の子どもとかがたくさんいて、すごくいい国なんだなあと思いました。
- ・ニュースだけじゃわからないことがたくさんありました。そして、みんな家族を大切にしていることが分かりました。ぼくも、正月におばあちゃんちにも行くので、自分の家族を大切にしたいと思いました。
- ・戸坂出身の人で、こんなに世界中で働いている人がいるなんておどろきました。私も、将来青年海外協力隊に参加して、世界中で活躍できる看護師さんになりたいです。

<所感>

ラオスで出会った事務所の方と、こうして地元でまたお会いできる機会をいただき、大変貴重な経験だった。子どもたちにとっても、直接世界の話聞いたことは大変有意義であった。そして、何より、世界を知って自分の家族や自分の国に立ち返って考える、ということができてよかった。冬休みを前に、家族と過ごす時間の大切さや日本の文化のすばらしさを感じることができた。今後もつながりを大切にし、子どもたちにできるだけ「生の声」を伝えることを大切にしていきたい。

全体を通しての成果と課題

<成果>

今回の授業実践を通しての成果は以下の2つが挙げられる。

1つ目は、単元構成を工夫し、強弱をつけることにより、子どもたちがより世界に関心をもち、身近なものとして考えることができたことである。1つの国の楽しい一面から学習に入り、負の一面を知る、そこから世界に目を向けて、最後に自分の家族や友達のことを考える、という流れを意識して作った。取り扱う内容も厳選し、子どもたちにどのようなことを感じてほしいか、最終的な姿を意識して授業を行うことができた。

2つ目は、広い世界や外国の学習をすることにより、子どもたちも私自身も、身近な人の大切さに気付くことができたことである。体験や経験で終わるのではなく、そこから感じたことをしっかりと文章にし、ペアや全体で共有することにより、より価値あるものにすることができた。共有の場面でも、相手の考えを否定せず、受け入れる姿勢を教師が率先して見せ、日頃の学習の中での「認め合う姿」とつなげることが大切だと感じた。広い世界を知って初めて、身近な人の大切さや自分たちの生活のありがたさを感じることができた。さらに、学習した内容を、教室掲示や学年掲示で取り扱ったり、学級通信に掲載したりすることにより、家庭でも話題として挙げていただくことができたことは大きな成果であった。

<課題>

課題は以下の2つである。

1つ目は、教材の精選をすることである。膨大な量の教材や伝えたいことがあり、それをすべて子どもたちに伝えることは不可能であり、本当に伝えたいこともぼやけてしまう。授業づくりの段階で精選をしたが、授業をするうちに欲張って色々伝えすぎてしまい、混乱した子どももいたように思う。

2つ目は、無理のない学習計画を立てることである。今回は総合的な学習の時間としてひとつの単元を作ったが、今後継続して国際理解教育を行っていくためには、部分的に各教科の単元の中でつながるところを意識して組み込んでいくことが大切だと感じた。長期的に取り入れることにより、さらに子どもたちの関心の幅も広がっていくと考えられる。

<今後取り組みたいこと>

- ・6年生は、様々な教科や行事と合科的に取り組むことができるため、社会の政治分野や、進路選択などでもまた再度取り上げたい。
- ・ワークショップ型や討論の学習にも挑戦し、世界の問題について考える機会を増やしたい。

【書籍】

- ・ JICA中国「2015年度 ラオス教師海外研修 授業実践報告書」

【教材】

- ・ 「ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら 第5版」(2016) / 開発教育協会
- ・ 「おいしいチョコレートの真実 第6版」(2013) / 特定非営利活動法人ACE

【映像資料】

- ・ 「その子 谷川俊太郎」
http://video.search.yahoo.co.jp/search?p=%E3%81%9D%E3%81%AE%E3%81%93&aq=-1&ei=UTF-8&fr=top_ga1_sa
- ・ 「カカオ農園で搾取」
http://video.search.yahoo.co.jp/search;_ylt=A2RCA.DUCnNYQXQA1RmHrPN7?p=%E3%83%81%E3%83%A7%E3%82%B3%E3%83%AC%E3%83%BC%E3%83%88%E3%80%80%E5%85%90%E7%AB%A5%E5%8A%B4%E5%83%8D&aq=-1&oq=&ei=UTF-8
- ・ 「カカオの真実」
http://video.search.yahoo.co.jp/search;_ylt=A2RCA.DUCnNYQXQA1RmHrPN7?p=%E3%83%81%E3%83%A7%E3%82%B3%E3%83%AC%E3%83%BC%E3%83%88%E3%80%80%E5%85%90%E7%AB%A5%E5%8A%B4%E5%83%8D&aq=-1&oq=&ei=UTF-8

【webサイト】

- ・ 「戦争のあとに残るもの ラオスの不発弾」
http://nantokashinakya.jp/member_reports/35_kimidori_laosvietnam02_01.php
- ・ 「ラオス 死と隣り合わせで生きること」
<http://www.jca.apc.org/banmines/materials/cluster%20bomb/laos.html>
- ・ 「ganas アジア紛争」
<http://www.ganas.or.jp/20160731uxo/>

わたしたちのまち

◆所属先	廿日市市立津田小学校	◆実践教科	生活単元学習
◆氏名	久藤 映	◆対象学年	特別支援学級（知的障害） 1、2、3年・全学年
◆担当教科	全教科	◆対象人数	5名・141名

■実践の目的

- 住んでいる町、市、県、国のことを調べ、自分なりの方法でわかったことを話したり、まとめたりする力を育てる。
- 学習経験を生かし、進んで自分の住んでいる町、市、県、国のことを知ろうとする態度を育てる。
 - ・ラオスのことについて知り、外国への興味をもつ。
 - ・ラオスと日本の違いに気づき、日本のよさと、ラオスのよさに気づく。

■授業の構成

時限・対象	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1～8時限目	○自分の町を知ろう ・交通ルールを学習する。校区を探検する(3) ・見つけたことを新聞にまとめたり、校区の地図を作ったりする(4) ・見つけたことを発表する(1)	(1) 道路標識や、信号、横断歩道などの意味を学習する (2) 校区探検をして、まちの建物や施設を見つめる。デジカメで写真を撮る(3年生) (3) 校区探検でわかったことを写真を使って新聞を作る(1、2年) 地図を作る(3年) (4) わかったことを新聞や地図、写真を使って発表する	・地図 ・写真
9～24時限目	○まちにある公共施設を使おう ・図書館の使い方を練習する。図書館利用のマナーを知る(3) ・図書館で本を借りる、本を返却する、読み聞かせ会に参加する、お礼状を書く(7) ・郵便局の仕事を知る、年賀状を買う、年賀状を書く、郵便局で葉書を投函する(5)	(1) 図書館の使い方を学習する(挨拶・本の扱い方・借り方など) (2) マナーを守り、図書館の本を自分で選んで借りる、返却する、読み聞かせ会に参加する (3) 図書館の方にお礼状を書く (4) 自分で年賀状を郵便局で買い、感謝の気持ちを伝えたい相手に年賀状を書く (5) 交通ルールに気を付けて道路を歩いて、郵便局まで年賀状を投函しに行く	・年賀状 ・お金の模型 ・図書貸出カード

時限・対象	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
25~28時限目	<p>○わたしたちのまちからとくをみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廿日市市の地図を見て、気づいたことを発表する(1) ・広島県の中での、自分の町の場所を知る。四方位を知る(1) ・日本地図を見て、広島の場合や、日本の大きさや形を知る(1) 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 廿日市市の地図を見て、気づいたことをみんなで見つける。自分の町の位置を確認する (2) 廿日市市の場所を広島県の地図の中でどの位置にあるのかを知る。四方位を知る (3) 日本全体での広島県の位置や、日本が世界の中でどのぐらいの大きさなのかを知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図 ・副読本(わたしたちの廿日市) ・ドラえもんのにほんちず ・写真 ・プロジェクター
29~30時限目	<p>○ラオスについて知ろう。ラオスと日本の違いをみつけよう(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラオスのことを知ること、日本との違いに気づくことでラオスのよいところと、日本のよいところを見つける ・ラオスを始めとするいろいろな国のことを知ろうとする 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 今まで出てきたラオスのことを思い出す (2) セパタクローごっこをする (3) 学習のめあてと、学習の流れを確認する (4) クイズを解きながら、ラオスを旅するという設定で学習を進める (5) ふりかえりをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真 ・プロジェクター ・長縄 ・セパタクローボール ・タマリンドキャンディー
30~31時限目	<p>○ラオスの料理を食べてみよう(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラオスの食文化を体験して学習をすることで、世界にはいろいろな文化があることに気づくことができる ・いろいろな国の文化を知ろうとする態度を育てる 	<ol style="list-style-type: none"> (1) もち米を入れるティップ・カオを見せ、何に使うのかを考えさせる (2) 実際にティップ・カオに入っているもち米を手で食べる。ラープも一緒に試食をする (3) 感想を友達と交流する (4) わかったことや気づきを「生たんカード(生活単元学習カード)」に書いてまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真 ・ティップ・カオ ・カオ・ニャオ ・ラープ
32時限目	<p>○みんなでラオスの話を聞いて、ふりかえりをする(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで学習してきたことを想起し、これからも広い視野をもって自分の住んでいる町について知ろうとする態度を育てる 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 全校朝会で教師の話を聞く (2) 感想を交流する(心に残ったことなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真 ・プロジェクター



29～30時限目：

「ラオスについて知ろう ラオスと日本の違いをみつけよう！」

ねらい：ラオスと日本との違いに気づき、ラオスのよいところと、日本のよいところを見つける。ラオスを始めとするいろいろな国のことを知ろうとする。

<本時の流れ>

- (1) 今まで、お話に出てきたラオスのことを思い出す。（※廊下に置いてある、セパタクローのボールや、以前食べたタマリンドキャンディー、ラオスの写真を見せて想起させる）
- (2) 実際に「セパタクローごっこ（ボールを蹴っても投げてもよい）」をする。（※教室の後ろのスペースで行う。足でボールを蹴るのが困難な児童は手でボールを渡してもよいことを伝えておく）
- (3) 学習のめあてと、学習の流れを確認する。（※見通しをもって学習ができるよう、本時の流れを提示する。児童の実態に合わせてめあてを設定する）

ラオスのよいところ、にほんのよいところを みつけよう。

- (4) クイズを解きながらラオスを旅をするという設定で、学習を進める。

第1問 みなさんはラオスに行きます。どうやって行けばよいでしょうか。

- ①自転車
- ②電車
- ③飛行機

答えを確認後、搭乗券をもらい、スクリーンに映された映像を見ながら飛行機での旅を楽しむ。



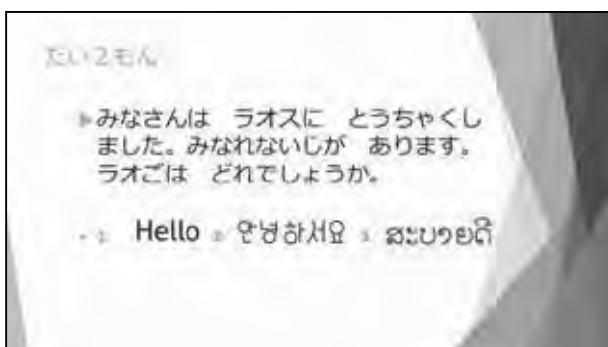


<児童の反応・様子>

- ・ラオスは遠いところにあるということは知っているようで、飛行機を選んでいる子がほとんどであった。「遠いところには飛行機で行く」と思っていたようだ。
- ・社会見学で電車に乗った後に授業をしたので、一人だけ電車を選んでしまっていた。
- ・津田航空の搭乗券を手渡すととても嬉しそうであった。本当に飛行機に乗れる券だと思っていたようだ。
- ・空から見た川が茶色いことや、機内食が出ることに驚いていた。

第2問 ラオスに到着しました。見慣れない字が街の中にあふれています。ラオスでは「ラオ語」を話します。ラオ語はどれでしょうか。

(ありがとうを ①英語、②韓国語、③ラオ語で表記する)

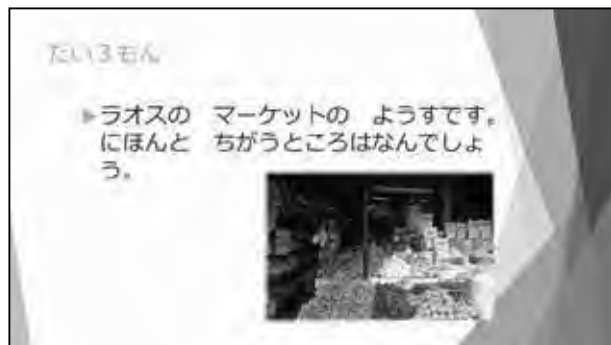


<児童の反応・様子>

- ・外国語活動で、英語にはふれているので、2、3年生の児童は間違えなかった。教室の外のラオスコーナーに「サバイディー」が貼ってあるので、なんとなくラオ語がどれなのかがわかっていたようだ。
- ・「こんなのかんたん」と喜んでた。
- ・「サバイディー」と挨拶をするのが、児童の間で流行っているなので、この問題が出ると嬉しそうに何度も「サバイディー」と言っていた。

第3問 これはラオスのマーケットの様子です。日本と違うところは何でしょう。

- ・写真を配り、日本と違うなと思ったところにマーカーで○印をつけさせる。グループで活動をする。
- ※ラオスのマーケットの様子を数枚ずつグループに渡して、日本と違ってびっくりしたところにマーカーで○印をつけさせる。
- ※グループで見つけたことを発表させる。グループは、3年生をリーダーとして構成する。

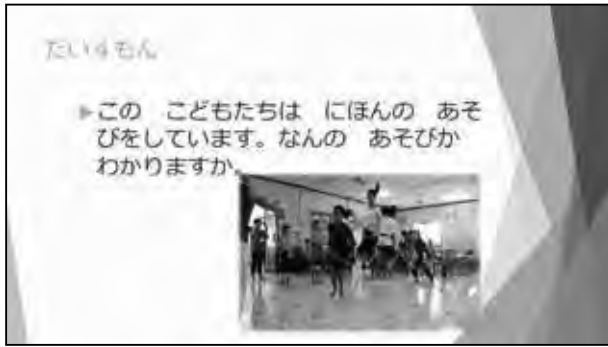


<児童の反応・様子>

- ・児童は一人一枚、「日本とちがうところ」がわかる写真を黒板から選び、「ここだ」と思ったところにマーカーで○を描いて囲んでいた。
- ・肉や魚の写真を見て、「おいしそう」「お肉がいっぱいある」「魚がどんな味なのか食べたい」「ラオスに行きたい」とニコニコして言っていた。
- ・服の写真を選んだ児童は、「学校のかばんが自由でいいな」と言っていた。
- ・全員が写真に対して肯定的な感想を持っていた。

第4問 この写真の子どもたちは、ある日本の遊びをしています。何かわかりますか。

- ・だるまさんがころんだ、けん玉、長縄、おりがみをしている写真を見せる。
- ※子どもたちにも同じ遊びを体験させる。（長縄は困難なので「へびさん」をした）



だるまさんがころんだをしている動画

<児童の反応・様子>

- ・やったことのある遊びが出てきたので、児童の反応は大変よかった。ラオスの子どもたちも日本の子どもたちと同じ遊びを楽しそうにやっている写真や動画を見て、「すごい」「うまい」などの肯定的な言葉が出ていた。
- ・長縄が苦手な児童からは、「やったことがなかったのに、うまくてすごい」とつぶやいていた。

第5問 ドンコー村の人の写真から、日本と違うところを見つけよう。

- ・黒板の前にある写真を見て、お話したい写真を選んで話す。
- ・ドンコー村に行った様子を動画と写真で紹介する。



ドンコー村にボートで移動している動画





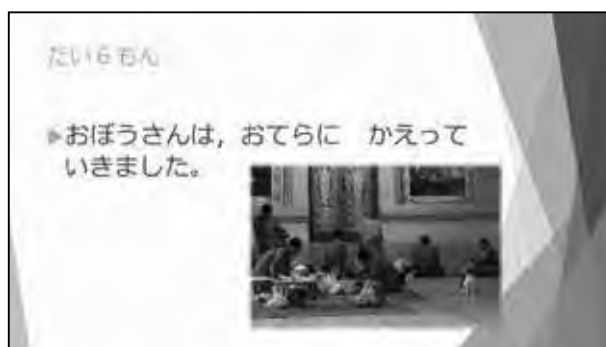
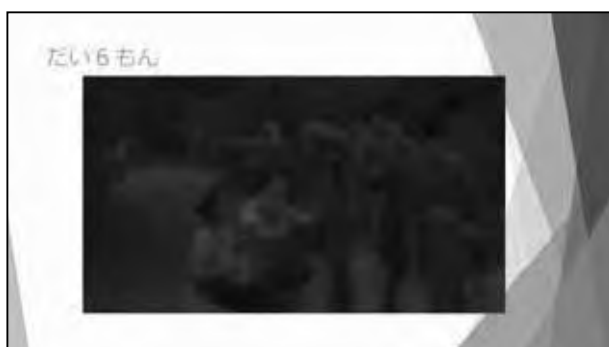
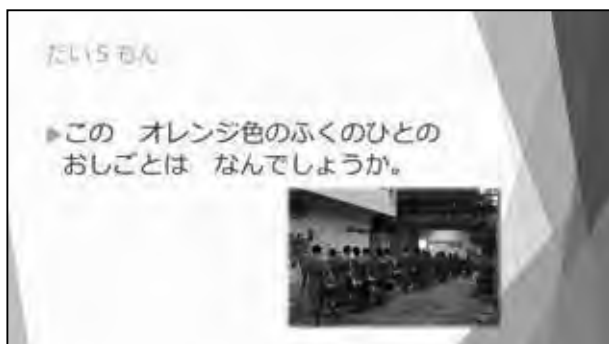
豚肉を解体している大人と挨拶をしてくる子どもの動画

<児童の反応・様子>

- ・（漁の仕掛けをつくっている写真を選んだ児童）「上の服を着ていない。筋肉マッチョでかっこいい。つよそう」
 - ・（校舎の写真を選んだ児童）「学校に見えなかった。家みたいな学校。保育園みたいだ」
 - ・（電化製品の写真を選んだ児童）「スピーカーがかっこいい。白い機械は何に使うのかな」
 - ・（料理の写真を選んだ児童）「バナナと卵は（日本と）同じ。おいしそう」
- など、どの児童もとても肯定的であった。「ラオスに行きたくなってきた」と何度も言う児童もいた。児童から「白い機械は何ですか」と質問があったのに、私が知らずに答えられなかったのが残念だった。

第6問 このオレンジ色の服の人のお仕事は何でしょうか。

- ・お坊さんが「托鉢」をしている動画と写真を見せる。



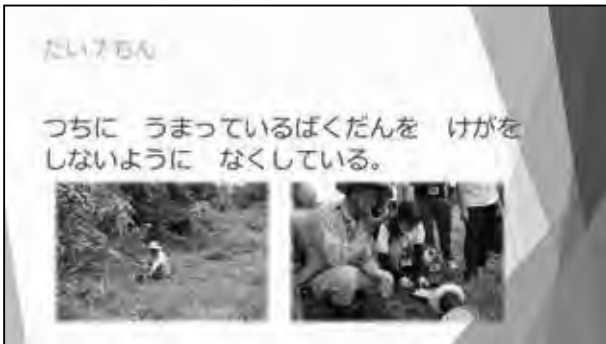
托鉢をしている動画

<児童の反応・様子>

- ・研修参加中に、ラオスから児童宅にラオスの絵葉書を送った。その中にお坊さんが托鉢をする写真があったので、以前取り上げていた。その話を覚えていたようだ。
- ・動画や写真の中に私が出てくると、「先生がおる」と言って盛り上がる。(ドンコー村の写真でもそうであった)
- ・お坊さんの仕事がわからなかったので、お坊さんについての補足説明をすると、「日本にもお坊さんはいるね。同じだ」という話になった。

第7問 この人たちは何をやる人たちでしょうか。

- ・UXO-LAOに行ったときの動画と画像を見せる。
- 答えは、不発弾を探して爆破処理をする人だが、似たようなことを言ったら正解にする。



不発弾処理をしている動画(爆破)



動画を見る児童

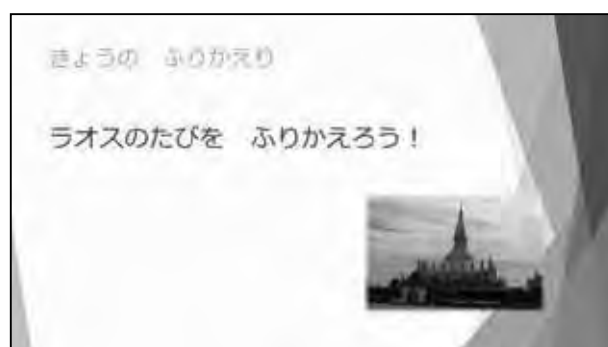
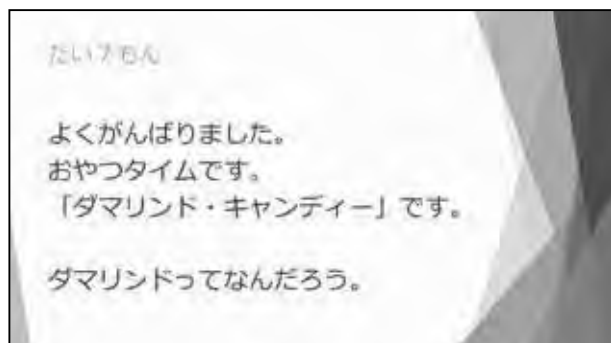
<児童の反応・様子>

- ・3分程度の動画であったが、爆破前の拡声器による大きな声のラオ語と、その周辺にいる人々の緊張感が伝わり、真剣な表情でスクリーンを見ていた。
- ・爆破した後に、「人にけがをさせる爆弾を爆発してなくしているよ」と補足説明をすると、「誰も怪我をしてい

ないね」と安心して言っていた。

- ・起爆装置を押したのが私であったので、「怖かった」「泣きそうになった」といろいろと質問をしてきた。
- ・「早く爆弾が全部なくなればいいのに」「このお仕事は大変だ」など、動画が終わると少しリラックスをして、感想を言うことができた。

(5) タマリンドの写真を見せる。食べたい児童にタマリンドキャンディーを渡す。



(6) めあてカードを見ながら本時の振り返りをする。
「今日のラオスの旅でどんなことがわかりましたか」

<児童の反応・様子>

- ・ラオスはおもしろそうなところだから、大きくなったら行ってみたい。
- ・爆弾を壊していてすごいな。
- ・ラオスのよいところは、お肉がたくさんある（売ってある）ところ。
- ・ラオスの音楽をスピーカーで聞いてみたい。
- ・ラオスの勉強は楽しかった。
- ・ラオスのご飯を食べてみたい。



ラオスコナー

まとめ ラオスにも、にほんにも、よいところがあるね。

<所感>

当初自分が予想していたよりも、児童はしっかりとラオスについて理解をしていた。ラオスコナーで少しずつ興味をもち自分から知りたいという気持ちになっていたようだ。

「豚の頭」「川の茶色い水」「個別包装をしていない食品」などを見ると、マイナスなイメージでとらえがちだが、本学級の児童は「日本では（普段）見ないもの」に大変興味をもったようだ。「おもしろい」「見てみたい」「ラオスは楽しそう」などプラスイメージでとらえている児童ばかりで、私の方が驚いた。先入観なしに純粋な気持ちでラオスを見ることができていた。彼らが羨ましかった。

この授業をすることで、どの児童も外国に興味をもつことができた。ラオスに限らず、ALTの出身のアメリカ合衆国、本学級児童の親戚が住んでいるベトナムなどの話もよく出てくるようになった。

31～32時限目：「ラオスの料理を食べてみよう」

ねらい：ラオスの食文化を体験して学習をすることで、世界にはいろいろな文化があることに気づくことができる。いろいろな国の文化を知ろうとする態度を育てる。

<本時の流れ>

(1) もち米を入れるティップ・カオを見せ、何に使うのかを考えさせる。

<児童の反応・様子>

- ・「魚を入れるかごみたい」と言った児童もいたが、ラオスコーナーで見ている児童も多く、「ごはんを入れるかご」と答えていた。
- ・実際にティップ・カオを見せると、女子は「かわいい」「ほしい」と言っていた。



(2) 実際にティップ・カオに入っているもち米を手で食べる。ラープも一緒に試食をする。

- ・マナーの確認（右手の3本指を使って食べる。左手はトイレの時などに使う手なので使ってはいけないなど）

<児童の反応・様子>

- ・左利きの児童はとまどっていたが、すぐに慣れて楽しんでカオ・ニャオ（餅米）を食べていた。
- ・指先の機能に課題のある児童は、指にたくさん餅米がついてしまい、食べづらそうだったが、「いつもだったら手で食べたらかおられるのに、おこれらないからうれしい」と喜んでた。
- ・餅米はお餅が好きで児童にとってはとてもおいしかったようで、「もっと食べたい」「これなら毎日でも食べられる」「ラオスに住んで毎日食べたい」と喜んでた。
- ・私が作ってきた「ラープ（ちょっと辛め）」を試食させた。「おいしい」と言った児童、「辛い」「匂いが苦手」と言って食べられなかった児童などそれぞれの反応が異なった。

(3) 感想を友達と交流する。


(4) わかったことや気づきを「せいたんカード（生活単元学習カード）」に書いてまとめる。

生かつたんげん カード
12月16日(金)名前()
ラオスの料理をたべた もち米

わかったこと・かんじたこと
最初は、おいしいけど、 ました。もち米は なでたが、ました いっはりました

生かつたんげん カード
12月10日(金)名前()
ラオスの料理をたべた

わかったこと・かんじたこと
もち米は、口に、かにも おもしろいから、たべ ラープのにおいは きらいです。

生かつたんげん カード
12月16日(金)名前()
ラオスの料理をたべたよ。

わかったこと・かんじたこと
最初は、ラオスの料理をたべ ました。ひたひたで、たべた けなさいのみき、たべないとい けなさい、といわられたそうです。 ティップカオの中に、だまりんど の、人、ディ、い、れ、て、く、れ、ま、した。

<所感>

ラオスコーナーに食べ物の写真がたくさんあり、全員の児童が「食べてみたい」と言っていた。また、ティップ・カオ（餅米を入れるかご）や、ご飯を炊くときに使う道具にも大変興味があった。実際にこの時間に「ラオスの料理を食べてみよう」の学習を行うことで、手で食べるというマナーの違い、日本のご飯をお茶碗に入れて食べるのではないなどの文化の違いを体験することができた。「他にも手で食べているところってあるのかな」「アメリカはどうなのかな」など子どもたちから、これから先につながる声を聞くことができた。

今回の学習にとどまらず、これからもさらにいろんな国のこと、そしてそこにある文化や習慣を理解できる広い視野をもった大人に育ってほしいと思う。



33時限目：

「みんなでラオスの話を聞いて ふりかえろう」

ねらい：今まで学習してきたことを想起し、これからも広い視野をもって生活をしていこうとする態度を育てる。

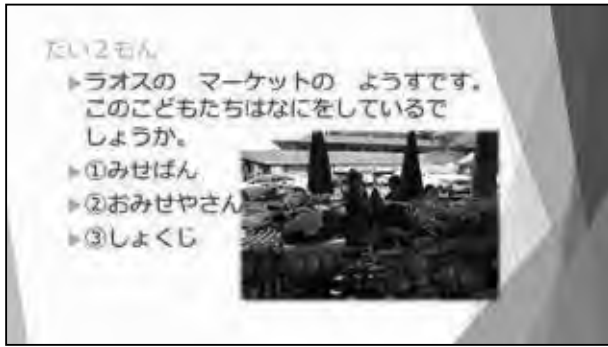
<本時の流れ>

- (1) 全校朝会でラオスの話を聞く。

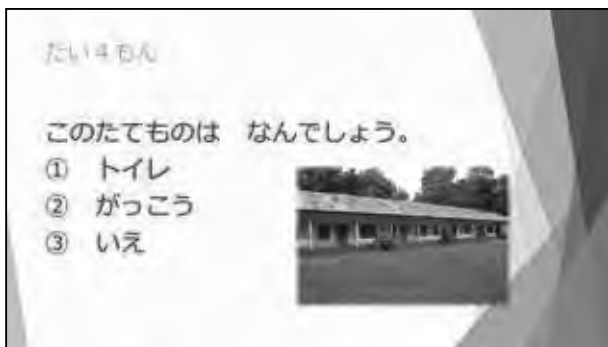


全校朝会で「サバイディー」

ラオスの挨拶や、民族衣装である「シン」の紹介、場所の紹介に始まった。廊下にある「ラオスコーナー」を見たことがある児童がほとんどで、とても真剣に話を聞いていた。話している途中に「先生、日本からどのぐらい時間がかかるんですか」と6年生が質問をしてくる場面もあった。



この問題も意外に難しかったようで、①～③に手を挙げた児童の数が3分の1ずつぐらいに分かれた。子どもが店番をしていることに驚いていた。



日本の学校の校舎とは異なる様式なので、家だと思った児童が多かった。「保育園に似ている」という声もあった。外国の学校の写真を初めて見るので驚きの声も聞こえた。



クイズ形式で話を進めることで、1年生から6年生までが最後まで興味を持って話を聞くことができていた。簡単だと思って作ったクイズであったが、ラオスを見たことのない児童にとっては難しかったようだ。

廊下の「ラオスコーナー」に触れている児童が多かったので、「あの写真見たことある」「これ、答え知ってるよ」という反応も意外と多かった。（特にラオスコーナーに近いところに教室のある高学年の児童から）

(2) 周りの人と、わかったことや感じたことを交流する。

<児童の反応・様子>

- ・全体にラオスのことを話したときにも、よい反応が返ってきていた。不発弾のことについての印象が強く残ってしまうかと思ったが、「サバイディー」という挨拶や、マーケットの食料品売り場、メコン川の色について印象に残った児童も多かった。
- ・外国に行ったみたいという児童が増えた。
- ・ラオスコーナーに来る人や、私に質問に来る児童が増えた。

全体を通しての成果と課題

生活単元学習「わたしたちのまち」の学習で取り上げた。本学級は、児童個々の課題が異なり、一斉指導も困難な場合が多い。生活単元学習の時間には、活動を主とする学習の時間であるため、積極的に学習することができる。

特に、今回はラオスを取り上げることで、日本以外の国のこと（文化や習慣など）を知ることができた。視覚に効果的な学習にするため、普段からプロジェクターでスクリーンに写真や動画を映しながら学習をしている。今回もこの方法で行った。

子どもたちは行ったことのないラオスに行った気分になり、考えることができていた。どの学習に対しても、前向きに取り組むことができるため、ラオスの話も興味をもって聞くことができた。

わたしが一番驚かされたのは、マーケットの肉売り場の、豚の頭や、たくさん並べられた首のない鳥、食用がええるや、生きたままのアヒルがかごに詰め込まれている写真を資料として使ったときのことである。気持ち悪いなど否定的な言葉が出ることを覚悟して提示したが、「ラオスってすごい」「おもしろいね。見てみたい」「こんなの見たことがないな」など肯定的な言葉が出てきたことである。

他の時間に、ドンコー村でのホームステイ先の高床式の家、茶色い生活用水、小さな小屋のような学校の写真を掲示したときにも、「どんなのだろう」「ラオスに行きたくなってきた」「いいなあ」などの肯定的な言葉しか出なかった。

私たちが、残念ながら持ってしまっている発展途上国に対するイメージが彼らにはなく、純粋に興味をもって学習をして、感じたことをありのままの言葉で表現をしていることがわかった。彼らの純粋な視点をこれからも大切にして、成長して行って欲しいと願っている。更にいろいろな国の文化や暮らしなどについても興味をもって考えていくことのできる成人になって欲しいと願っている。

今回の実践を通して、児童は住んでいる町、市、県、国のことにも関心を持つことができた。広い視野をもつことで、自分の知らなかったことに興味を持って学習しようとするようになった。地図や図鑑でいろいろな場所を調べようとするようになった。また、感じたことを自分の感じたありのままの言葉で表現することができるようになった。友達の意見をよく聞いて、「ぼくも同じ考えで・・・です」「そんなことに気づいてすごいね」などの反応もできるようになってきている。これからも、地図作りや新聞作り、「生たんカード（生活単元学習カード）」にまとめるなどの活動に継続的に取り組ませ、更なる力をつけていきたい。

参考資料

【教材】

- ・わたしたちのまちはつかいち（廿日市市教育委員会）
- ・ドラえもんちずかん1 にっぽんちず（小学館）
- ・ドラえもんちずかん2 せかいちず（小学館）

特別支援学級（知的障害）生活単元学習指導案

指導者 久藤 映
支援員 谷口 美幸

- 1 日時 平成28年11月29日（火） 14:50～15:35
- 2 学年 特別支援学級（知的障害）3年2名 2年1名 1年2名 計5名
- 3 単元名 わたしたちのまち

4 単元設定の理由

（1） 児童観

本学級には、入学当初から入級している3年生（A児）、本年度自閉症・情緒障害学級から入級した3年生（B児）、昨年度2学期に転入してきた2年生（C児）、今年度入学してきた1年生（D児、E児）の5名が在籍している。

1学期当初は、指導者からの指示に対して、素直に応じることはできるものの、自分の意見や考えを持ったり、発言したりすることが難しかった。学習経験や、知識の蓄積に時間がかかることや、学習したことを生活で生かすことが困難であり、「一人でできる」といった自信が持ちにくかった。そのため、人に助けを求めてくるが多かった。

しかし2学期になり、運動会や学習発表会等、大きな行事を経験することで自信を持って話したり、自分で考えて行動したりする力がついてきている。生活単元や自立を始め、国語や算数などをじっくりとわかるまで自分のペースで学習している。「できた。」という達成感を味わうことで、「もっと勉強したい。」という気持ちが強くなり、どの児童ものびのびと学習ができるようになってきている。

これらのことから、生活単元学習を中心として、児童が主体的に生活・学習に自信を持って取り組み、学習意欲を高めることに重点をおき、取組を進めてきている。これまでの児童の実態は次の通りである。

	生活単元学習の様子
A児 (3年)	<ul style="list-style-type: none">・ 学習に対してとても意欲的であり、わかるようになると大喜びをして大きな声を出しながら学習をする。・ 知識の理解には時間を要するが、生活経験と関連付けたり、興味のある内容だったりすると、知識の蓄積につながるが多い。・ 今年から本学級での最高学年になったため、常に学級のリーダーでありたいという気持ちが強く、下級生への声かけや、お手本を進んで行う。・ 本学級の全員を明るい性格で引っ張っている。よい雰囲気を作っている。
B児 (3年)	<ul style="list-style-type: none">・ 今年度自閉症・情緒障害学級から入級してきたが、本学級にすぐに慣れ、学習にも意欲的である。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元気よく気持ちのよいあいさつができる。友達に優しい声かけができる。 ・ 字の読み書きが苦手である。「サ行」の発音が不明瞭である。負けず嫌いで、涙を流しながらでも、必ず課題をやり遂げる。 ・ 過去のことを覚えていないことが多く、思い出すのに写真を見せないと思い出せないことが多い。
C児 (2年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生の2学期に転入してきた。生育環境による「経験不足」の影響もかなり減り、多くの学習を自分の力で考えて行うことができている。 ・ 基礎学力がついており、当該学年の内容をしっかりと理解している。しかし、自分の意見を発表するときに、時々言うことがわからなくなってしまう。 ・ 間違えることを嫌がり、常に100点でありたい、わからないと言いたくないという気持ちが強い。
D児 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勉強が好きで、学習が始まるととても喜んでいる。 ・ 生き物が好きで、生き物が元気のない時には、とても心配してお世話をする。 ・ 本学級の学習では手を挙げて発言がたくさんできる。しかし、交流学級など、人の多い場所では無表情で、固まってしまうことが多い。 ・ 平仮名の読み書きはできる。先生や友達の言葉を注意深く聞いて学習を進めることができている。
E児 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習が始まると喜んで表情をする。または、嬉しそうに大きな声を出す。学習に進んで取り組むことができる。 ・ 発問に対して、嬉しそうに手を挙げる。しかし、当てると何も言うことはできなかつたり、おうむ返しになつたりすることが多い。 ・ 単語で「すごい」「おおい」などの表現を使いながら、生き物や植物の変化に気づいたことを先生や友達に知らせることができるようになってきている。 ・ 人のすることに興味があり、じっと観察していることが多い。

(2) 単元観

本単元「わたしたちのまち」は、学年や発達段階に応じて、学校の中、自分たちの住んでいる校区、市、県のことを地図作りや、新聞づくり、「まちたんけん」などの活動を中心に学習をしている。自分の身の回りには、家族や学校だけではなく、まち、市、県、国があることを様々な学習活動を通して理解していく単元である。発達段階にもよるが、子どもたちから、「廿日市ってどんな大きさなのかな。」「6年生が修学旅行で行った大阪ってどこにあるの。」という質問があることがある。また、今年、リオデジャネイロオリンピックもあつたため、地球儀を置いていると、「アメリカがあつた。」と、知っている国を探す児童の姿も見られた。担任がJICAの教師海外研修で行ったラオスから、全員の家に絵葉書が届いたことや、ラオスのいろんな楽しいお話を聞いたことで、児童は、ラオスにも大変興味をもっている。

2, 3年生においては、校区で働く人たちのことを「まちたんけん」で調べることで、3年生においては、校区の地図作り、廿日市市について調べることで、広島県の場所を知るという学習まで行っている。その視野をさらに広げ、世界にはいろいろな国があり、国が違つると、言葉、習慣、歴史などが異なるこ

とからの「違い」があることに気づくことのできる単元である。そして、その「違い」を認め合うことの大切さに気づかせたい。そのために、児童の発達段階や、状態に応じてのめあてを設定する。担任によるラオスの話、ALTによるアメリカの遊びの紹介などを通して、国や言葉が違っても、気持ちが通じることや、相手のことを知ろうとする気持ちを持つことの大切さを育てていきたい。

そして、いろいろな町・市・県・国にも興味をもつことで、いろいろな場所について、積極的に理解しようとする意識を持っていくことができると考える。

○指導観

指導に当たっては、本学級の児童は具体物を提示すると興味を持つため、今まで児童が活動をした時に撮影した写真や、担任が撮って来た写真を効果的に使用し、今までの活動を思い出したり、知らないことを学習したりできるようにする。また、具体物を提示することで、児童が学習に興味を持てるようにしたい。児童が行ったことのない場所について学習をする際には、あらかじめ録画をしておいた動画などもうまく活用する。学習でわかったことや、感じたことは次の授業の時間に生活単元カードにまとめ、記録として残しておき、いつでも振り返ることのできるようにしておく。

また、本単元の学習を通して、自分の町についての理解、廿日市市、広島県、そしていろいろな国があることへの理解を深め、児童の視野を広げたい。

児童が実際に、話す・動く・書く・聞くなどの活動ができるようにし、児童が能動的に学習できる授業づくりをしたい。言葉がなかなか出ない、活動になかなか取り組めない児童には、指導者が支援をしたり、友達とペアになってやることを考えさせたりすることも取り入れる。

5 単元の目標

- 住んでいる町、市、県、国のことを調べ、自分なりの方法でわかったことを話したり、まとめたりする。
- 学習経験を生かし、進んで自分の住んでいる町、市、県、国のことを知ろうとする。

6 指導計画（全31時間）

次	時数	学習内容
一	8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の町を知ろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通ルールを学習する。校区を探検する。（3） ・ 見つけたことを新聞にまとめたり、校区の地図を作ったりする（4） ・ 見つけたことを発表する。（1）
二	15	<ul style="list-style-type: none"> ○ まちにある施設を使おう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館の使い方を練習する。図書館利用のマナーを知る。（2） ・ 図書館で本を借りる。本を返却する。読み聞かせ会に参加する。お礼状を書く。（5） ・ 買い物で使う言葉の使い方、お金の払い方を練習する。（1） ・ マナーを守り、商店で調理実習の材料を買う。（2） ・ お金の使い方を練習する。（1）

		<ul style="list-style-type: none"> 郵便局の仕事を知る。年賀状を買う。年賀状を書く。郵便局で葉書を投函する。(4)
三	8	<ul style="list-style-type: none"> ○ わたしたちのまちから とおくをみよう。 ・ 廿日市市の地図を見て、気づいたことを発表する。(1) ・ 広島県の中での、自分の町の場所を知る。四方位を知る。(1) ・ 日本地図を見て、広島場所や、日本の大きさや形を知る。(1) ・ ラオスについて知ろう。ラオスと日本の違いをみつけよう。(2) ・ ラオスの料理を作ってみよう。(2) ・ アメリカの遊びで遊ぼう。(1)

7 本時の目標

○ 全体の目標

- ・ ラオスのことについて知り、外国への興味をもつ。
- ・ ラオスと日本の違いに気づき、日本のよさと、ラオスのよさに気づく。

○ 個々の目標

児童	目標	評価基準	評価方法
A児 (3年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ラオスのことについて知り、外国への興味をもつ。 ・ ラオスと日本の違いに気づき、日本のよさと、ラオスのよさに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ラオスのことについて知り、外国への興味をもっている。 ・ ラオスと日本の違いに気づき、日本のよさと、ラオスのよさに気づいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動観察 ・ 発言
B児 (3年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ラオスのことについて知り、外国への興味をもつ。 ・ ラオスと日本の違いに気づき、日本のよさと、ラオスのよさに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ラオスのことについて知り、外国への興味をもっている。 ・ ラオスと日本の違いに気づき、日本のよさと、ラオスのよさに気づいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動観察 ・ 発言
C児 (2年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ラオスのことについて知り、外国への興味をもつ。 ・ ラオスと日本の違いに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ラオスのことについて知り、外国への興味をもっている。 ・ ラオスと日本の違いに気づいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動観察 ・ 発言
D児 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国への興味をもつ。 ・ ラオスと日本の違いに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国への興味をもっている。 ・ ラオスと日本の違いに気づいている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動観察 ・ 発言
E児 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ラオスへの興味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ラオスへの興味をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動観察 ・ 発言

8 準備物

黒板掲示用挿絵・プロジェクター・プロジェクター画面・パソコン・スピーカー

9 学習の展開

学習活動	指導上の留意点（・活動 ●発問 □個人のめあて ○支援 ☆評価規準（評価方法））					全体
	A児	B児	C児	D児	E児	
1 今までに出てきたラオスのことを思い出す。 ・タマリンドキャンディー ・セパタクロー ・飛行機	● ラオスを思い出してみよう。	● ラオスを思い出してみよう。	● ラオスを思い出してみよう。	● ラオスを思い出してみよう。	● ラオスを思い出してみよう。	○ 廊下に展示してある、セパタクローのボールや、以前食べたタマリンドキャンディー、ラオスの写真を見せて想起させる。
2 実際にセパタクローごっこをする。	・セパタクローごっこをする。（蹴っても投げてもよい。） ☆ ラオスにも、日本と同じような楽しい遊びがあることに気づいている。	・セパタクローごっこをする。（蹴っても投げてもよい。） ☆ ラオスにも、日本と同じような楽しい遊びがあることに気づいている。	・セパタクローごっこをする。（蹴っても投げてもよい。） ☆ ラオスにも、日本と同じような楽しい遊びがあることに気づいている。	・セパタクローごっこをする。（蹴っても投げてもよい。） ☆ ラオスの遊びを楽しんでいる。	・セパタクローごっこをする。（蹴っても投げてもよい。） ☆ ラオスの遊びを楽しんでいる。 ○ ボールのキャッチができない場合は支援員と一緒にやる。	○ 教室の後ろのスペースで行う。足でボールを蹴るのが困難な児童は手でボールを渡してもよいことを伝えておく。
3 学習のめあてと、学習の流れを確認する。	・めあてを確認する。	・めあてを確認する。	・めあてを確認する。	・めあてを確認する。	・めあてを確認する。	○ 見通しをもって学習ができるよう、本時の流れを提示する。
ラオスのよいところ、にほんのよいところを みつけよう。						
	ラオスのよいところ、日本のよいところを見つけよう。 ・めあてカードを見ながら本時のめあてを確認する。	ラオスのよいところ、日本のよいところを見つけよう。 ・めあてカードを見ながら本時のめあてを確認する。 ○ 字を読むのが苦手なの	ラオスと、日本のちがいをを見つけよう。 ・めあてカードを見ながら本時のめあてを確認する。	ラオスと、にほんのちがいをみつけよう。 ・めあてカードを見ながら本時のめあてを確認する。 ○ 字を読むのが苦手なの	らおすのびっくりをみつけよう。 ・めあてカードを見ながら本時のめあてを確認する。 ○ 字が拾い読みするの	① なかよしあそび ② めあてのかくにん ③ ラオスをたびしよう ④ ふりかえり ○ 今何をしているのかを番号の上にマグネットを貼り提示しておく。

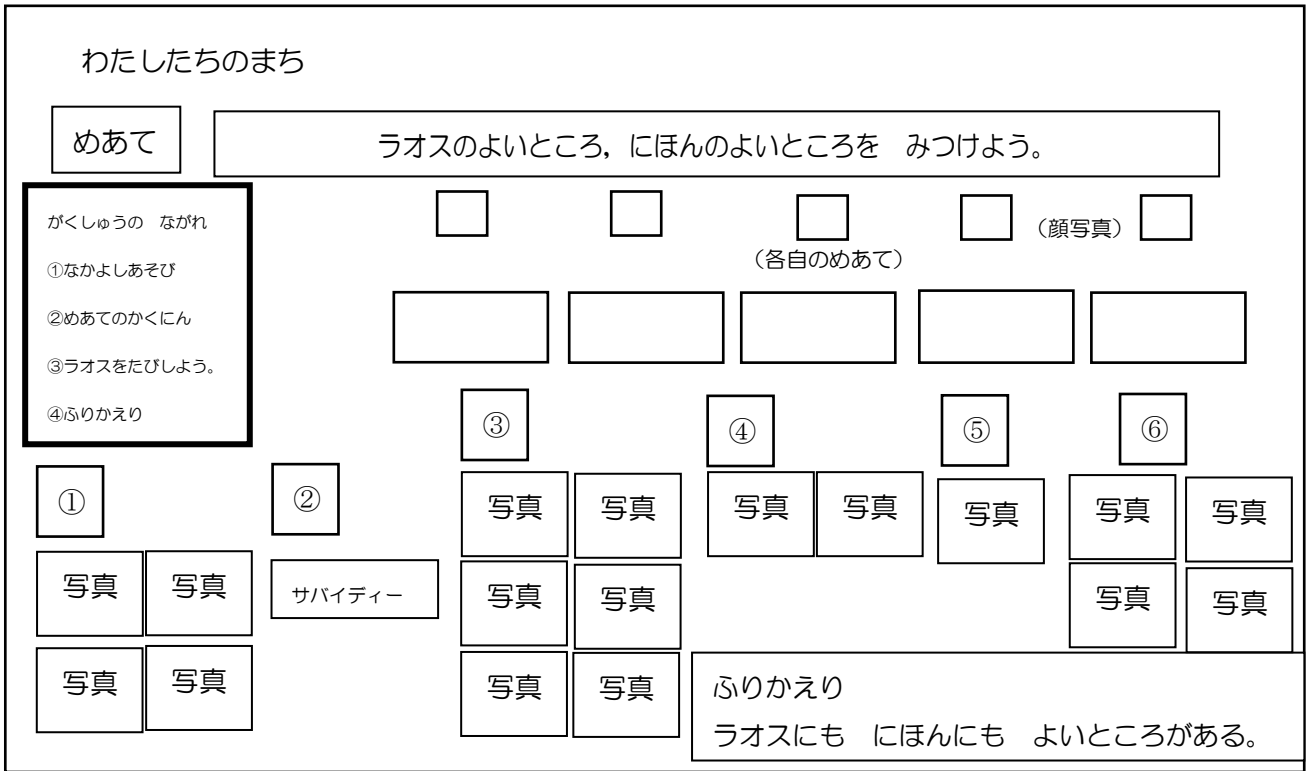
		で、めあてを友達と一緒に読んでもらい理解する。		で、絵表示で表示をし、めあてをA児とC児と一緒に読んでもらい理解する。	で、めあてを2, 3年生に読んでもらい理解する。 ○支援員が個別にめあての意味を説明する。	
4 クイズを解きながらラオスを旅をするという設定で、学習を進める。	●これから皆さんはラオスに旅をしに行きます。	●これから皆さんはラオスに旅をしに行きます。	●これから皆さんはラオスに旅をしに行きます。	●これから皆さんはラオスに旅をしに行きます。	●これから皆さんはラオスに旅をしに行きます。	○プロジェクターでラオスに旅行に行くという気分になれるよう、飛行機に乗っているような写真など映し出す。 ○問題は、画面に映し出すようにする。 ○ラオスのマーケットの様子の写真を数枚ずつグループに渡して、日本と違ってびっくりしたところにマジックで○印をつけさせる。 ○グループで見つけたことを発表させる。グループは、3年生をリーダーとして構成する。 ○映し出された写真を見て自由に発言できる雰囲気を作る。
<p>●第1問。みなさんはラオスに行きます。どうやって行けばよいでしょうか。 ①自転車 ②電車 ③飛行機</p> <p>・ 答えを確認後、搭乗券をもらい、スクリーンに映された映像を見ながら飛行機での旅を楽しむ。</p> <p>●第2問。ラオスに到着しました。見慣れない字が街の中にあふれています。ラオスでは「ラオ語」を話します。ラオ語はどれでしょうか。 (ありがとうを①英語、②韓国語、③ラオ語で表記する)</p>						
	●第3問 これはラオスのマーケットの様子です。日本と違うところは何でしょうか。 ・写真を配り、日本と違うなと思ったところにマジックで丸をつけさせる。グループで活動をする。 ●みつけたことを発表しましょう。	●第3問 これはラオスのマーケットの様子です。日本と違うところは何でしょうか。 ・写真を配り、日本と違うなと思ったところにマジックで丸をつけさせる。グループで活動をする。 ●みつけたことを発表しましょう。	●第3問 これはラオスのマーケットの様子です。日本と違うところは何でしょうか。 ・写真を配り、日本と違うなと思ったところにマジックで丸をつけさせる。グループで活動をする。 ●みつけたことを発表しましょう。	●第3問 これはラオスのマーケットの様子です。日本と違うところは何でしょうか。 ・写真を配り、日本と違うなと思ったところにマジックで丸をつけさせる。グループで活動をする。 ●みつけたことを発表しましょう。	●第3問 これはラオスのマーケットの様子です。日本と違うところは何でしょうか。 ・写真を配り、日本と違うなと思ったところにマジックで丸をつけさせる。グループで活動をする。 ●みつけたことを発表しましょう。	
<p>C: やさいがやまもりになっている。 C: さかながそのままおいてある。 C: ふくろにはいっていない。 C: おみせのひとがすわっている。</p> <p>C: カエルがうってある、たべるのかな。 C: いきているどうぶつがみえる。 C: しらないやさいがある。</p>						

<p>☆ラオスと日本のものを売る様子の違いに気づいている。</p> <p>●次は、ラオスの子どもたちがいる場所に行きましたよ。</p> <p>・サバナケット子ども文化センターでの交流の様子の動画と写真を見せる。</p>	<p>☆ラオスと日本のものを売る様子の違いに気づいている。</p> <p>●次は、ラオスの子どもたちがいる場所に行きましたよ。</p> <p>・サバナケット子ども文化センターでの交流の様子の動画と写真を見せる。</p>	<p>☆ラオスと日本のものを売る様子の違いに気づいている。</p> <p>●次は、ラオスの子どもたちがいる場所に行きましたよ。</p> <p>・サバナケット子ども文化センターでの交流の様子の動画と写真を見せる。</p>	<p>☆ラオスと日本の様子の違いに気づいている。</p> <p>●次は、ラオスの子どもたちがいる場所に行きましたよ。</p> <p>・サバナケット子ども文化センターでの交流の様子の動画と写真を見せる。</p>	<p>☆ラオスの様子に興味を持っている。</p> <p>●次は、ラオスの子どもたちがいる場所に行きましたよ。</p> <p>・サバナケット子ども文化センターでの交流の様子の動画と写真を見せる。</p>	<p>○ 交流した様子を動画と写真を使って見せる。</p>
<p>●第4問 この写真の子どもたちは、ある日本の遊びをしています。何かわかりますか。</p> <p>・ だるまさんがころんだ、けん玉、長縄、おりがみをしている写真を見せる。</p>					
<p>・実際にけん玉と長縄にチャレンジする。</p> <p>●むずかしかったですか。</p> <p>C：むずかしい。</p> <p>C：ラオスの人もむずかしいのかな。</p> <p>・ドンコー村に行った様子を動画と写真で紹介する。</p> <p>●第5問 ドンコー村の人の写真から、これは日本と違うところを見つけよう。</p>	<p>・実際にけん玉と長縄にチャレンジする。</p> <p>●むずかしかったですか。</p> <p>C：むずかしい。</p> <p>・ドンコー村に行った様子を動画と写真で紹介する。</p> <p>●第5問 ドンコー村の人の写真から、これは日本と違うところを見つけよう。</p>	<p>・実際にけん玉と長縄にチャレンジする。</p> <p>●むずかしかったですか。</p> <p>C：むずかしい。</p> <p>・ドンコー村に行った様子を動画と写真で紹介する。</p> <p>●第5問 ドンコー村の人の写真から、これは日本と違うところを見つけよう。</p>	<p>・実際にけん玉と長縄にチャレンジする。</p> <p>●むずかしかったですか。</p> <p>C：できない。</p> <p>・ドンコー村に行った様子を動画と写真で紹介する。</p> <p>●第5問 ドンコー村の人の写真から、これは日本と違うところを見つけよう。</p>	<p>・実際にけん玉と長縄にチャレンジする。</p> <p>●むずかしかったですか。</p> <p>C：できない。</p> <p>・ドンコー村に行った様子を動画と写真で紹介する。</p> <p>●第5問 ドンコー村の人の写真から、これは日本と違うところを見つけよう。</p>	<p>○ 子どもたちにも同じ遊びを体験させる。</p>

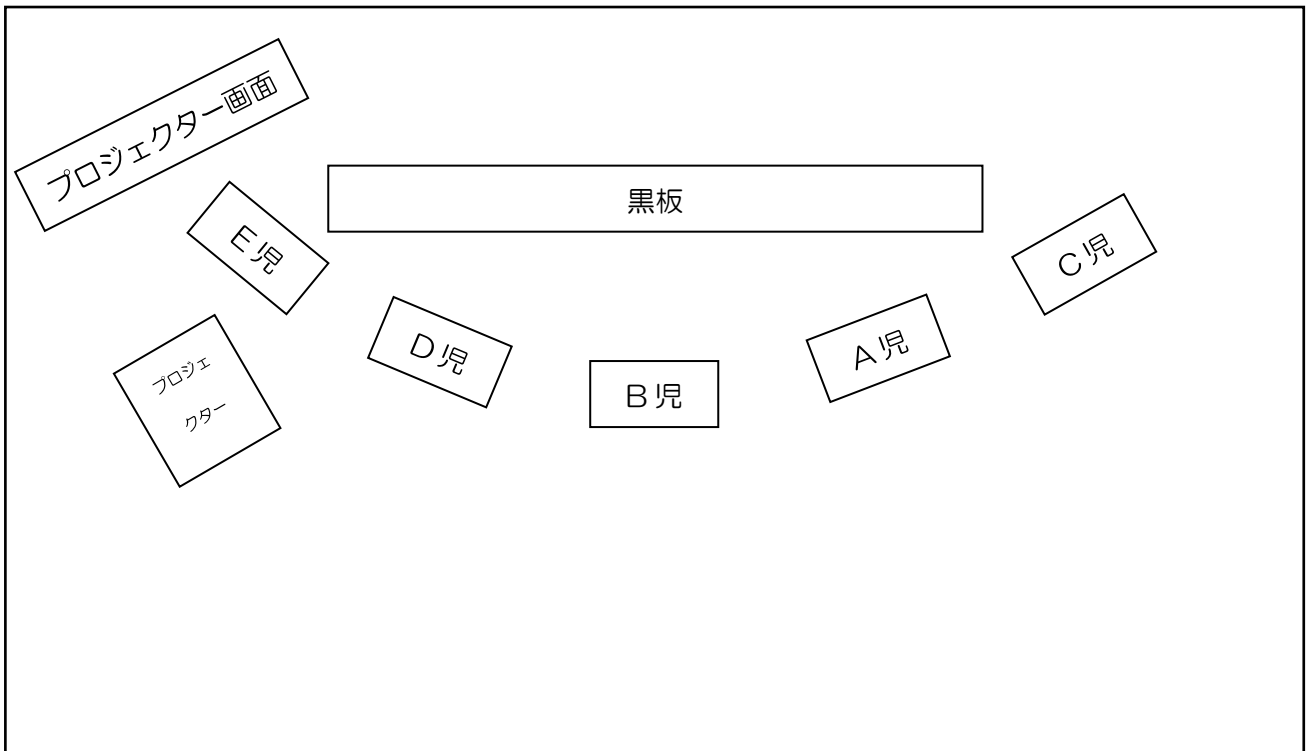
<p>・黒板の前にある写真を見て,お話ししたい写真を選んで話す。</p>	<p>・黒板の前にある写真を見て,お話ししたい写真を選んで話す。</p>	<p>・黒板の前にある写真を見て,お話ししたい写真を選んで話す。</p>	<p>・黒板の前にある写真を見て,お話ししたい写真を選んで話す。</p>	<p>・黒板の前にある写真を見て,お話ししたい写真を選んで話す。</p>	
<p>C:がっこうがちいさい。 C:りょうりがおいしそう。 C:おこめがかごにはいっている。 C:ボートにのれるからたのしそう。 C:川があるからおよげそう。 C:子どもがかわいい。 C:男の人がはだかがかっこいい。 C:こやみたくないえでたのしそう。</p>					<p>○ ラオスのイメージが悪くならないように声をかける。 ○ 自由に話せる雰囲気になるようにする。</p>
<p>☆ラオスと日本の違いに気づき,日本のよさと,ラオスのよさに気づいている。</p> <p>・お坊さんが「托鉢」をしている動画と写真を見せる。</p> <p>●第5問 このオレンジ色の服の人のお仕事は何でしょうか。</p> <p>・ UXO-LAOに行ったときの動画と画像を見せる。</p> <p>●第6問 この人たちは何をする人たちでしょうか。</p> <p>答えは,不発弾を探して爆破処理をする人だが,似たようなことを言ったら</p>	<p>☆ラオスと日本の違いに気づき,日本のよさと,ラオスのよさに気づいている。</p> <p>・お坊さんが「托鉢」をしている動画と写真を見せる。</p> <p>●第5問 このオレンジ色の服の人のお仕事は何でしょうか。</p> <p>・ UXO-LAOに行ったときの動画と画像を見せる。</p> <p>●第6問 この人たちは何をする人たちでしょうか。</p> <p>答えは,不発弾を探して爆破処理をする人だが,似たようなことを言ったら</p>	<p>☆ラオスと日本の違いに気づいている。</p> <p>・お坊さんが「托鉢」をしている動画と写真を見せる。</p> <p>●第5問 このオレンジ色の服の人のお仕事は何でしょうか。</p> <p>・ UXO-LAOに行ったときの動画と画像を見せる。</p> <p>●第6問 この人たちは何をする人たちでしょうか。</p> <p>答えは,不発弾を探して爆破処理をする人だが,似たようなことを言ったら</p>	<p>☆ラオスと日本の違いに気づいている。</p> <p>・お坊さんが「托鉢」をしている動画と写真を見せる。</p> <p>●第5問 このオレンジ色の服の人のお仕事は何でしょうか。</p> <p>・ UXO-LAOに行ったときの動画と画像を見せる。</p> <p>●第6問 この人たちは何をする人たちでしょうか。</p> <p>答えは,不発弾を探して爆破処理をする人だが,似たようなことを言ったら</p>	<p>☆ラオスに興味をもって学習している。</p> <p>・お坊さんが「托鉢」をしている動画と写真を見せる。</p> <p>●第5問 このオレンジ色の服の人のお仕事は何でしょうか。</p> <p>・ UXO-LAOに行ったときの動画と画像を見せる。</p> <p>●第6問 この人たちは何をする人たちでしょうか。</p> <p>答えは,不発弾を探して爆破処理をする人だが,似たようなことを言ったら</p>	<p>○ お坊さんという言葉がわからない場合は説明をする。</p> <p>○ 教室の外の廊下に同じ写真があるため,知っている児童もいる。わからない場合のために,ヒント(探知機や不発弾の写真も用意しておく。)</p>

	<p>正解にする。</p> <p>●よくがんばりました。ご褒美です。「ダマリンドキャンデー」です。</p> <p>・ダマリンドの写真を見せる。</p>	<p>正解にする。</p> <p>●よくがんばりました。ご褒美です。「ダマリンドキャンデー」です。</p> <p>・ダマリンドの写真を見せる。</p>	<p>正解にする。</p> <p>●よくがんばりました。ご褒美です。「ダマリンドキャンデー」です。</p> <p>・ダマリンドの写真を見せる。</p>	<p>正解にする。</p> <p>●よくがんばりました。ご褒美です。「ダマリンドキャンデー」です。</p> <p>・ダマリンドの写真を見せる。</p>	<p>正解にする。</p> <p>●よくがんばりました。ご褒美です。「ダマリンドキャンデー」です。</p> <p>・ダマリンドの写真を見せる。</p>	<p>○味に敏感な児童もいるため、食べたい児童だけに配る。無理をさせない。</p>
<p>C:おいしいね。 C:見た目はへんだね。 C:この木がほしい。 C:もっと食べたいね。</p>						
5 振り返りをする。	<p>・めあてカードを見ながら本時の振り返りをする。</p> <p>●今日のラオスの旅でどんなことがわかりましたか。</p> <p>C:ラオスの家は、日本の家と違うことがわかりました。ぼくもラオスに行きたくなりました。</p>	<p>・めあてカードを見ながら本時の振り返りをする。</p> <p>●今日のラオスの旅でどんなことがわかりましたか。</p> <p>C:ラオスでは、日本にないものが食べられそうなので、ぼくも行って食べてみたいです。</p>	<p>・めあてカードを見ながら本時の振り返りをする。</p> <p>●今日のラオスの旅でどんなことがわかりましたか。</p> <p>C:ラオスと日本は、お店とか違うところがたくさんあることがわかってよかったです。</p>	<p>・めあてカードを見ながら支援員と一緒に本時の振り返りをする。</p> <p>●今日のラオスの旅でどんなことがわかりましたか。</p> <p>C:ラオスのことがたくさんわかって、よかったです。</p>	<p>・めあてカードを見ながら支援員と一緒に本時の振り返りをする。</p> <p>●今日のラオスの旅でどんなことがわかりましたか。</p> <p>C:楽しかったです。</p>	<p>○肯定的な評価を行い,児童の成功体験の積み重ねになるようにする。</p> <p>○これからの生活につなげられるような振り返りになるようにする。</p>
<p>ラオスにも、にほんにも よいところがあるね。</p>						
	<p>●これからも、ラオスやいろいろな国のことを知っていけるとよいですね。</p>	<p>●これからも、ラオスやいろいろな国のことを知っていけるとよいですね。</p>	<p>●これからも、ラオスやいろいろな国のことを知っていけるとよいですね。</p>	<p>●これからも、ラオスやいろいろな国のことを知っていけるとよいですね。</p>	<p>●これからも、ラオスやいろいろな国のことを知っていけるとよいですね。</p>	

10 板書計画



11 教室内配置図



授業実践報告

ラオスを通して、途上国を理解しよう

◆所属先 広島市立日浦中学校
 ◆氏名 藤井 和幸
 ◆担当教科 技術・家庭（技術）

◆実践教科 総合的な学習の時間および道徳
 ◆対象学年 1～3学年 全6クラス
 ◆対象人数 1クラス 24～28人 計160人

■実践の目的

- ・外国の子どもたちはどのような環境で育ち、何を考え、今後どのように生活していくのかを、授業を通して自然にイメージさせる。
- ・適切に整理した情報を、複数の角度から考えさせることができるような教材を提示することで、自ら考え、行動できる生徒を育てる。

■授業の構成

時限・対象	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目 1年生 言数	途上国を理解しよう 資料より情報を取り出すことができる	(1) 写真紹介 (50インチモニタに映す) (2) 資料の読み取り 学校に行けない子どもたちに関する資料を読み取ることで、開発途上国とはどのような国のことなのかをイメージさせる 後発途上国の進学困難な様子を知らせる (3) ある子どもの一日を紹介 アフマド君の一日 途上国に住む少年の日常を知ることで、生活習慣や文化の違いを理解する。	(1) 登校風景の写真 (2) 資料プリント2枚 (集まれ地球の教室と国際理解教育実践資料集より一部抜粋) ・ワークシート1枚
2時限目 1年生 言数	自分たちとは異なる生活や文化があることを理解しよう 支援の仕方を思考・判断できる 支援という意味を考える 自分の考えを客観的に評価できる	(1) 前時の復習「学校に行けない理由8つ」 途上国の子どもたちが学校に行けない理由が複数あることを理解させる (2) 「8つの理由」より一つ選び、自分（または日本）ができそうな支援を考える。 (3) 「学校に行けない」カード並べ 負の連鎖が起こっていることに気づかせる 「この人たちは、どのようにすれば負の連鎖を断ち切ることができるのだろうか」を考えさせる 支援という意味を考えさせる	(1) ワークシート1枚 (国際理解教育実践資料集より抜粋) (2) 学校に行けないカード (12枚×7グループ) (3) ・写真数枚と不発弾動画 ・世界地図(掛図) ・ラオス国旗 ・エプロンの刺繍

時限・対象	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
3時限目 2年生 総合	ラオスの国民性に触れよう 写真やグッズを通して外国文化を身近に感じることができる	(1)「グッと地球便(ラオス)」の前半部分を視聴10分 (2)「わたしは誰でしょう」 説明カードとグッズ、写真の三つをペアリングするアクティビティを通して、ラオスに関心を持たせる (3)写真をモニタに映し出し、ラオスの雰囲気伝える 「わたしは誰でしょう」の答え合わせをしながらラオスの雰囲気や抱えている課題などを伝える 必要に応じてVTRも利用する	(1) VTR「グッと地球便」 (2) ラオスの地図と国旗 ・カードとグッズ、写真 (3)・写真(モニタ提示用) ・不発弾処理VTR ・ワークシート1枚
4時限目 2年生 総合	異なる文化や生活習慣を尊重しよう ラオスの実情に合わせて物事を考えることができる	(1) 写真紹介(50インチモニタに映す) (2)「この看板はなぜ必要なのだろうか」を考える (3) サバナケット教員養成大学でのVTRを視聴 (短大の先生たちとの会談5分+隊員の話5分) 助け合い文化という言葉を複数の角度から理解させる (4) ドンコー小学校ファー先生との会談VTRを視聴(5分程度) 文化や生活習慣の違いを受け止めさせるきっかけをつくる	(1) 日系企業の掲示板写真 (2) ワークシート1枚 (3) 動画資料
5時限目 2年生 総合 参観授業	世界を感じよう 世界の中での先進国の小ささを理解し、途上国との望ましい関わり方について考えることができる	(1) 世界がもし100人の村だったら 保護者や学年教師を含めて70人くらいで行う役割カードに従って世界を感じる 世界の富のほとんどを先進国が消費していることに気づく (2) ラオス旅行のススメ 首都の様子や、ちょっと不思議な写真を数枚紹介しながら、ラオス旅行の楽しみ方を紹介する ・スクーターは何人乗り? ・札束が売られている? ・夜のレスキュー隊 ・初心者ウエートレス ・どこに向かっているの? ・水洗トイレの謎 他	(1)・世界がもし100人の村だったらプリント ・情報カード人数分 ・紐、アラビア文字の紙 ・ラオスで購入した飴100個(生徒へのラオス土産として) (2)・ちょっと不思議な写真 ・プレゼン資料
6時限目 3年生 道徳	日本と外国のつながり方を考えてみよう	(1) 写真紹介(50インチモニタに映す) (2) 私たちの道徳P220～「空と海-樺野の人々」 親日派と言われるトルコと日本との関係を知ること、望ましい外国との関わり方について気づく (3) JICAラオス事務所やNGO団体の活動を紹介する ラオスと日本は51年間のつきあいであることを知らせ、今後の望ましい関係について考えさせる	(1) 東京五輪決定の新聞記事 (2) 私たちの道徳 ・エルトゥールル号の写真 ・ワークシート1枚 (3)・VTR教材「グッと地球便」



3時限目：「ラオスの国民性に触れよう」

ねらい：写真やグッズを通して外国文化を身近に感じることができる

<本時の流れ>

1 VTR視聴「グッと地球便(ラオス)」前半部分約10分

JICA専門家としてラオスに赴任した産婦人科医師の人生を追ったドキュメンタリータッチなバラエティー番組番組内では、近代的な街の様子と、のどかな村の雰囲気に対照的に映っていたり、食事シーンや出産後の風習(ユーファイ)についての映像があったりして、事前学習としてふさわしい内容であった。

2 「わたしは誰でしょう」

【説明カード】と【グッズ】、【写真】の三つをペアリングするグループ活動を通して、ラオスに関心を持たせ、途上国への理解を促す。

【説明カード 10 枚】

① わたしは、小イワシやフナなどの魚を原料とし、塩を混ぜて1年以上熟成してつくられます。最初に液体部分を取り出したものを「一番しぼり」とされ、砂糖を加えて瓶詰めされると、一級品となり、高値で取引されます。わたしは、料理には欠かす事のできない調味料とされ、東南アジアでは屋台や大衆食堂などのテーブルの上にわたしが置かれています。日本における醤油のような存在です。くせになる味です。さて、わたしは誰でしょう？

② わたしは遠い昔、エチオピアで誕生しました。その後、アラビアを初めとする、赤道付近の国々を旅して、世界各地で愛されるようになりました。ラオスでは、フランス人により植民地時代に持ち込まれ、標高1000m以上の高地でたくさん栽培されました。フランスが撤退した後も地元の人々に飲み物として親しまれ、ラオスを訪れる観光客にも大人気です。国の重要な農産物の一つとして、外貨獲得に一役かっています。さて、わたしは誰でしょう？

③ ラオスでは、主食としてわたしがよく食べられています。名前はカオ・チャオ。ラオスの皆さんは、わたしを蒸気で蒸して、少し芯が残っているくらいに柔らかくしたら、ディップ・カオと呼ばれる竹で編んだ入れ物に入れて食卓に並べます。わたしを食べるときは、一口分を素手でつまんでおかずと一緒に口へ運びます。わたしはラープと呼ばれる肉料理と特に仲良しです。さて、わたしは誰でしょう？

④ ラオスでの古くからの風習で、お産の後はベッドの下で火を焚く「ユーファイ」をし、体を温めます。ちょっとしたサウナのようなのです。このユーファイには、体の中を乾燥させ、筋肉を休める効果があると言いつたされており、いまでも多くの母親が実施しています。このユーファイのときに、わたしが活躍します。しかし、わたしの火力が強すぎて火傷をしたり脱水症状になったりして、再び病院に運ばれることもたまにあります。ほどほどにね。さて、わたしは誰でしょう？

⑤ ほとんどの料理にわたしが使われます。とくに、屋台でも気軽に食べられる麺料理に欠かせません。元々は日本で初めてつくられたものですが、ラオスではタイ製のものが輸入されています。東南アジアの国々でよく利用されるため、わたしの類似品も出回っています。さて、わたしは誰でしょう？

⑥ 皆さんこんにちは、僕の名前はナムグム。水が大好き。日本を初めとする、世界の先進国に出資してくっってもらったんだ。ぼくは二酸化炭素を出さないのに、環境に悪いて言う人もいるみたい。川の魚が少なくなっているって言われちゃった。でも、今のラオスにとって、僕はなくてはならない存在なのは間違いない。今後も国の重要な産業として、もっと発展させ、外貨獲得に頑張るぞ。さて、わたしは誰でしょう？

⑦ わたしはドンコー村で小学校の先生をしています。名前はファーといいます。青空という意味です。ドンコー小学校は、わたしが教員養成短大を卒業した7年前に外国の支援により完成しました。そのときから、わたしは地元であるこの村に戻ってきて3・4・5年生の先生をしています。わたしの村での産業は、稲作だけでなく、絹織物も有名で、お金が必要なときは絹織物を市場に売りに行きます。このたび、国の政策で村の観光業に力を入れることになりました。近々、日本から学校の先生たちがホームステイに来るらしいので、ラオスや日本の教育について、いろいろ話をしてみたいと思っています。さて、わたしは誰でしょう？

⑧ わたしの勤める会社は2013年10月、日本とタイの合併会社としてラオスの工業団地に誕生しました。わたしは、工場でプラスチックの部品にスプレーして色を塗る作業をしています。一つの作品が仕上がるまでに、20人が一色ずつ手分けをして塗っていきます。完成したら組み立てられて日本に輸出されるみたいです。同じ工場で働くわたしの友達のサーさん(21歳)は楽しそうに言います。「工場で働くのは初めてですが、仕事を始めたことで、収入は安定してきました。今後もわたしはこの人たちと一緒に仕事をしてみたいです。」さて、わたしは誰でしょう？

⑨ わたしはADDPでクッキーづくりをして働いています。お給料をもらうのがとっても楽しみなの。だから、月給ではなくて、毎週もらえるようにしてもらったんだ。そうでなきゃやる気が出ないの。うちのお店だけじゃないわ。友達のサーが働く工場でも一週間ごとに給料日があるのよ。そういえば、もうすぐわたしの街にも大きなショッピングセンターができるの。さあ、そのときは何を買おうかな。さて、わたしは誰でしょう？

⑩ ヴィレッジフォーカスインターナショナル代表のコンセン(女性)です。ここはNGOが運営している、子どもを保護するための施設です。悪い人にだまされて、タイなどの外国に連れ出された子どもたちを、ラオスへ帰国させ、一時的に保護して共同生活させています。子どもたちが大人になっても困らないように、職業訓練を行い、裁縫や手芸、お菓子づくりや美容に関する技能を身につけさせます。私たちのようなNGO団体は、先進国の皆さんから寄付してもらったお金で運営しています。さて、わたしは誰でしょう？



グループ活動の様子

【写真10枚】



【グッズ10個】

- ア、ナンプラー
- イ、コーヒー豆
- ウ、うまみ調味料（味の素）
- エ、もち米
- オ、炭
- カ、織物のシャトル
- キ、入浴剤
- ク、クッキー
- ケ、電源プラグ
- コ、小物入れ

3 写真をモニタに映し出し、ラオスの雰囲気伝える

「わたしは誰でしょう」の答え合わせをしながらラオスの雰囲気や抱えている課題などを伝える。

- ①食文化についての話をした。
- ②コーヒー豆の畑の中に、不発弾が埋まっている話をし、処理現場の動画を見せた。
- ③④はVTRの中に出ていた内容を確認した。
- ⑤東南アジアの食べ物に、日本で開発された調味料が普及していることを説明した。
- ⑥多くの水力発電所があり、電気の普及率は86%と高い。村に水道はなくても電気はあることを話した。

答え合わせはすべて行うが、説明は①～⑥のみ丁寧に、⑦～⑩は次回以降の授業内容の予告にもする。

4時限目：「異なる文化や生活習慣を尊重しよう」

ねらい：ラオスの実情に合わせて物事を考えることができる

<本時の流れ>

- (1) 日系企業の廊下にあった掲示物の紹介
- (2) この掲示物が貼ってある目的を考える
前時に見た入浴剤の工場であることを伝える
前時で見た工場の休憩時間の写真を思い出させる
- (3) サバナケット教員養成短大でのVTRを視聴し、
学生たちの様子や助け合い文化について考える



<VTRの内容>

(困っている現象だけでなく、その背景に潜んでいる原因に気づく)

先生たちとの対談5分……学生の学力差が昔より激しくなった

青年海外協力隊員の話5分…学生の学力不足、助け合い文化（テスト中のスマホはだめだが、教え合うのは助け合い）。教員養成短大先生も昔は助け合いをしていた？

- (4) ドンコー小学校ファー先生との対談VTRを視聴（10分程度）

<VTRの内容>

のんびりした生活……女性は家事や機織りなど、よく働くが、男性は軒下で一日のんびり過ごす。ときどき仕事をする生活

食べ物には困っていない……困ったときは食べ物を分け合う習慣（助け合い文化）がある

村の小学校……小学校は1～5年生まで。先生は3人と足りていない。村の小学校と少ない児童数。

英語の教科書は一人に一冊持っていない。

本来、英語は3年生から学習させるが、放っておくと1・2年生が遊んだりけんかしたりするので、3学年同時に授業している(ラオスは5年制小学校だが、ドンコー小学校の先生は3人しかいない)。



助け合いの文化や、ゆったりとした時間の中での生活、学習環境の未整備などについて、情報を得ることにより、生徒自らの意見を持ち、ラオスと日本の日常や習慣、考え方の違いを受け止めさせる。

5時限目：「世界を感じよう」

ねらい：世界の中での先進国の小ささを理解し、途上国との望ましい関わり方について考えることができる

<本時の流れ>

(1) 「世界がもし100人の村だったら」

2学年生徒48名と保護者を含めて64名で実施

64名の参加者は、配布されたカードに従って役割を与えられ、普段とは異なる性別・国と言語・識字や貧富を体感した。世界における所得分布を理解する場面では、ラオスでお土産として購入しておいた飴100個を世界の総所得に見立てて、5つのグループに差をつけて配分した。この活動が何人かの生徒にとって、とても印象深いものになったようで、活動を通して、世界の富のほとんどを先進国が消費していることに気づいた様子があった。

(2) ラオス旅行のススメ

首都ビエンチャンの様子や、ちょっと不思議な写真を数枚紹介しながら、ラオス旅行の楽しみ方を紹介した



スクーターは何人乗り？



札束が売られている？



夜の公園でレスキュー隊



初心者ウエートレス



どこに向かっているの？



水洗トイレの謎 他

<生徒の反応・様子>

仮説1 子どもの様子を教材にすると、生徒は関心を寄せるだろう

仮説2 活動を取り入れた授業をすることにより、生徒の学習意欲が向上するだろう

知識伝達の授業より、活動を取り入れた授業のほうが生徒の記憶に残るだろう

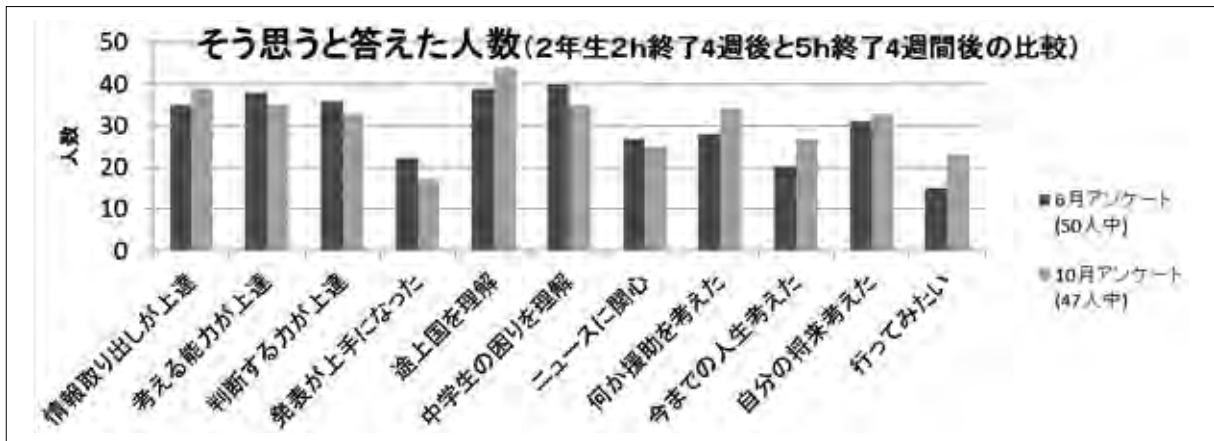
仮説3 教師の経験をもとに作成した授業を行うことで、生徒は海外や途上国に対する関心が増すだろう

関連した複数の情報を与えることで、情報の連鎖に気づき、ラオス文化へ関心を寄せるだろう

結果1 生徒の関心について

2年生を対象として6月(ラオス研修前)に1・2時限の授業を行い、11月(ラオス研修後)に現地で得た情報をもとに3～5時限を実施した際に、それぞれ4週間後にとったアンケートを比較したものである。

グラフ1



海外研修に出かけるに当たり、どのような授業を生徒たちに提供できるかを考えながら事前学習として6月に2時限ほど実施した。

1時限目は、途上国人口が世界人口の約4分の3いることや、世界中の子どものうち、学校に通えない子どもは、約3分の2いることなどの情報を読み取る学習をした。

2時限目では、その子どもたちがなぜ学校に行けないのか8つの理由を導きだし、その子だけでなく、さらに子どもの世代も学校に行けないという負の連鎖が起こる可能性があることを、カードの並べかえによって気づかせるようにした。

授業を行ってみると、当初予想していたよりも生徒たちの関心が高い様子があり、学習要素の強い「資料の読み取り」や「8つの理由を考える」ことに対して意欲的に授業に臨んでいるように感じた。

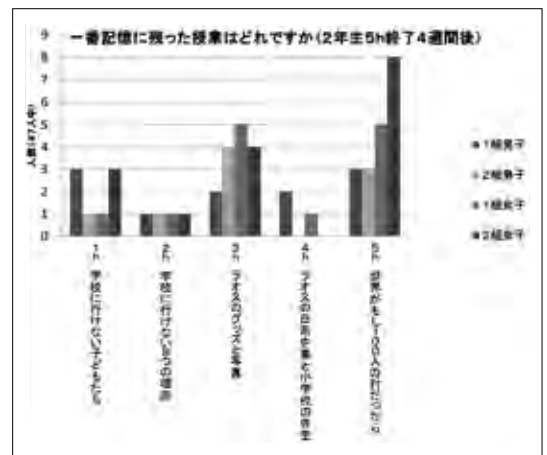
記憶がどの程度継続しているのかを確認するため、アンケートを約4週間後に設定し、上記グラフ1の項目で実施した。このグラフ1より、「途上国理解やそこに住む中学生たちの困りを理解」したと感じている生徒が6月の時点ですでに多いことから学習内容に対する関心の高さがうかがえる。その理由として挙げられるのは情報そのもののインパクトがあったことが挙げられる。

<1時限目が記憶に残ると答えた8名の自由記述より>

- ・学校に行けない理由が衝撃的だったこと(1組男子)
- ・いろいろな理由で学校に行けない子どもがいること(1組女子)
- ・途上国の子どもが建物の外で勉強していたこと(1組男子)
- ・学校に行けない子どもたちがたくさんいたこと(2組女子)

グラフ2においても、1時限目に行った情報の取り出し(アクティビティ無し)の授業が一番記憶に残っていると答えた生徒が47名中8名いることから、国際理解学習や日本以外の子どもに対して興味関心があることが読み取れる。また、この8名の多くはアンケートにて、今までやこれからの人生について考えたと回答しているが、途上国に行ってみたくと答えた生徒は一人しかいなかったことも特徴的であった。

グラフ2



結果2 学習意欲と記憶について

グループでの活動を取り入れた授業を3回行った。

2h「学校に行けないカード並べ」(海外研修前の6月実施)

カードの並べかえを4人グループで行い、負の連鎖に気づくことを目的とする活動。

3h「私は誰でしょう?」(海外研修後の11月実施)

4人グループで、ラオスの写真と関連のあるグッズの組み合わせを考える活動

5h「世界がもし100人の村だったら」(海外研修後の11月に参観授業として実施)

役割カードに従っていくつかのグループになり世界を知るための活動

グラフ2より、記憶に残っている授業として多く回答があったのが、3時限目と5時限目である。この点は予想通りである。授業としては、時間が不足気味で、途中や終わりを省略しながら授業を展開する必要があり、不完全な状態で終わってしまったが、それでも活動を伴った授業が記憶に残ると回答した生徒が多い。

また、2組女子ではお土産として飴をもらえたことが記憶に残っていると書いている生徒がいた。

結果3 経験をもとにした授業への関心や複数の情報を関連づける学習について

ラオスでの教師海外研修で得られた多くの情報には、全く別の場所で得られた複数の情報が共通していたり、別々の人物が話していたことが、後に一つの物語のようにつながったりすることがあり、旅行中に面白いと感じたことの一つであった。これを教材として作成したのが4時限目であった。

グラフ2より、3時限目と5時限目が多いことは予想通りであったが、4時限目が思いの外少なかった。

つまり、

- ・活動を伴う授業展開は◎
 - ・経験をもとに作成した授業は○
 - ・情報を共感するための授業は×
- ということがわかった。

情報の共感には、期待する方向へ生徒の思考を導く必要がある。生徒は、情報提示をした者(授業者)から資料や写真を見せられ、遠回しに伝えられた情報から答え(授業者が伝えたいこと)を発見して理解しなくてはならない。この学習過程が面白いと感じることができなければつらい課題を解いているように受け止められかねないと思った。また、最終的に、こちらの意図していることと違う感想もいくつかあった。

<4時限目が記憶に残ると答えた3名の自由記述より>

- ・小学校の先生が少ないこと(1組女子)
- ・小学校が川の中(中州)にあったこと(1組男子)
- ・ラオスの動画をいろいろ見たこと(1組男子)

期待としては、助け合い文化について、賛成・反対の考えや、学生の学力低下について課題意識を感じることを目指した。4時限目は資料を見て個人思考する時間がとても長く、つらく感じる生徒もいたようで、後の感想で述べていた。提示する資料そのものに生徒の関心があり、それを短い時間で読み取れるようなものを用意する必要を感じた。

5時限目「世界がもし100人の村だったら」の活動を終え、授業の残り10分で「ラオス旅行のススメ」として、保護者のみなさまにも是非見て、楽しさを共感できるような写真を集めてみた。

いくつかの写真の中に、「水洗トイレの謎」というタイトルの写真がある。ラオスの水洗トイレには、水を流すためのレバーやスイッチはなく、溜めておいた水を洗面器のような器にすくって流すという「手動の水洗トイレ」があることを紹介。従来型の水洗トイレは便器の縁に足を乗せて使用したり、配水管が詰まる恐れがあることから、使用済みのトイレットペーパーは便器の横にあるくずかごに捨てたりするという日本とは異なる使用方法であることを説明した。

そして、授業の最後には、わたしがラオスより帰国し、関西国際空港のトイレで思わず撮った写真を見てもらい、うなずいてくださる保護者や「あー」と思わず声をあげた生徒がいたことから、順序よく提示することで、教師が持っている情報の楽しさを伝えることは十分に可能なのだということがわかったことが大きな成果の一つとしてあげられる。



ドライブインのトイレ



サバナケット空港のトイレ



関空のトイレドアに張ってあるシール

<所感>

数日後、言語・数理運用科の授業をしに教室へ行くと、ラオスの話ではなく通常の内容であることを知った生徒から「ラオスの方がいい」と言われたこと、その反面、「先生、もうラオスはいいよ」（4時限目終了後）という意見もあり、生徒にとって慣れていない授業形態(内容)はいつも以上にエネルギーを使わせてしまうことにもなるのだろうと感じた。

生徒がどの程度の予備知識があり、どのような活動ができるかをわかっているはずであったが、実際には50分の授業時間では足りないことがあり、授業をしながら内容を厳選して、生徒に考えさせる時間や活動する時間を多めに設定しながら行った。回を重ねるごとに感覚として身につくもので、5時限目の参観授業ではちょうど50分で終わることができた。そして、何よりも、自分がやりたいと思った授業ができること、中学校全クラスの先生方の協力があったことに感謝しております。

全体を通しての成果と課題

国際理解に関する学習を行うに当たり、全校生徒に還元することを考え、発達段階を考慮しながら縦断的な計画として立てたが、わたし自身が本校勤務八年目であり、来年度は別の学校への勤務の可能性もあることから、実施は横断的に全学年全クラスで行った。また、本校の保護者向け学校評価アンケートにて、「道徳や総合など、校内の取り組みを知っている」という項目の評価があまり高くなかったため、国際理解学習を参観授業として保護者と一緒にすることにより、評価の改善を狙ってみた。（結果は年度末のため未掲載）

<成果>

海外研修中では、訪問先だけでなく、移動中や食事場所などでも多くの出会いがありました。その旅行中に会った人々が語っていた内容が、その後に出会う人々の様子や語りと重なって、まるでジグソーパズルが組み上がっていくような快感。それがいくつも重複して起こる面白さ。これは実際に教師海外研修に参加しないと味わえない経験です。

さらに、職員室でラオスの話をしていると、実は…と、ある先生の息子さん夫婦が以前青年海外協力隊で南米に行かれていたという話を聞くことができ、帰国後にも楽しい会話をすることができました。

教材づくりは時間がかかり大変です。しかし、数時間分の授業を一気につくらなければいけない今回の研修を通して、いかに短時間で必要最小限の材料で、目的とする授業を作り上げるかという、よいトレーニングになりました。また、教材づくりには共通する特徴があり、①必要な情報を丁寧に与えること。②考える時間をたくさん与えること。③答えは教師ではなく生徒の側にあること。この3つを意識しておけばいいことがなんとなくわかってきたのは、今回の研修を通して一番の成果だったのではないかと思います。

<課題>

海外研修に出発する前は、言語・数理運用科での教材作成を検討しており、数年後であっても指導案を見れば誰にでも同じ授業ができるようにするべきだと考えていました。しかし、海外研修中に感じたことは、ここで見聞きしたことを生徒に還元すべきであり、それは海外研修に参加した教師だからこそできる授業ではないか、そこに海外研修の価値があるのではないかと思うようになりました。実際、帰国して最初の教室（他教科の自習中）にて、何気ないふりをしながら教室の50インチモニタにラオスで撮った写真を写したら、黙々と自習をしていたクラスの生徒全員が不思議な表情をしながらモニタに釘付けになるということがありました。（それは、ラオスの小さなチキンライス店の壁に貼ってあるメニュー表の写真でした。）丸っこい文字と2万や4万という金額が並び、日本のものではないその写真に生徒の関心は十分すぎるほど引きつけられていました。「これ、先生が撮ったん?」「うん、そうよ」これで、つかみは十分。いつでも国際理解学習をスタートできる雰囲気がつくれると確信しました。

しかし、誰にでもできる授業ではないことは、最大の弱点でもあります。もしわたしが、転勤してしまうと、転勤先で授業ができたとしても、日浦中学校の生徒にはそれっきりになってしまうのです。わたしにとっても生徒にとっても、モチベーションの高い授業ができたことはとても大きな成果ではありますが、この気持ちの高ぶりは実際に資料集めをし、見たり聞いたりしたことから自分で解釈し、考えたという経験しないと得られないものあることは間違いありません。中国地方からは毎年8名程度の研修となりますが、今後も、より多くの先生たちに海外研修を経験していただきたいと思いました。

言語・数理運用科 学校に行きたい！ ①

1年 ____組 ____番 名前_____

- 1 資料1は、開発途上国について説明しています。表現の仕方に工夫されたところを2つ以上見つけてみましょう。

表現の工夫①	
表現の工夫②	
表現の工夫③	
表現の工夫④	
表現の工夫⑤	

- 2 資料1より、中学校に入学できる子どもの割合グラフを、わかりやすくなるように工夫して説明してみましょう。

中学校に入学できる子どもの割合を表すと、

- 3 資料2・3より、開発途上国の中学生たちはどのようなことに困っているのでしょうか。できるだけたくさん見つけてみましょう。

	開発途上国の中学生たちが困っていること	資料番号
1		
2		
3		
4		
5		

言語・数理運用科 学校に行きたい！ ②

1年 組 番 名前

4 学校に行けない8つの理由をまとめてみよう。

学校に行けないのはなぜ？

理由4 働かなくてはいけない
 貧しい家庭の子どもたちは、小さなときから路上でくつみがきやたばこ売り、荷物運び、みやげ物売りなどをしているんだ
イラスト・たなかさゆり

理由5 戦争にまきこまれてしまった
 世界には戦争がたえない。子どもたちは少しでも安全な場所に逃げたり、ときには子ども兵士として戦わされたりすることもある
撮影地リベリア

理由6 親が学校に行かせてくれない
 子どもは学校に行かず働けばいいと考える親もいるし、10歳を過ぎたばかりの女の子が、親からいわれた相手と結婚することもあるんだ

理由7 重い病気にかかってしまった
 重い病気にかかった子や体が不自由な子のための学校がない。エイズで両親を亡くした子にも薬学金や心のケアなどが必要

理由3
撮影地タイ

理由2 学校に通うためのお金がない
 授業料、教科書代、制服代など、子どもを学校に通わせるにはお金がかかる
撮影地ウガンダ

理由1
考えてみよう

これまで紹介してきた世界の国々には、学校に行けない子が多くいましたね。どうして学校に行けないのか、その理由をいっしょに見ていきましょう。理由1、3、8は、写真を見て答えを書きこんでください。

スタート 家

ゴール 学校

5 理由「 」という課題に対して、「誰が」「どのように」すれば解決すると思いますか。

なぜ、「 」のでしょうか。

解決するには・・・

誰が

どのように

もっと
知りたい!



七千七百万人が学校に行けない

ユネスコ（国連教育科学文化機関）によると、学校に行けない子どもの数は七千七百万人。でも、入学しても途中でやめてしまう子どもも多く、その数はもっと多いと考えられています。

日本では六歳か七歳になるとみんなが小学校に行くことができますね。でも、途上国の平均では、学校に行ける子どもの割合は男子八七％、女子八二％にとどまっています。中でもアフリカ、南アジア、太平洋の国々に学校に行けない子が特に多くいます。

こうした国々では、女の子は結婚して子どもを産むのが役割なので教育は必要ないという考えが根強いところが多くあります。そのため、学校に通わせてもらえなかったり、卒業する前に学校をやめなくてはならなかったりする女の子が男の子よりもたくさんいます。

もっと
知りたい!



どうして勉強が必要なの？

学校に行けないと、どんな問題があるのでしょうか。みなさんは、右の文字が読めますか？

これはアラビア語で「危険」という意味です。もしあなたがこの意味がわからずに、人がふんだり、さわったりすると爆発する地雷がある地域に入ってしまったら大変ですね。「読む」「書く」「計算する」など、学校で身につける力は、生きるために欠かせないのです。



世界のすべての子どもたちが学ぶ機会に恵まれるように、JICAをはじめ、世界のさまざまな国や団体の人々が、国際協力活動を行っています。活動の方法はさまざまありますが、大きく分けると次の三つです。

- ①みんなが教育を受けられるようにするための活動 学校のない地域に校舎をつくり、男の子も女の子も公平に教育を受けられるように活動します。教育を受けられないまま大人になってしまった人を助けることも大切です。
- ②教育の質を高める活動 例えば教材をつくって広めたり、先生にも教え方などを学んでもらったりします。
- ③良い教育が将来も続くようにするための活動 教育についての国の方針や計画づくりなどを支援します。

もっと
知りたい!



青年海外協力隊員が3万人を超える

「途上国の人々のために役に立ちたい」。そんな熱意を持った多くの市民のみなさんが、自分の得意なことや経験を生かし、ボランティアとして世界中の国々で活躍しています。「青年海外協力隊」はJICAが派遣するボランティアの一つで、二十代～三十代の若い人々が対象。四十二年前に始まり、毎年約二千五百人が約八十の国々で、教育や保健衛生を始め幅広い分野で活動しています。これまでに派遣された青年海外協力隊員の人数は、2007年6月で三万人を超えました。

単純に計算すると、日本人の約四千人に一人が青年海外協力隊員ということになります。みなさんが住んでいる地域や学校にも、青年海外協力隊員だった人がいるかもしれません。ぜひ一度、途上国のお話を聞かせてもらってはいかがですか？



アフリカのセネガルで図工の指導をする青年海外協力隊員

青年海外協力隊の経験者を講師として学校に派遣します。くわしくはJICA地球ひろば「国際協力出前講座」係（代表03・3400・7717）ウェブサイト（http://www.jica.go.jp/hiroba/study/at_school/index.html）

⑥ 「学校に行けない」のカードを、一番上に置き、そこからどのように物語がつながっていくかを考えてみましょう。

⑥ 「学校に行けない」のカードを、一番上に置き、そこからどのように物語をつなげてみよう。

①



②



③



④



⑤



⑥



⑫



⑪



⑩



⑨



⑧



⑦

総合的な学習の時間 途上国の生活ってどんな感じ? ①

2年 ____組 ____番 名前_____

- 1 封筒の中に1 2種類の「説明カード・写真・グッズ」が入っています。
 まず、説明カードをグループ内で均等に配布してください。
 それを交互に読み合い、「説明カード・写真・グッズ」の3点セットを組み合わせて
 みましょう。

- 2 印象深いと感じた写真を、ひとり一つずつ選び、その状況を説明してみましよう

選んだ写真 のタイトル	
私たちの生活 と比べて、ど のような特徴 が読み取れま すか? (正解を出す必要 はありません)	

- 3 ラオスの支援に携わっている方が作成した資料があります。文字や数字、グラフ等
 を見ながら、ラオスという国の抱えている課題を読み解いてみましょう。

順位	ラオスが抱えている課題
1	
2	
3	
4	
5	

総合的な学習の時間 途上国の生活ってどんな感じ？ ②
ラオスの日系企業とサバナケット教員養成短大の苦悩

2年 ___組 ___番 名前_____

- 1 入浴剤をつくっている日系企業（前回の授業で登場した会社）の壁に掛けてある看板です。どのような目的があるのでしょうか。



- 2 サバナケット教員養成短大の苦勞 (VTR を見ましょう)

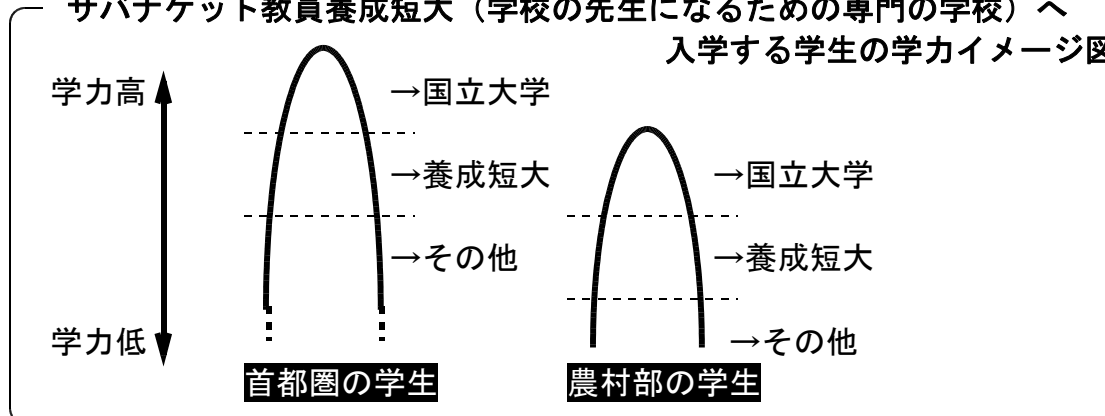
VTR を見る視点

- (1) 先生は足りてるの？ (そう思う ・ 思わない)
 (2) 助け合い文化って何？ たとえば・・・
 (3) 農村部出身の先生を養成したいのだけど・・・
何に困っているの？

— 資料 1 —

サバナケット教員養成短大（学校の先生になるための専門の学校）へ

入学する学生の学力イメージ図



3 小学校の先生と対談より

VTRを見る視点

- (1) 登場したドンコー村の人々や日系企業に勤めるラオスの人々は、何を大切にしながら生活しているのだろうか。
- (2) 何のために働いているのだろうか。(どのようなときに働くのだろうか)

－ 資料2－ イデオロギーって何？

大辞林 第三版の解説より

イデオロギー【Ideologie】

- ①社会集団や社会的立場（国家・階級・党派・性別など）において思想・行動や生活の仕方を根底的に制約している観念・信条の体系。歴史的・社会的立場を反映した思想・意識の体系。観念形態。
- ②特定の政治的立場に基づく考え。

4 私たちの日常と比べて、「ラオスの国民性」や「文化・生活習慣の違い」について、どのような特徴があると思いましたか。

(不思議に思ったこと、うらやましいと思ったこと、何とかすべきと思ったことなど)

【書籍】

- ・「集まれ地球の教室」 JICA
- ・「国際理解教育実践資料集」 JICA
- ・「わたし8歳、カカオ畑で働きつつけて。」 合同出版
- ・「私たちの道徳」 文部科学省
- ・日本経済新聞9月8日(日)五輪特報一面記事
- ・「地球家族 世界30か国のふつうの暮らし」 TOTO出版
- ・「地球の食卓 世界24か国の家庭のごはん」 TOTO出版

【教材】

- ・「ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら第5版」 開発教育協会

【映像資料】

- ・読売テレビ「グッと！地球便（ラオス）」
- ・TED リサ・クリスティン「現代奴隷の目撃写真」

【Webサイト】

- ・「JICA」 www.jica.go.jp/
- ・「開発教育協会」 www.dear.or.jp/
- ・「TED」 www.ted.com/
- ・ウィキペディア（ナンプラー）
- ・上島珈琲（コーヒーの伝搬）
- ・大辞林第三版（イデオロギー）
- ・ぱにゃにゃんブログ
- ・KP BEAU LAO Web
- ・Village Focus International
- ・NIKKEI ASIAN REVIEW Web（Mekong momentum）
- ・THE WALL STREET JOURNAL Web（Japan Inc. Goes Deeper Into Southeast Asia）

授業実践報告

経済を軸に、国の立場を想像する —支援から自立、そしてその先の経済活動—

<p>◆所属先 山口県立岩国高等学校</p> <p>◆氏名 山田 泉</p> <p>◆担当教科 現代社会 世界史A 世界史B</p>	<p>◆実践教科 現代社会</p> <p>◆対象学年 高校1年生</p> <p>◆対象人数 39人</p>
--	---

■実践の目的

(1) 生徒にとって理解しにくい内容を、分かりやすく伝える。

政治・経済のうち、特に国際経済分野は、実感することも難しく、特に理解が進みにくい内容である。しかし、今日ほど経済の自由化が進んだ社会で、知識がないままでは済まされない。その内容を、実際に教員が見てきた視点から伝えることで、生徒にとっては馴染みやすい情報として伝えられる効果がある。また経済という側面から見ると、周辺国や世界の国々との協力関係は分かりやすく、客観的な情報として伝わる。経済的に、お互いになくってはならない相手の存在を認めることで、相手に対する理解を深めることにも繋がる。

(2) 政治・経済分野と地理・歴史分野の内容を有機的につなげる。

政治や歴史的な過去、民族的な感情を抜きにして、ひとつの国を見ることは不可能だが、経済の指標という物差しを軸にすれば、その国の置かれている状況や立ち位置が、客観的に分析できる。また経済的な日本の世界での立ち位置を理解することで、同時に周辺国、貿易相手国の立場を理解することを必要とし、その中で、自ずとその国の歴史、政治、文化など、背景にまで想像を働かせる必要が出てくる。今後の学習に生きてくるきっかけとなるモノの見方を育てる。

(3) 社会事象の背景や、この先に起こってくることを考えられる想像力を育てる。

上記2の思考ができるようになれば、自ずと社会に対する主体性が生まれる。すべてのことを「自分事」として考えることは無理でも、何でも「他人事」として処理し、思考しない人間ばかりでは、成熟した社会は育たない。相手に対する相続力と、確かな情報を獲得する能力。適切な判断力。こういった力が育っていくような授業が展開できるようになることが、授業を実践する上での目標である。

■授業の構成

時限・対象	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目	国際経済のしくみについて理解する	<p>(1) 国際貿易が進展する中、日本では産業の空洞化が起こっていることと、その理由を解説</p> <p>(2) 戦後の日米貿易摩擦について解説し、戦後の日本経済の成長と、アメリカの立場の違いを考える</p> <p>(3) 外国為替と為替レートのしくみについて解説し、円高になると、なぜ日本の輸出産業にとって不利なのかを考える</p>	<p>・教科書「現代社会」</p> <p>・資料集「最新現代社会資料2016」</p>

時限・対象	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
2時限目	国際分業の実態について理解する	(1) 国際経済・国際分業の実態を、写真を通して示す (2) ラオスと日本、ベトナムのインフラの違いから、経済規模の違いを見て取る (3) 日本の支援するインフラ整備から、地理的な不利益について理解する (4) 日本企業とラオス企業の合併会社を紹介し、「産業の空洞化」の実態を理解する (5) ラオスの主要産業（食品、繊維、観光）を紹介し、開発途上国の産業について理解する	・教科書「現代社会」 ・資料集「最新現代社会資料2016」
3時限目	国際経済・国際分業の実態を、ラオスと日本経済の比較から理解する	(1) 国際収支の費目について確認する (2) 前回の授業でを使用した国際収支表を見ながら、日本の現状を理解する (3) 円高の進行と、産業の空洞化の関係を理解する。 (4) IMF=GATT体制が発足した当時の国際関係について理解する (5) 戦後の国際経済体制の変遷を追いながら、日本の発展を理解する	・教科書「現代社会」 ・資料集「最新現代社会資料2016」 ・パワーポイント（資料①） ・国際収支表（別添資料②） ・統計資料でみるラオスと日本（別添資料③）
4時限目	外国為替のしくみと国際収支について理解する 戦後国際経済の枠組みとその変化について理解する	(1) 国際収支表（別添資料②）を見て、日本の国際収支にどのような特徴があるかを確認し、ラオスでの支援とどう関連しているのかに気付かせる (2) 戦後、IMF、IBRDなどの国際金融機関が創設され、それとともにGATTが発足したことから、戦後の国際経済の流れがどのように発進したのかを理解する	・教科書「現代社会」 ・資料集「最新現代社会資料2016」
5時限目	変化する日本経済 - 戦後復興と高度経済成長 - について理解する	(1) 戦後の日本の経済が復興した背景について理解し、IMF、IBRDの役割とつなげる (2) 高度経済成長から、安定成長、日米貿易摩擦までの流れを確認し、日本経済と国際経済の変遷との関連を意識する	・教科書「現代社会」 ・資料集「最新現代社会資料2016」



3時限目：「ラオスの実態から、国際貿易の進展とその結果について理解を深める」

単元名：国際経済のしくみと動向

単元目標（ねらい）：日本が国際社会に果たすべき役割を考える。国際経済体制の変化や、為替相場の変動が、国内経済にどのような影響を与えるのか考える

<本時の流れ>

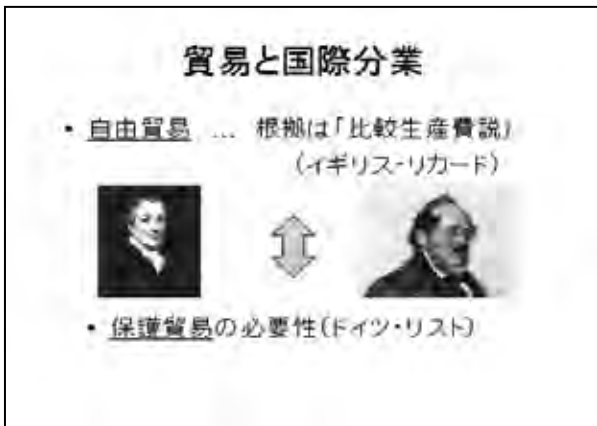
前時までに学習している内容の復習を兼ね、「自由貿易」「保護貿易」「国際分業」「比較生産費説」などの概念を、ラオスと日本の経済規模を比較する中で思い出す。また、先進工業国（日本）と開発途上国（ラオス）の実態の違いを感じ、国際経済と、その進行による経済格差について理解を深める。

<活動の流れ>

項目	学習内容・学習活動	使用教材、教員の支援など
1、前時の復習	<ul style="list-style-type: none"> ・自由貿易のメリット・デメリットについて ・国際分業の実態についての復習、本時の内容について（日本とラオスの経済の比較）の導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回までの学習内容を思い出させ、確認する 【パワーポイント1-3（以下p.p番号は、スライドの番号）】 資料①
2、ブレインストーミング	<ul style="list-style-type: none"> ・先進工業国と開発途上国の国旗を見比べ、国名を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知っている国と知らない国の違いは何かを考えさせる【p.p4-5】
3、インフラの違い	<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム、ラオスの空港の違いについて観察し、一国の経済規模の違いについて理解する ・日本の支援によって、ラオスの国際空港が建設されている実態を知る ・JICAのラオス事務所の外観から、日本の資金力、ラオスでの存在感を想像する。また、圧倒的な経済力の差を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ベトナム」も同じ東南アジアでありながら、経済成長のスピード、経済規模に大きく差が出ていることに気付かせ、既習事項である「南南問題」についても理解を深める【p.p6-13】 ・国際収支の費目のひとつである「資本移転収支」につながることを意識する【p.p14-17】
4、産業の空洞化の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・ラオスに実際に進出し、活動している事実を理解する ・日本企業とラオス企業の合併会社「KP Beau Lao」の紹介と、その立地について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 【p.p18-25】 ・合併会社とは何かについて補足 ・サワン・セノ特別経済区がどのように開発されているのかを説明し、ラオスが地理的に貿易活動に不利であることに気付かせる

項目	学習内容・学習活動	使用教材、教員の支援など
5、ラオスの産業①	<ul style="list-style-type: none"> ・特別経済区とは何かについて確認 ・なぜ日本企業が進出しているのかについて考える(「産業の空洞化」の実態について理解) 	<p>【p.p21-27】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「KP Beau Lao」の製品が100%日本への逆輸入であることを補足し、それでも海外に工場を持つことのメリットを考えさせる
6、ラオスの産業②	<ul style="list-style-type: none"> ・ラオスの主要産業は何かについて理解する ・ビール・コーヒーなどの国内需要向けが主であること、観光産業への取り組みの理解 ・ラオスの地方部の現状への理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドンコー村では織物業・観光も重要な産業であることを示す ・ドンコー村の様子から、ラオスの経済状態について想像させる <p>【p.p26-45】</p>
7、まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の授業で理解したこと、感じたことを記述する ・統計資料を示し、本日の授業を、統計資料で確認 	<p>別添資料②「国際収支表2002-2015」</p> <p>別添資料③「統計資料で見る日本とラオス」</p>

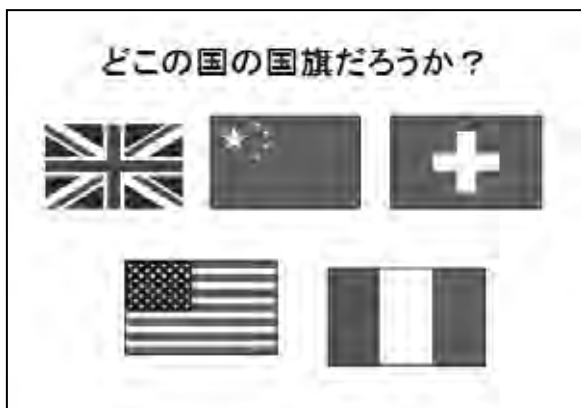
資料① 授業で使用したパワーポイント（一部抜粋）



【スライド1】 前時の復習。「自由貿易と保護貿易の違い」



【スライド2】 前時の復習。国際分業の進展とその結果



【スライド4・5】 事前研修で使われていた国旗の比較を、同じように使用した。いかに自分たちが開発途上国のことを知らないか、あるいは情報が入ってこないかに気付かせるのに、非常に効果的であり、生徒の反応も良い。



ベトナム ノイバイ空港
ラオスまでの乗り継ぎで使いました。



ラオスの空港に到着。
日本の資金援助で作られています。



【スライド6・7】ベトナムとラオスの空港との比較。同じ東南アジアでも、経済格差が大きく出ていることを、インフラ（空港）の違いから理解させる。さらに、日本の支援が入っていることを伝える。

国内線の売店



サバナケット空港
バッゲージクレーム



【スライド11・15】ラオスの空港の規模について実感させる。「日本の空港」とのギャップから、先進国と開発途上国との経済規模の格差を、ここでも理解させる。

サワン・セノ特別経済区はどこにあるか？



KP BeauLaoの納入先は(株)バンダイ



【スライド21・26】経済特区に工場を持つ日系企業（ラオス企業との合弁会社）についての紹介。地理的に不利な条件を克服するために、空港や港につながる道路の建設の支援がされていることと、日本に逆輸入している実態から、「産業の空洞化」を理解する。

ラオスの主要産業とは何なのか？
◎ビール、コーヒー、流通業、飲食業
など、国内の需要を満たすもの。



メコン川の中州(島)に
ドンコー村はあります。



【スライド28・30】ラオスの主要産業としては、上記のような国内需要向けの産業が中心であることを示し、一方で、ドンコー村が観光資源として注目されていることを紹介する。

住居は高床式の家屋。



民家の台所。



【スライド36・39】未開発のラオスを観光資源として売り出す村、ドンコー村の様子から、ラオスの気候、地方の生活の様子も併せて理解させる。

民家の片隅には、
糸をつむぐ手動の機械。



織物業は、
ラオスの主要な産業のひとつ。



【スライド41・42】ドンコー村をはじめ、ラオスの主要な産業のひとつとして、織物業があることを紹介し、軽工業中心で、重工業には発展していないことに気付かせる。



観光客が購入
していく、キー
ホルダーも
貴重な収入

ラオスという一国からでも、
・日本企業の進出 ・開発途上国の実態
・日本政府の支援(ODA) ・南南問題が見える



【スライド47・48】「経済格差」とは、どういったものなのか。また、これが「豊かさ」の指標であるのかどうか。そういったことまで考えさせたい。まずは、数十枚の写真からだけでも、得られる情報が多いことに気付かせたい。

<生徒の反応・様子>

普通の授業は教員による一方的な教授に終わることが多いためか、ラオスの写真を興味深く見ていた。「ラオス」自体になじみが薄いため、まずその位置の確認などから入った。

<授業後のアンケートより> (一部抜粋)

- ・今までラオスという国に対して具体的なイメージがあまり持てていなかったが、今回の授業でラオスについて (a) 大まかに知ることができて良かった。日本との関係もあることが分かり、興味深かった。
- ・空港や港などを見れば、その国の経済の状況が分かると先生が言っていたけど、本当にその通りだと思いました。日本とラオスとの差がこんなにあるとは思わなかった。
- ・空港の違いに驚きました。本当に空港の規模でその国の財政が分かるんだなと思いました。
- ・ラオスと日本との経済規模や公共事業の違いが (b) 写真から見て分かりました。(c) 日本は豊かなのだと感じました。結構近い国なのに、すごい違いがあるなと感じました。
- ・日本の援助がなかったら、国として機能していなかったと思う。このままで (d) 経済問題が解決するのは難しいと思う。
- ・その国について学ぶのに一番良い方法は、教科書でもインターネットでもなく、やっぱり「その国に実際に行ってみる」ことなんだなと思いました。
- ・国の位置は、発展している (e) 「中国」と近くても経済規模が全く違っていたので驚いた。
- ・日本が他国に支援するのはとても良いことだけど、(f) その見返りはちゃんとあるのかなと思った。日本は(財政的に)苦しくなっているので、(支援する政策を)改善した方が良かった。
- ・島国と内陸国では、貿易など、全く違う点がいくつもあると分かって、(g) ますます歴史が知りたくなりました。

<授業アンケートを通じたの所感>

伝えること、見せるものが多く、一方的な授業になってしまったが、生徒の関心は引き出せた感触がある。やはり、写真を使うと生徒の関心や理解が全く違ってくるという手ごたえがあった。【下線部 (b)】

ただ、写真を見せただけでは、本当の意味での「理解」というのとは全く違う。歴史と地理、政治と経済、全てが関わりあって、その国の現在の在り様を決定していることに考えが及ぶような授業を、継続的に展開していくことが必要である【下線部 (g)】。

また、生徒に「考えさせる」という作業自体も、訓練が必要である。急に「考えましょう」「話し合いましょう」と言われても、日常的にそういった活動や思考に生徒が慣れていないと、不完全燃焼で終わってしまい、授業が中途半端になる。もっと言えば、生徒に見せる資料も、インパクトが小さかった。視覚的なインパクトという意味ではなく、生徒に「あれ？」とか、「そうだったのか！！」というような、知的好奇心を刺激するような見せ方が出来ていなかった。

授業後の意見も、まだまだ表面的なものが多く、理解が浅いことが見て取れる。【下線部 (a)】。これからの授業の中で、あるいは2年からの歴史の授業で、国際的なものの見方や歴史的なものの見方を育み、一つの事象から多くのことを読み取れる能力や視点を持てるようになってほしいと思う。そこから、【下線部 (c)】のような感想から、さらに、【下線部 (d)】や【下線部 (f)】のような、批判的なものの見方を育てることも同じように必要である。

全体を通しての成果と課題

<成果>

まず、この研修に参加するにあたり、事前に多くの研修に参加させていただいた。その中で、普段、自分一人で授業をする中では得ることのできなかつたモノの見方、教材などに触れることができ、事前・事後の研修を含めて、本当に実りの多い研修であったと感じている。

現地で出会い、ご協力頂いた通訳、コーディネーターの方々はもちろん、全ての人のつながりが、刺激、そして情報を得られる、貴重な財産である。これらの出会いは、こういった研修でなければ得られなかったものであり、余すことなく、生徒たちに還元し続けたいと思う。さらに、「開発教育」という新たな視点を持つこともできた。これを機会に、地歴・公民科という教科を、より生徒に分かりやすく伝えていこうという自分自身のモチベーションにもつながった。

<課題>

「ラオスで見てきたことを、なるべくたくさん伝えたい」という思いから、一回の授業で、インフラの規模から観光産業への取り組み、ラオスの地方の生活など、多岐に渡る資料を示してしまった。スライドの数は、48枚におよび、教員が伝えることがほとんどの時間をとっていたことに対する反省が大きい。

一回の授業では思い切って、見せる資料を絞り、考えさえるポイントを絞るべきであった。ラオスの生活自体が生徒たちにとっては物珍しいので、「わー、すごい」という単純な感想で終わってしまうことだけは避けたい。

一枚の写真から何が分かるか、その読み解きの能力を育てることが肝要である。何もかも見せてしまうのでは、生徒の思考能力が育てられないという反省がある。実際にラオスを訪れ、現地で集めた膨大な数の写真や資料は、生涯の教員生活を通じ、継続的に整理し、まとめ、伝えていく作業をしていくだけの覚悟が必要であると感じた。

また、高校の地歴・公民科の授業では膨大な知識を伝えるため、どうしても一方的な講義形式の授業で終始してしまいがちである。しかし、本当の意味で、生徒が地域、国際社会について理解し、与えられた知識を活用していくためには、社会の事象を深く読み解いていく洞察力を養う必要がある。表面的な部分だけ見て終わるのではなく、その背後にある歴史、地理的な条件、長く根付いた文化など、その国の奥行きを想像する力を育てなければならない。「何のために歴史を学ぶ必要があるのか」「今、見えている現象は本当に正しく、これが全てなのか」。この問いに生徒たちが気付けるよう、様々な角度から、切り込む工夫を続けたい。

【書籍】

- ・「世界を舞台に歴史授業をつくる―嫌われても世界史はやめない！―」 原田智仁著 明治図書
- ・「世界史授業デザイン―思考力・判断力・表現力の育て方―」 福井憲彦・田尻信壹（編著） 明治図書
- ・「本当の豊かさとは何か」 暉峻淑子 岩波新書

【教材】

- ・高等学校公民科用教科書 東京書籍「現代社会」
- ・第一学習社「新版 最新 現代社会資料集」
- ・二宮書店「データブック・オブ・ザ ワールド2016」
- ・青年海外協力隊 宮川氏からのメッセージ

【webサイト】 財務省HP「国際収支の推移」

- ・ https://www.mof.go.jp/international_policy/reference/balance_of_payments/bpnet.htm

別添

資料② 国際収支表

年度		経常収支① +②+③	貿易・サー ビス収支②	貿易収支	輸出	輸入	サービス収 支	第一次所得 収支②	第二次所得 収支③	資本移転収 支	金融収支	直接投資	証券投資	
				モノの輸出 入の差			輸送費、通 信費、金融 、保険等、 形のないサ ービスの取 引の差	対外資産か らの投資収 益（株の配 当、国債の 利子、工場 の収益など ）	国際機関へ の拠出、政 府や民間に よる無償援 助など、対 価を伴わな い資金移動	政府が海外 に行う資本 形成の援助 （道路や港 など）など の収支	海外に工場 を建てるな どの直接投 資、外国の 株式や債券 を購入する 、証券投資 などの収支	海外での企 業経営、外 国企業の買 収	外国の株式 や社債に投 資して得た 配当	
平成	14	2002	136837	64690	121211	489029	367817	-56521	78105	-5958	-4217	133968	24331	131486
平成	15	2003	161254	83553	124631	513292	388660	-41078	86398	-8697	-4672	136860	29643	114731
平成	16	2004	196941	101961	144235	577036	432801	-42274	103488	-8509	-5134	160928	35789	-23403
平成	17	2005	187277	76930	117712	630094	512382	-40782	118503	-8157	-5490	163444	51703	10700
平成	18	2006	203307	73460	110701	720268	609567	-37241	142277	-12429	-5533	160494	70191	-147961
平成	19	2007	249490	98253	141873	800236	658364	-43620	164818	-13581	-4731	263775	60203	-82515
平成	20	2008	148786	18899	58031	776111	718081	-39131	143402	-13515	-5583	186502	89243	281887
平成	21	2009	135925	21249	53876	511216	457340	-32627	126312	-11635	-4653	156292	57294	199485
平成	22	2010	193828	68571	95160	643914	548754	-26588	136173	-10917	-4341	217099	62511	127014
平成	23	2011	104013	-31101	-3302	629653	632955	-27799	146210	-11096	282	126294	93101	-135245
平成	24	2012	47640	-80829	-42719	619568	662287	-38110	139914	-11445	-804	41925	93591	24435
平成	25	2013	44566	-122521	-87734	678290	766024	-34786	176978	-9892	-7436	-4087	142459	-265652
平成	26	2014	38805	-134988	-104653	740747	845400	-30335	193738	-19945	-2089	62371	125466	-48330
平成	27	2015	164127	-23072	-6288	752653	758941	-16784	206526	-19327	-2713	211452	158451	160620

単位（億円）

財務省HPより（国際収支 統計資料）

資料③統計資料で見る日本とラオス

	日本	ラオス
経済	耕地は国土の12%だが、集約的な土地利用により、高い生産性を維持、米作中心の農業から、園芸農業や畜産業が発達。水産量は世界有数の漁獲高で、輸入量も増加。鉱産物はほとんどを輸入に依存。	農業／チーク材などの農林産物が主力。工業／木材加工業、水力発電 近年は、衣料品など軽工業が発展。
出生率	8.1‰	26.8‰
乳児死亡率	2.1‰	54‰
平均寿命	83.3歳	68.2歳
識字率		79.9%
年齢別人口構成	年少／13.1% 生産／60.3% 老年／23.6%	年少／34.1% 生産／62.1% 老年／3.8%
産業別人口構成	1次／3.6% 2次／24.4% 3次／70.4%	1次／82.2% 2次／9.3% 3次／8.6%
国民総所得	5兆8999億ドル	98億ドル
一人当たり国民総所得	46,330ドル	1,450ドル
国内総生産成長率	-0.06%	7.4%
言語	日本語	ラオス語（公用語） フランス語、英語、少数民族言語
民族	日本人、朝鮮人、中国人、日系ブラジル人、北海道に少数民族のアイヌ	低地ラオ人／67% 丘陵地ラオ人／17% 山頂ラオ人／7.4%
宗教	神道、仏教、キリスト教(二重所属がある)	仏教／66.8% キリスト教／1.5%
土地利用	農地／12.5% 森林／68.6%	農地／7.0% 森林／67.6%
輸出	6,903億ドル（機械類、自動車、精密機械、鉄鋼、化学薬品）	23億ドル（銅、電力、衣料品）
輸入	8119億ドル（機械類、原油、液化天然ガス、衣類、石油製品、）	30億ドル（資本財、消費財、電力、衣類）
貿易依存度	輸出15.0%、輸入17.6%	輸出15.0%、輸入17.6%
通貨	円	キープ（1キープ=0.02円）
外貨準備高	1兆2607億ドル	12億ドル

「2016 データブック オブ・ザ・ワールド（二宮書店）」より

ラオスから学ぶ！

～世界の人々と共に生きるために、私たちにできることは？～

◆所属先 盈進中学高等学校
 ◆氏名 上田 智子
 ◆担当教科 数学

◆実践教科 数学Ⅱ
 ◆対象学年 高校2年生
 ◆対象人数 77人

■実践の目的

- ・生徒達にとっては未知の国であるラオスについて、様々な視点から人々の生活を想像し、発展途上国が抱える複合的な課題や貧しさについて考え、また一方で発展途上国の豊かさを知ることで、国際的な視野を広げる。
- ・戦争、そして貧困がもたらす多くの課題について知り、計算を用いて解決策を考えていく中で、将来理系の立場から関わることのできる国際協力について考える。

■授業の構成

時限・対象	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1～2時限目	<p>数字からラオスを想像し、ラオスを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉は読めなくても、図や数式で問題を理解し、それを解くことで、数学は世界共通の“言語”である、ということを知り、ここから数学を使って発展途上国の問題を考えていききっかけにする ・数字の比較をすることで数字から見えてくるラオスの現状を知り、抱えている課題に気づく ・自分達と変わらない部分や日本より豊かである部分にも気づく ・ラオスが、自分とは関係ない遠い世界ではない、ということに気づく 	<ol style="list-style-type: none"> (1) ラオスで購入した現地の数学の教科書から、ラオス語で書かれた数学の問題（積分を使って図形の面積を求める問題）を1題解く (2) 日本とラオスを比較した様々な数字（○：○）を、「基本情報」「経済」「教育」「医療」の4つの分野に分け提示し、何の数を表しているかを考える（人口、森林率、GDP、小学校の卒業率、成人の識字率、乳児死亡率など） (3) 数字から考えられること、予想されること、想像できることについて考え、グループごとに意見を共有する (4) 研修中にラオスで出会った、ラオスで働く日本人の方々の言葉をグループで読み、その文章からさらに深く考えていく (5) グループの代表者が各班で出た意見を発表し、全体で共有する (6) 最後に、ラオスの大学と大学生の生活を紹介した現地のフリーペーパーを紹介し、同年代のラオスの人々の生活について知る 	<ol style="list-style-type: none"> (1) ラオスの数学の教科書・プリント (2) ワークシート・世界地図 (3) ワークシート (4) ラオスで出会った、ラオスで働いている日本人の方々の言葉のプリント (6) ラオスの大学と大学生の生活を紹介した現地のフリーペーパーのコピー

時限・対象	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
3～4時限目	<p>ラオスが抱える課題の1つである不発弾の問題について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラオスの負の一面として、不発弾の問題があることを知る ・戦争の負の遺産が、戦後も人々に及ぼす影響について知る ・不発弾が残っていることで連鎖的に引き起こされる多くの問題点について考え、戦争の負の遺産の影響の大きさに気づく ・不発弾除去のシミュレーションを行い、作業には膨大な時間と費用がかかることや、様々な支援の仕方があること、また他国との関係の重要性について知る ・未来を予測し、課題を解決するために、数学は有効な手段である、ということに気づき、将来理系の立場から貢献することのできる国際協力について考えるきっかけとする 	<ol style="list-style-type: none"> (1) ラオスに残る不発弾の数と日本に残る不発弾の数の比較を行う (2) パワーポイントで不発弾について説明する (3) ラオスの不発弾被害の現状について描かれた漫画を読み、不発弾がラオスの人々に与える影響について知る (4) 不発弾が残っていることによってラオスの人々にもたらされる様々な影響について考え、班で意見を共有する (5) 不発弾除去作業の現状について描かれた漫画を読み、不発弾除去の現状について知る (6) 実際に不発弾除去現場を訪れた際の写真や不発弾を爆破処理する際の映像を見せ、戦争の負の遺産の大きさと、不発弾除去の重要性について知る (7) 不発弾除去作業を行う上での現状での問題点や課題について考え、班で意見を共有する (8) 各班で2チームに別れ、条件カードを引きながら不発弾除去のシミュレーションを行う 	<ol style="list-style-type: none"> (2) 不発弾について説明したパワーポイント (3) ラオスの不発弾の現状について書かれた漫画 (4) ワークシート (5) ラオスの不発弾除去作業の様子について書かれた漫画 (6) 不発弾除去現場の写真・不発弾処理（爆破）の動画 (7) ワークシート (8) ワークシート・シミュレーションの際の条件カード・さいころ
5時限目	<p>世界の人々と共に生きるために、自分たちにできることについて考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習してきたことを受けて、今自分達にできること、そして将来できそうなことについて考える 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 不発弾除去のシミュレーションを行ってみて、その中で気づいたことや分かったこと、考えたことをまとめ、班で意見を共有する (2) 不発弾を加工して作られたスプーンやアクセサリーを実際に手にとり、そこに付属されている平和を願う英語のメッセージを読む (3) これまで学習してきたことを受けて、今自分達にできること、そして将来できそうなことについて考え、班で意見を共有する 	<ol style="list-style-type: none"> (1) ワークシート (2) 不発弾を加工して作られたスプーンやアクセサリーと付属のメッセージ (3) ワークシート



3～4時限目：

「ラオスが抱える課題の1つである不発弾の問題について考える」

ねらい：1.ラオスには、ベトナム戦争終結後40年以上経った今でも、戦時中に投下された爆弾が不発弾として多く残り、長い間ラオスの人々を傷つけ続けている現状があることを知り、そこから連鎖的に様々な問題が起こっていることや、戦争の負の遺産が戦後も人々に及ぼす影響の大きさについて考える。

2.実際のデータをもとに、ラオスに残る不発弾を除去するシミュレーションを行い、作業にかかる時間や予算の膨大さを実感し、この問題を解決するには他国との関係性が重要であることや、支援には金銭的な支援だけでなく、技術的な支援など様々な形がある、ということを知る。

3.未来を予測し、課題を解決するために、数学は有効な手段である、ということに気づき、将来理系の立場から貢献することのできる国際協力について考えるきっかけとする。

<本時の流れ>

(1) 問題提起

Q. 次の数字は何について比べた数字でしょうか？

ラオス	：	日本
600,000 ～ 900,000 トン	：	2,600 トン

A. それぞれの国内に残る不発弾の量（推定）

今日の授業では、ラオスが抱える課題の1つである不発弾の問題について考えていくことを伝える。また、不発弾の問題がラオスだけの問題ではなく、実は日本の問題でもあることに気づく。

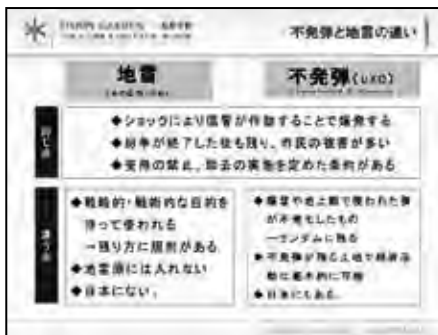
(2) 不発弾についての説明

パワーポイント（資料1）を使い、ベトナム戦争時にラオスが爆撃を受けた場所を示す地図や、不発弾の種類、不発弾と地雷の違いなどを説明。

<資料1 パワーポイントの一部>



米軍による爆撃が行われた地域を表す地図。ベトナム戦争でラオスが大きな被害を受けた背景についても説明した。



地雷については知っている生徒もいたが、不発弾については初めて聞く生徒がほとんどだった。地雷と不発弾の違いについて説明した。



不発弾の種類について説明。中でもクラスター爆弾の子爆弾であるボンビーの危険性や、ボンビーがラオスに多く残っていることを伝えた。

(3) 不発弾がラオスに残っていることによって、ラオスの人々に連鎖的にもたらされる影響について考える

- ① ラオスに残る不発弾が、戦争が終わり40年以上経った今でもラオスの人々を傷つけている現状を描いた漫画（井上きみどりの日本とアジアの絆をたどる旅『戦争のあとに残るもの ～ラオスの不発弾～』）の一部を読み、不発弾被害の現状を知る。
- ② 漫画から読み取ったことも踏まえ、多くの不発弾がラオスに残っていることによってラオスの人々にもたらされる影響にはどのようなことがあるかを考え、ワークシートに挙げていく。
- ③ 挙げた意見を班の中で共有する。また、これらの作業を通して、不発弾除去の重要性を知る。

<②で生徒から挙げた意見>

- ・ たくさんの方が被害にあい、ケガをしたり命を落したりする。また、命が助かったとしても、様々な後遺症が残り、その後の人生が苦しい。ケガの治療費も負担になる。
- ・ 被害にあい、手足を失ってしまった人が差別を受けるのではないか。そのせいで仕事にもつきにくい。
- ・ 安心して暮らせない。子ども達も外で気軽に遊べなくなる。安心して農作業も行えない。
- ・ 建物を建てたり、道路を作ったりする際に、毎回調査が必要になる。→発展が遅れる原因になる。
- ・ 観光客がラオスは危険だと考えて来ない。悪いイメージを持たれてしまう。
- ・ 不発弾の残る地域とそうでない地域で、経済格差が起こるのではないか。
- ・ 不発弾に怯えながらも、その土地で仕事をしないと生きていくことができない苦しさがある。
- ・ 不発弾除去のために森林を伐採すると、土砂崩れなどの新たな災害が起きやすくなるのではないか。

(4) 現在ラオスで行われている不発弾除去の活動内容について説明

- ① (3) で使った漫画の不発弾除去作業について描かれた部分を読む。
- ② ラオスで実際に訪れた不発弾除去現場の写真（資料2）や、不発弾を爆破処理する際の動画を見ながら、除去現場が人々の生活のすぐそばにある現状や現場で聞いたエピソード、爆破処理の際に感じた恐怖などについて説明する。
- ③ 不発弾除去作業を行っていく上で考えられる問題点について想像し、ワークシートに挙げていく。その際、1～2時間目に学習したラオスの情報（森林率や国の経済状況など）も考慮する。
- ④ 挙げた意見を班の中で共有する。

<資料2 説明に使用した写真の一部>



不発弾除去現場への入り口の写真。近くには小学校もあり、不発弾が人々の生活のすぐそばにあることを伝えた。



不発弾除去作業を行うための作戦ボード。チームのリーダーの方から説明を受けている様子。



不発弾除去作業を行うチーム。女性の作業員がいることも伝えた。1チーム11人で作業を行う。



不発弾を探す金属探知機。
日本からの資金援助で購入されたもので、
日の丸がついている。



不発弾の爆破処理を行うスイッチ。
離れた場所でこのスイッチを押し、爆破処
理を行う。機械の簡易さなども指摘した。



日本から寄付された灌木除去機。作業の効
率化に貢献する一方で、ラオス語のマニ
ュアルがないために使われていない機械があ
ることも伝えた。

<③で生徒から挙げた意見>

- ・膨大な費用と時間がかかる。
- ・国土が広く、人口が少ないので、人手が足りない。
- ・残っている不発弾の数に比べて、作業員が少ない。
- ・基本、手作業で処理が行われている。→効率が悪く、危険が伴うのでは？
- ・森林が多く、調査が大変。また、草抜きなど、除去作業に入るまでの工程に時間がかかる。
- ・森林では重機が入らず、作業効率が上がらない。
- ・周りにすぐ民家があったりして、爆破処理するには安全確保が難しい。
- ・他国からの具体的な支援が必要だが、支援の仕方を考えないといけない。使えない機械を送っても仕方ない。→モノやお金の支援だけでなく、使い方を教えるなどの技術面での支援も必要なのではないか？
- ・教育が十分でないために、作業員が高度な技術を使えない。不発弾を処理する技術も育ちにくい。また、そもそも不発弾に対する知識も少ないのではないか。
- ・教育が十分でないため、不発弾の恐さや被害の現状などを他国に伝えていく活動ができていないのではないか。

*生徒からの意見としては挙げてこなかったが、爆破処理を行う場所のすぐ近くには人々の生活があり、爆破の音を日常的に聞くことで、周辺に住む人々や子ども達の心に様々な影響（恐怖心やアメリカへの恨みなど）を与えてしまう恐れがあること、そしてその恨みが新たな戦争を生み、負の連鎖が起こる可能性もあるのではないかと、という視点も伝えた。

(5) ラオスに残る不発弾を除去するシミュレーションを行う①

ラオス政府が公式に発表している国内の不発弾汚染面積や残っていると推定される不発弾の数、これまでに行ってきた不発弾除去作業の実績、また他国からの支援の状況などを提示し、ラオスに残る不発弾をすべて除去し終えるまでにどのくらいの時間がかかるかを試算する。また、2017年～2020年までの3年間で処理できると予想される面積を具体的に計算してみる。

(ワークシート①、②(資料3)にそって計算していく)

<資料3 ワークシート①、②>

ラオスに残留する不発弾の被害地域を示したものです。
(地図による爆撃データで、色が付いている部分が爆撃ポイントです。)

() 班 名 前 ()

地図より...

ラオスの不発弾汚染面積は
国土の約 _____

ラオスの国全体の面積は、約 24 万 km² なので
不発弾が残っている面積は、約 _____ km²
と推測される。

Q: ラオスに残留する不発弾について、以下の情報をもとに、すべて除去し終えるまでにこれからあとどのくらいが経過が
かかるかの計算してみましょう。

・ラオス政府が公式に発表している不発弾汚染面積は 8 万 7000km²、
約 8000 万個 の不発弾が残っているとされている。

・1996 年に、不発弾除去を目的とした施設 (UXO-LAO) をラオス政府が創設。
2010 年までに 44.6 万個の不発弾を除去。
既述、2015 年までに 100,000ha の不発弾の除去を行った。
(下のグラフも参考にしてください)

・不発弾処理にかかる費用は、1ha あたり 1,500 万キープ。(1円 = 約 71キープ)

・除去に関わっている人員…約 1200 人。

・2016 年 9 月 6 日、アメリカがラオスの不発弾除去のために、向こう 3 年間に限り、
9,000 万ドルの支援を行々と表明。(1ドル = 約 115円)

【不発弾の年間除去面積を表すグラフ】

単位：ヘクタール

【UXO（不発弾）セクターに対する各国からの年別支援額（2000 年～2014 年）】

※ 支援額は UXO セクター全体に対するもの。
※ ラオス政府は、年間 \$50 million が必要と試算している。

まず、様々な予算をすべて日本円に直して計算してみましょう。

・不発弾処理にかかる費用は、1ha あたり 1,500 万キープ ⇒ 1ha あたり 約 _____ 円

・アメリカがラオスの不発弾除去のために、向こう 3 年間に限り、9,000 万ドルの支援を行々と表明。
9,000 万ドル ⇒ 約 _____ 円

この予算をすべて除去作業に利用したとすると、除去できる面積は _____ ha

・ラオス政府は、UXO セクターに対して、各国からの支援が年間 5,000 万ドル必要と試算している。
5,000 万ドル ⇒ 約 _____ 円

この予算をすべて除去作業に利用したとすると、除去できる面積は _____ ha

↓

では、2017 年からの 3 年間、アメリカからの支援が実現し、各国からの支援も年間 5,000 万ドルが実現
したとします。すると、3 年後の 2020 年までに、_____ ha の不発弾が処理されます。

【計算スペース】

・1996 年に UXO-LAO が創設されてから現在までの 20 年間で不発弾の除去が行われた面積は、
_____ ha で、不発弾汚染面積全体の約 _____ %

処理された不発弾の個数は _____ 個で、これは全体の約 _____ %

これだけの情報で単純に計算すると、すべて除去し終えるのに、あと _____ 年ものかかる…！！

しかし、実際には、不発弾の年間除去面積や他国からの支援も徐々に増え続けていることを考えると、もう
少し短い期間ですべて除去し終えることが出来るはず…

(6) ラオスに残る不発弾を除去するシミュレーションを行う②

2020年以降の不発弾除去のシミュレーションは、班で2チームに分かれ、それぞれ条件カード（資料4）をひきながら、ひいたカードに書かれている条件を反映させて計算を進めていく。計算は5年単位で行う。

（ワークシート③（資料5）にそって計算していく）

- ・それぞれのチームがサイコロを振り、さいころに書かれた番号と同じ番号のカードを引く。
- ・2回同じサイコロの目が出たチームは、★のマークがついた2枚のカードから1枚を選択してひく。
- ・最大6回カードをひき、ラオスに残る不発弾をすべて除去し終えるのがいつになるかを計算する。

（カードを6回引き終わる前に不発弾汚染面積が0haになったチームは、そこで終了する）



条件カード



カードに書かれた条件をもとに計算



グループで協力し、話し合いながら作業を進めています



<資料4 条件カード>

<p>① 日本から寄付した灌木除去機。これまでラオス語のマニュアルがなく使えなかったが、ついにラオス語のマニュアルが完成！ 作業効率が1.5倍に！</p>	<p>② アメリカから再び1千万ドルの支援が得られる。これを山岳地帯の道路の建設に利用。その結果、3年後から作業効率が2倍に！</p>	<p>③ 不発弾の除去が進むことにより国が発展。その結果、作業員が現状の待遇に不満を持つように…。ついにストライキを起こし、1年間作業効率が1/2に…</p>
<p>④ 日本から技術協力プロジェクトとして、現場作業員の指導を行うチームが派遣される。技術指導に加え、会社のIT管理なども行われ、作業効率が1.5倍に！</p>	<p>⑤ ドイツが新しい機械を開発！ルンバのように自動で不発弾を感知するロボットがついに完成！作業効率が2倍に。なによりもこの機械のおかげで作業員の安全性がより高まった。</p>	<p>⑥ 隣国、カンボジアから、地雷除去の際のノウハウ（「ランドリリース手法」など）を学ぶ。これにより、作業効率が大幅にUP。 3年後に作業効率が2倍に！</p>
<p>★ ある国で大きな自然災害が起こる…。その影響で、この年は各国からの支援が減る。 2年間作業効率が2/3に…</p>	<p>★ 不発弾の除去が進むことにより、国が発展。レートがよくなる。その結果、作業効率がこれまでの1.2倍に！</p>	

<資料5 ワークシート③>

<p>2020年</p> <p>ここまでことを整理すると...</p> <p>(1995年～2015年までの20年間で処理された面積が _____ ha.</p> <p>2017年～2020年までの3年間で処理された面積が _____ haなので、</p> <p>残る不発弾汚染面積は _____ haです。</p> <p>*ここからは、順ごとに、条件カードを引き、その条件を適用しながら計算を進めてもらいます。 (各国が年の年間5,000万ドルの支援は継続して続いていくものとします。) カードは5年ごとに引いていきます。順のメンバーで協力して計算をして下さい。</p>	<p>2040年</p> <p>2036年～2040年までの5年間に処理される面積が _____ haになるので、</p> <p>残る不発弾汚染面積は _____ haです。</p>
<p>2025年</p> <p>2021年～2025年までの5年間に処理される面積が _____ haになるので、</p> <p>残る不発弾汚染面積は _____ haです。</p>	<p>2045年</p> <p>2041年～2045年までの5年間に処理される面積が _____ haになるので、</p> <p>残る不発弾汚染面積は _____ haです。</p>
<p>2030年</p> <p>2026年～2030年までの5年間に処理される面積が _____ haになるので、</p> <p>残る不発弾汚染面積は _____ haです。</p>	<p>2050年</p> <p>2046年～2050年までの5年間に処理される面積が _____ haになるので、</p> <p>残る不発弾汚染面積は _____ haです。</p>
<p>2035年</p> <p>2031年～2035年までの5年間に処理される面積が _____ haになるので、</p> <p>残る不発弾汚染面積は _____ haです。</p>	<p style="text-align: center;">↓</p> <p>*このペースで作業を続けていくと、ラオスに残る不発弾をすべて除去し終えるのは _____ 年です！</p> <p style="text-align: center;">() 班 名前 ()</p>

(7) まとめ

シミュレーションを通して気づいてほしい視点（不発弾の問題を解決するには他国との関係性が重要であること、支援の仕方にも“金銭面”での支援、“ハード面”での支援、“技術面”での支援など、様々な形があること、など）や、不発弾の問題はラオス一国の問題ではなく世界共通の課題であることを伝えた。また、“知る”ことの重要性についても話をした。今回初めて不発弾の問題について知った生徒も多いと思うが、まずは世界で起こっている様々な出来事を知らなければ、その解決に向けて動くことはできない、“知る”ことが“命を救うこと”にもつながる、ということを伝え、世界で起こっていることやニュースに関心を持ってほしいことを伝えた。最後に、今回の授業を理系の生徒を対象に行ったねらいについて話をした。これから先、将来の進路を考える際に、理系からできる国際協力があること、また理系だからこそできる国際貢献もたくさんあることを伝え、進路選択の際の参考にしてほしいことを伝えた。

<児童（生徒）の様子・反応>

今回授業を行った生徒達は中高一貫生で、中学1年生のときから関わりのある生徒達であるため、話し合いをしても意見が出やすい雰囲気がある。今回の授業もみんな真剣に話を聞き、作業にも積極的に取り組んでくれた。不発弾の被害の話や爆破処理の映像を流した際には、目に涙を浮かべながら話を聞いてくれていた生徒もいた。また、この授業を行った次の日に、浜松で不発弾を爆破処理した、というニュースがあったが、関心を持って見てくれていた生徒もいた。

【シミュレーションを行う中で気づいたことや考えたこと】

- ・シミュレーションの中で、技術が進み、作業効率がどんどん倍になっていっても、不発弾をすべて除去し終えるにはあと100年くらいかかった。本当に終わらない作業なのだな、と感じた。
- ・不発弾の年間除去面積を表すグラフから、年によって状況が違うことがわかり、不安定であると感じた。
- ・他国の支援が絶対に必要で、資金や技術面など多くのものを援助してもらわなければ不発弾を処理し終えることはできないと思った。ただ一方で、支援の仕方も工夫しなければならないと思った。
- ・資金提供も大切だけど、それ以上に職員の安全を確保することが大切であると感じた。またこのことが作業の効率化にもつながると思う。
- ・不発弾の問題はラオスだけの問題ではないということに気づいた。
- ・戦争の影響はそのときだけでなく、恐怖が何十年、何百年も続いていくということが分かった。

【不発弾の問題に対して、今私たちにできることは？そして将来できそうなことは？】

- ・私は将来工学系に進もうと考えているが、もしかしたら平和に役立つ技術の開発に携わるかもしれない。日本は現在、重機をラオスに送っていると聞いたが、将来自分が安全に不発弾を除去する機械を作ったり、その機械を使う技術の教育をしたりすることができるのではないかと感じた。
- ・今、自分達が直接できることは少ないと思う。でも、不発弾の問題がラオスや他の国々、そして日本でも未だに残っているということ、まずはきちんと認識することが大切だと思う。
- ・今できることは『知る』ということ。知っておくというだけでも違うと思う。そしてそれを伝えていきたい。
- ・私のように、ラオスという国や、ラオスで起こっている不発弾被害などの大きな問題を全く知らない人がほとんどだと思う。まずは多くの人々にこれらのことを知ってもらい、なぜこのようなことが起こったのかを考える機会を持つことで、同じことをくり返さないように歯止めをかけることができると思う。私ももっと調べたり、意識してニュースを見るようにしたりしていきたいと思う。
- ・今はこのように授業で学んだり、考えたりしていくことしかできないかもしれないが、将来は実際に現地を訪れ、その現状を目で見て考えるなどのことができると思う。
- ・将来、ラオスの現状や不発弾について、分かりやすくまとめて本などにして、多くの人に広く深く知ってもらいたい。
- ・今できることは、無知・無関心にならないようにニュースをよく見たり、世界で起こっていることを知ろうとしていくこと。
- ・貧しい国の人たちのために募金をすること。貧しさがなくなれば、不発弾を解体するなど危険なこともなくなり、負の連鎖を止めることができるのではないかと感じる。改めて募金の大切さに気づくことができた。

【授業全体を通して、考えたこと、疑問に思ったこと、これから行動していきたいこと】

- ・“技術”を、平和を守るために使うことは、理系の義務なのかなと思った。不発弾の問題は日本の問題でもあるので、日本の持つ高度な技術や知識を様々な国に提供していくことも大事なことだと思った。
（ラオスの）国の発展は、国土の問題や国民性の問題などもあって難しいかもしれないけれど、穏やかでのんびりとしたラオスの人々の心だけはずっとそのままであってほしいと思う。
- ・戦争は、戦時中が大変なのは当然だけど、戦争が終わった後もその国や地域の人々を苦しめ続ける、という重要なことを、ラオスの不発弾の現状から学ぶことができた。世界では今もあちこちで紛争が起こっているが、それらが終わった後でも同じようなことが起こる、ということをおぼえてはいけないのだと思う。世界の現状と、過去の戦争が戦後どのような影響を与えているのか、ということから学び、知ろうとする姿勢を持つことが大切だと思う。
- ・私は今まで、ラオスのような発展途上国の問題について知った気になっていました。授業などで話を聞く機会は何度かあり、だいたいのことは分かっていたつもりでした。でも今回の授業を通して、私が思っていたよりも、現状はもっともっと悲惨でした。不発弾の威力自体が想像以上でした。被害にあったら命を落としてしまうし、運良く助かったとしても、手や足を失ったりしてその後の人生を狂わせてしまうことになり得ます。私よりも小さな子ども達が多く被害にあっていることを知って、私にできることがあれば進んでほしいと思いま

した。そのために今は、まず“知る”ということが大事だと思うので、もっと関心を持とうと思います。

- ・ラオスという国は、日本とは全くつながりのない国だと思っていました。ですが、今回の授業を通じて、不発弾の問題は日本にもあったり、日本から様々な支援が行われていたり、日本と関係のない国ではないのだなと感じました。世界はどこかでつながっていると感じました。
- ・今回の授業を受けるまで、戦争が終わってれば、どの国も安心して暮らせていると思っていました。しかし、不発弾があることで、未だに命の危険が残っている国があるということを知りました。シミュレーションを通して、どれだけ技術が発展して作業効率が上がったとしても、全て処理し終えるまでには長い年月がかかるということ、そして多くの国や人の協力が必要だということがわかりました。まずはこういった問題に意識して目を向け、知識をつけて、それを知らない人たちに伝えていきたいと思いました。

<所感>

今回の授業は、前半は不発弾について知ること、後半は不発弾除去のシミュレーションを行うことを大きな目標として構成した。前半部分では、まず、ラオスが抱える大きな課題の一つとして不発弾の問題があること、それによってラオスの人々が長い間苦しみ続けていること、不発弾除去がなかなか進まない現状などを、生徒達が自ら考える時間も作りながら伝えていった。“不発弾が残る”、という1つの問題から、連鎖的にたくさん問題が起こっていること、戦争は戦後も長い期間に渡り人々を苦しめ続けるということ、その地に暮らす人々の心にもたくさんの負の影響を与えてしまうことなど、様々なことに気づいてもらいたい、という思いがあった。

後半は、様々なデータをもとに、実際に計算を行いながら、ラオスに残る不発弾を全て除去し終えるまでにどれくらいの時間がかかるかを試算していった。サイコロと条件カードを使い、ゲーム感覚で計算を進めることで、生徒達は楽しみながら計算を進めていた。このシミュレーションを通して、不発弾除去には膨大な時間と予算がかかることを実感し、さらに他国との関係性が重要であること、支援には金銭的なものだけでなく様々な方法があることなどにも気づいてもらいたい、という思いがあった。

実際に授業を行ってみて、生徒達はしっかりと考え、意見を共有し、シミュレーションも班のメンバーと協力しながら積極的に行ってくれた。一方で、自分が現地で体験し感じたこと、授業の中で気づいてもらいたいと思っていることをどこまで生徒達に伝えるか、ということが難しいと感じた。生徒たちは何も情報がない中では意見を求めても考えることができないが、気づいてほしいと思っている視点をすべて伝えてしまえば、生徒は考える時間を持つことができず、結局何も残らないのではないかと思う。また、生徒ならではの気づきや視点を引き出すことができない。普通の授業から、つい教えすぎてしまうところがあるが、伝えたい情報を精査し、生徒が自ら考える時間もしっかりと確保する必要があると感じた。

全体を通しての成果と課題

今回の授業は理系の生徒を対象に行いたいと、プログラムに応募したときから考えていた。国際理解教育の授業というと、社会科や英語科など文系の科目で行うイメージが強いのではないかと思うが、理系の科目である数学科として何か貢献できることはないかと考え、今回の授業も“数学”という教科の中で実践した。

“数学”は世界共通である。未来を予測し、様々な課題を解決する道具でもあると考えている。現在、日本の数学の学習スタイルは“与えられた問題を解く”ということが中心となっているが、将来はその数学の知識や論理的な思考を使って、自ら課題を見つけ、数学を道具としてその課題を解決する力を生徒達にはつけていってほしいと考えている。実際、国際協力の分野では、技術開発であったり、途上国での数学教育の徹底であったりと、理系の人材が必要であるという話を耳にする。また発展途上国では、特に数学の学力の低さを指摘されることが多いが、こうした国がさらに発展していくためには、国内の数学のレベルを上げることが必要不可欠であると考えている。このような状況の中で、今回、数学科という立場から、理系の生徒達を対象に実践を行うことができたことはひとつの成果ではないかと考える。ただ、今回授業で利用した数学は、まだまだ算数レベルである。統計や確率などを使い、高校の数学の教材とリンクさせながら、本当に数学の授業として成り立つような教材を、今後更に考えていきたいと思う。

生徒の感想の中に、「“技術”を、平和を守るために使うことは、理系の義務なのかなと思った」、「私は将来工学

系に進もうと考えているが、もしかしたら平和に役立つ技術の開発に携わるかもしれない。将来自分が安全に不発弾を除去する機械を作ったり、その機械を使う技術の教育をしたりすることができるのではないかと感じた」というものがあった。将来は航空機の開発に携わりたい、と考えている生徒や、最新の家電を作りたい、という目標を持っている生徒もいるが、今回の授業を受けて、世界の平和を守るための技術開発もあるんだ、という視点に気づき、これから進路選択をしていく上で選択肢の一つとして考えてくれる生徒が1人でもいてくれたらと思う。また、生徒達にとっては未知の国であったラオスについて、人々の生活を想像したり、抱えている問題について知り、そこから考えを深めたりすることで、世界に目を向けるきっかけになってくれたらと思う。

【その他に行った活動】

- ① 中学1年生を対象とした授業（“ラオス”という国を知っていますか？）
- ② ラオスの子ども達へのお土産を作ろう！



折り鶴に、日本語とラオス語で書いたメッセージカードをつけた小さな飾り。生徒達は初めて書くラオス語に悪戦苦闘・・・！



ラオスの子ども達は、お土産をととても喜んでくれました。

- ③ 盈進感謝祭（文化祭）のクラス展示でラオスコーナーを作成。

ラオスについての説明やクイズ、ゲームコーナーを通して、来場者にラオスのことを知ってもらおう。



ラオスについて紹介したレポート展示と、ホームステイ先のお風呂を再現！



“ティップ・カオ”を紹介しながら、ラオスの食事について説明しています。



ラオスに関するクイズを出題しながら、ラオスのことを知ってもらいます。



セバタクローのボールを使ったゲームコーナーも設置。ラオスの遊びを体験してもらいます。

参考資料

【書籍】

- ・小向絵理（2015）「平和構築に向けた絆 ～カンボジア地雷対策センターの改革・成長と南南協力の軌跡～」／国際開発ジャーナル社
- ・高田胤臣（2016）「ラオスに残る、アメリカの爪痕 2016年加筆修正版」／Nature NENEAM & Phirathas Co., Ltd.
- ・『地球の歩き方』編集室（2015）「地球の歩き方 ラオス 2016～2017年版」／ダイヤモンド・ビッグ社
- ・「2015年度 JICA中国 ラオス教師海外研修 授業実践報告書」／JICA中国

【webサイト】

- ・「日本地雷処理を支援する会」 <http://jmas-ngo.jp/ja/>
- ・「ganas 途上国を知る。世界が広がる。」 <http://www.ganas.or.jp/20160731uxo/>
- ・「外務省 ラオス人民民主共和国 基礎データ」 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/laos/data.html>
- ・「世界経済のネタ帳」 <http://ecodb.net/>
- ・「井上きみどりの日本とアジアの絆をたどる旅 『戦争のあとに残るもの ～ラオスの不発弾～』」 http://nantokashinakya.jp/member_reports/35_kimidori_laosvietnam.php

知ることは変わることへの第一歩

◆所属先 山口県立大津緑洋高等学校
 ◆氏名 小川 弘敏
 ◆担当教科 外国語（英語）

◆実践教科 コミュニケーション英語Ⅱ
 ◆対象学年 高校2年生
 ◆対象人数 52人

■実践の目的

高等学校外国語の教科書ではアジアやアフリカなど発展途上国を題材とするものも多い。しかしながら高校生にとって発展途上国での出来事は身近に感じることが難しい。世界の状況について英語圏あるいは先進諸国の見解を学習するだけでなく、ラオスのような発展途上国にも目を向け、開発教育の様々なアクティビティを体験することにより、英語の技術習得だけでなく、世界の状況を知り、多様な角度から公平に考察し、それに対して自分なりの意見を持ち、行動することができる地球市民としての態度を育てる。

■授業の構成

時限・対象	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目	世界の中のラオス ・写真から各自が持っているステレオタイプを知る ・本当の支援について考える（寄付で学校を建設することは？）	(1) フォトランゲージを用いて一枚の写真から各自が持っているイメージをクラスで共有する (2) パワーポイントを使用してラオスや途上国について学び、ラオスについて関心を持たせる (3) テキストを読んで、同じ高校生が実施したラオス学校建設プロジェクトの概要を理解する (4) 寄付で学校を支援することについてメリット、デメリットを考え、クラスで共有することによって、本当の支援について考える	・パワーポイント ・テキスト ・写真 ・動画
2時限目	善意型支援から参加型支援へ ・国際協力や国際支援の必要性について考える ・ラオスの貧困について考える	(1) ドンコー村の写真から貧困を考え、支援の必要性について理解する (2) テキストを読み同じ高校生がラオスに対して実施した新たな支援について読み取り、是非を考える (3) グループでラオスを支援するためのプロジェクトを選び、善意型支援、技術移転型支援、参加型支援のメリット、デメリットに気づくことができる	・パワーポイント ・テキスト ・写真 ・ワークシート

時限・対象	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
3時限目	果たして本当の支援とは？ ・これまでの授業を通して自分たちができることは何かを考える ・してはいけない「援助」について考える	(1) ラオスをより良くするために私たちにできる支援、できない支援について考え、ダイヤモンドランキングを作る (2) グループで話し合い、模造紙にまとめて、全体に発表する (3) テキストを読み、同じ高校生が行った取り組みがなぜ成功をおさめたのかを読み取る (4) 3回の授業を通して各自が気づいたことや、してみたい支援、してはいけない支援についてまとめる	・パワーポイント ・テキスト ・模造紙 ・ワークシート



3時限目：「果たして本当の支援とは？」

ねらい：支援するとはどういうことなのか？本当に必要な支援は何なのだろうか？行動を起こす前にもう一度様々な視点を持ち、多様な角度から公平に考察し自分の意見を持てるようになる。

<本時の流れ>

(1) ドンコー村の写真を見て、ペアやグループで思ったことを話しあう。



ドンコー村の様子①



ドンコー村の様子②



ドンコー村の夕食



ドンコー村の学校



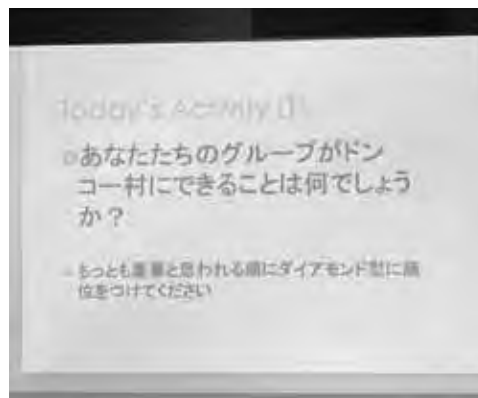
民家の台所

【写真① 使用した写真】

(2) ラオスをより良くするために自分たちにできる支援、できない支援を個人で考え、ダイヤモンドランキングを作成する。

- A. ドンコー村を支援している現地のNGOの活動にお金を寄付する。
- B. ドンコー村やラオスのNGOについてもっと学ぶ。
- C. ドンコー村の学校に寄付を続ける。
- D. ドンコー村やラオスのNGO活動について、日本の周囲の人々に伝える。
- E. ドンコー村にしばしば訪問して交流を深める。
- F. ドンコー村の村人のニーズを把握する調査をする。
- G. ドンコー村の人々を日本に招き、講演会を開いたり、日本の村を視察する。
- H. 特に何もしない方がよい。
- I. (あなたが考えるその他の項目)

各自でドンコー村にできる支援は何であるかを考え、ダイヤモンド・ランキングで優先順位を考えてもらった。予想していた通り多くの生徒が、Aの「ドンコー村を支援している現地のNGOの活動にお金を寄付する」やBの「ドンコー村やラオスのNGOについてもっと学ぶ」といったものを優先順位の上位に持ってくる生徒が多かった。一方でHの「特に何もしない方がよい」という意見を上位に持ってくる生徒も数名いた。「支援が途切れた時のことを考えてない(永続的な支援は不可能)」や「ドンコー村だけに支援するのは不平等」といったすどい意見もでていた。



【写真② 活動①】

(3) グループで話し合い、意見交換をする。

個人で考えた意見をグループの中で共有し、グループの中で最も重要な事柄をひとつ選ぶ。ここでもやはり、AやBを選ぶグループが多かった。

(4) グループで考えたプロジェクトを模造紙に書き、発表する。

次にグループで選んだ最も重要な項目について、具体的にはどのように支援していくと良いのかを考えた。これまでに支援には、「慈善型支援」、「技術移転型支援」そして「参加型支援」があるということを知っており、教科書の内容 A Bridge between Japan and Laos. の中でも具体的な支援方法を学んでいる。そして初回の授業では、「寄付で学校を建設することの是非」など支援の在り方についても考えてきている。その集大成となるのが、自分たちにできる支援を考える今回のプロジェクトである。予想していた通り、Bの「ドンコー村やラオスのNGOについてもっと学ぶ」という意見がどのグループも多かった。同じBでも具体的な支援方法については各グループで様々な意見がでていた。

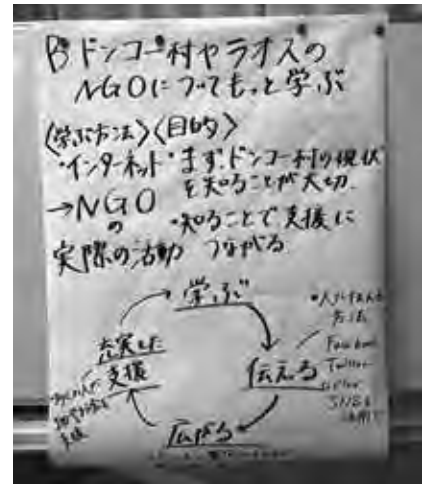
次頁でいくつかのグループの支援方法について紹介する。



【写真③ 作業風景】

B. 「ドンコー村やラオスのNGOについてもっと学ぶ」

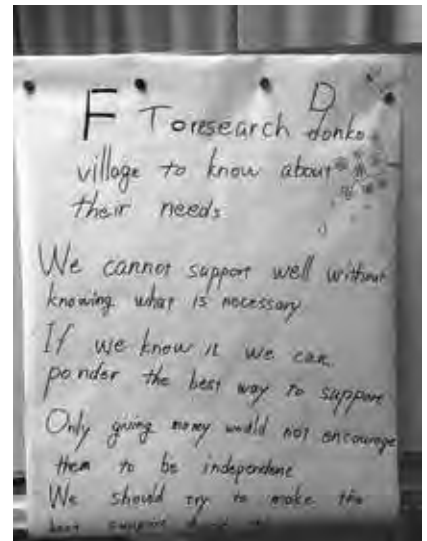
最も多かった意見である。知ることは変わることへの第一歩であると私自身思っており、授業でも常にそのことを念頭に置き、様々な活動を実施しているため、生徒に私の想いや、考えが伝わったかと考えている。方法としてはインターネットを使い、ドンコー村の現状を知るといった意見が最も多かった。知る→学ぶ→伝える→支援する→広がる→知るというようなサイクルで「支援の輪」を作っていくという意見であった。まさにそうすることによって日本を始め先進国の人々が途上国の現状に目を向けるきっかけになるであろう。そのために、YouTubeでドンコー村の現状の動画を世界に発信するという意見やTwitterでつぶやくという意見やFacebookに投稿するなど最近の高校生らしい意見もあった。



【写真④ プロジェクト (B)】

F. 「ドンコー村の村人のニーズを把握する調査をする」

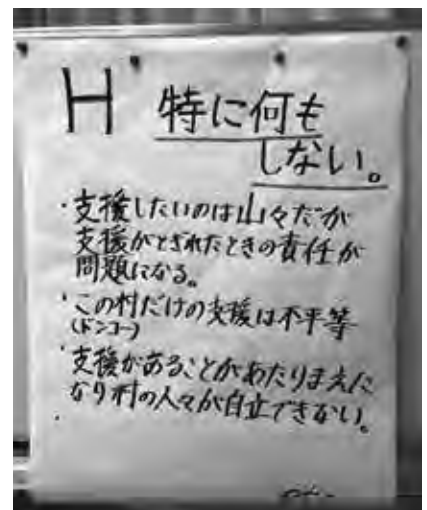
村人（被援助者）のニーズを把握するという意見も多くでた。初回の授業で本当に必要な支援って何だろうかということ考えたからであろう。「援助する側が自己満足になっていないか」、「その支援が現地で本当に役立っているのか」などの考えも出ていた。そして写真⑤のように英語で書き、発表するグループもあった。本来は英語の授業であるため、英語でプレゼンテーションをしてもらいたかったが、時間も限られていたためそこまで要求していなかったが、自発的に英語でおこなうグループも現れ、また内容も充実したものであったと言える。このグループは「お金をあげるだけでは、自立を妨げてしまう」ということも述べており、国際開発の世界でよく言われている、「スポイル」を言葉こそでなかったものの言及していた。



【写真⑤ プロジェクト (F)】

H. 「特に何もしない」

少数意見ではあったが「特に何もしない」という意見もでた。支援をしないとイケないわけではなく、支援をすることによって、「支援」が「支援」ではなくなってしまうと考えたようである。「支援をしたいが、支援が途切れたときにドンコー村はどうなるのか」、「ドンコー村にだけ支援するのは不平等」という意見があった。また「支援があることが当たり前となり村の人々が自立できない」という「スポイル」に焦点を当てていた。支援が自立の妨げになっているということは、国際協力の世界でも問題になっているのは事実である。そのような深いところまで掘り下げたうえで「特に何もしない」ということを選ぶことができていたのは授業の成果がでたのではないかと実感できる場面であった。



【写真⑥ プロジェクト (H)】

(5) テキストの内容を読み取る。

三省堂の英語の教科書の中にある、ラオス支援の話を読み、高知商業高校の生徒たちが実施した支援の内容を読み取り、なぜ彼らの支援が成功したのかを考えた。1994年から現在まで続く高知商業高校の取り組みから、やはり支援は継続することが重要であるという生徒が多かった。

(6) 授業を通して考えた、してみたい支援、してはいけない支援についてまとめる。

最後にこの授業を通して学んだ、「本当の支援」について考えた。ワークシートを用いて、自分がしてみたい支援、そしてしてはいけない支援について考えた。実際はこのような支援をしてみたいが、果たしてその支援は被援助者にとって有益なのかまで考えることができおり、授業の成果がしっかりとでていいるのではないかと感じた。以下に生徒が書いたものを抜粋する。

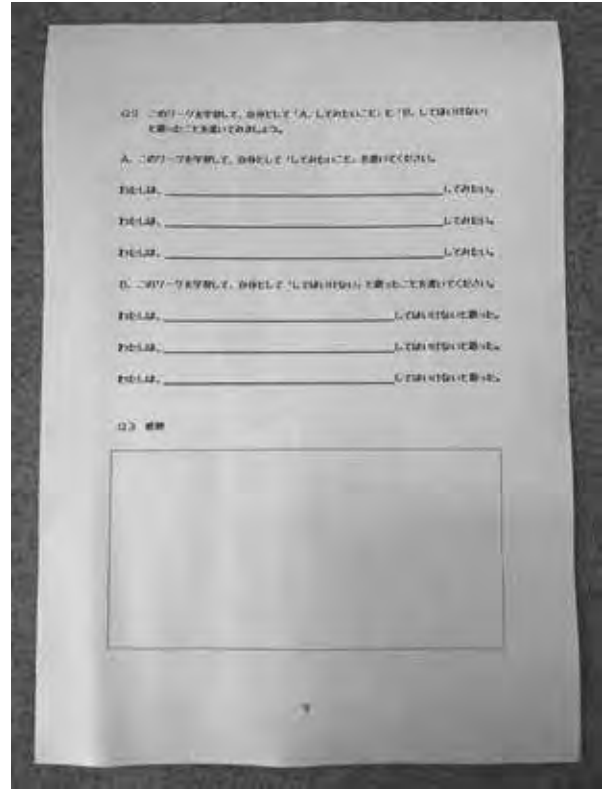
<生徒の意見>

A. 「してみたいこと」

- ・ 他国の理解
- ・ 積極的に批判眼を持って考えたい
- ・ きちんと相手の状況が分かった上での支援
- ・ その国での支援活動の調査
- ・ ニーズをきちんと調べての支援
- ・ 相手の自立を促す支援
- ・ ラオスをもっと知る
- ・ 英語を話したい
- ・ ドンコー村の学校に文房具を寄付
- ・ 今のラオスの人々の現状について知りたい

B. 「してはいけないこと」

- ・ 貧富の差で差別
- ・ ニーズに合わない支援
- ・ 一方的な支援、むやみな支援
- ・ お金ばかりの支援、募金ばかりなどその場限りの支援
- ・ 助けを必要としている国を見捨てること
- ・ 何も知らないで寄付をすること
- ・ 考えのない援助による自己満足な支援
- ・ 愛のない行為
- ・ 良いと言われているからといって、考えも無く実行する支援



【写真⑦ ワークシート】

「生徒の感想（抜粋）」

- ・ 援助＝良いものという考えが変わった。また、他の人や班の考えも自分とは違って面白かった。しっかり考えてその上で行動することが重要である。 (男子生徒)
- ・ 無闇に支援するのはいけないという事を強く思った。支援をするにしても彼らがどのような物を欲しているか、調べてからでないといけないのではないかと。 (男子生徒)
- ・ 寄付だけでは本当に支援できているか定かではないので、寄付される国の現状、寄付されたお金の使い道をよく知った上で、寄付していきたい。でも寄付が難しい場合は必要としているものが家にあって、いらないうちにしたいと思った。 (女子生徒)
- ・ 貧しい国に支援するということはただお金を寄付するだけではなく、何が相手の国にとって必要であるかをきちんと把握して支援することが大事だと思った。他の班の発表をきいて、支援したいのはやまやまだが、日本にはそんな余裕がないということもきいて、それもそうだなと思った。自分たちの国のことも考えて貧しい国へ援助していけるようになればいいと思った。 (女子生徒)
- ・ ラオスの人々やドンコー村の人々は、私たちの生活と違う生活を送っていることを知りました。高知商業高校の生徒はラオスの人のために、募金をしたりして学校を建てたことはすごいと思いました。その後の生徒会執行部では、株を売るということをしていて、すごいと思いました。この活動が今でも続けられているということを知り、この活動をもっと多くの人に伝えていけば、ラオスの人々だけでなく、他の村の支援も行われるのではないかと。 (女子生徒)

<所感>

「果たして本当に必要な支援とは？」について考えるために様々な活動を実施した。1時間の授業の中で複数の活動があり、時間も十分確保できない中での実施であったため、生徒たちに情報を十分与えることができなかつたようにも思ったが、予想を大きく超えた結果が出たのではないかと思う。本当に必要な支援を考える中で、クリティカルに物事を考えることができるようになってきたのではないかと思う。支援することは必ずしも善ではないのだという結論に至った点においては今回の授業を実施してよかったと感じる。グループ発表で述べていた生徒もいたが、「何かをすることでその被援助者の自立を妨げる」というところまで深く掘り下げることができるとは思っていなかった。

英語の授業であるということを考えると、十分に英語を使っていたかと考えると通常の授業よりは英語使用量が少なかったようには感じるが、最初のペアワークやインタラクション、英問英答など英語を使用するところはしっかりと英語できていたと思う。今後は議論やプレゼンテーションも英語で行えるまで英語運用力の向上にも取り組んでいきたい。

全体を通しての成果と課題

近年高等学校外国語の教科書で国際問題や発展途上国を扱うことが増加している。しかしながら単なる知識の注入で終わっていることも多いのが現状である。また遠い国の話として興味・関心を持たない生徒も多いのが実情である。背景知識のない生徒が教科書の内容を的確に理解することは難しく、英語嫌いを助長することにもなりかねない。開発教育のアクティビティを通して背景知識を身につけることは教科書の理解を助けたと考えられる。これらのアクティビティは参加型の手法で「気づき」を大切にする。生徒たちは気づき、理解し、考え、自分なりに行動するということを促され、遠い国の話ではなく、自らのことと重ねて考えることができるようになった。教科書を身近に感じることができるようになり、授業への興味・関心が高まった。

科目はコミュニケーション英語IIであり、英語の授業である以上英語の能力を身につけさせるということも当然必要になってくる。アクティビティは日本語で実施するものもあったが、本文を読んだ英問英答やミニプレゼンテーション、これから実施予定の「ラオスのために何ができる？」のパワーポイントを用いたプレゼンテーションなど英語で活動する場面も多く設定しておりスピーキングの力もついた。またアクティビティの振り返り作業では英語で書いたり、グループで共有したりという活動もあり、ライティングやリスニングの力も着実についている。また開発教育のアクティビティは一人でやる作業は少なく、グループでの実施、全体で発表などが多く、英語教育で大切なインタラクションも増加している。このように開発教育を英語教育に取り入れることによって、生徒の英語力の向上だけでなく、地球市民としての態度も育っていると考えられる。

生徒の感想には「英語を話すのが楽しくなった」「友達と意見を共有することでたくさんの意見を出すことができた」「ラオスと日本のつながりに気づいた」「自分の中の当たり前は、ラオスのような途上国では当たり前ではないことがわかった」「自分も国際協力に関わりたい」などの意見があった。外国語学習において語彙や文法を覚えるだけでは使えるようにはならない。アウトプットしてこそ外国語の習得につながる。そのアウトプットの機会をディベートやロールプレイ、シミュレーションなどのアクティビティでさらに与え、言語使用場面を授業の中で増やしていき、コミュニケーションツールとしての外国語習得につなげていきたい。最終的には授業の中で実施する開発教育のアクティビティを生徒たちに考えさせて、生徒の進行で実施していきたい。自ら考え行動する地球市民を育てるためにも授業を上記のように可能な限り能動的にして、活発に学ぶことができる授業環境を作っていきたい。

また、「異文化理解」や「総合的な学習の時間」などの授業では参加型の開発授業を実施することは比較的容易であるが、「英語」の授業において参加型の授業をどのように取り入れていくかは検討していかなければならない。大学入試のための英語の授業ではいけないが、やはり大学入試を意識すると教師も生徒も文法や長文読解といったものに重きを置いてしまうというのも事実である。大学入試にも対応でき、国際社会で活躍できる真の英語力を身に付けてもらうためにも開発教育の参加型の授業を「英語」の授業の中に取り入れていきたいと考えている。

Extra Lesson in Winter Vacation

~From December 27th to January 6th ~



SANSEIDO 『EXCEED New Edition English Series I』 pp.82~89

Lesson7 A Bridge between Japan and Laos

Class() No()

Name _____

A Bridge between Japan and Laos

Section1

One day in 1994 a newspaper article came to the attention of a number of the student council of Kochi Commercial High School. The article said that schools were in short supply in Laos. He talked about this in a meeting of the student council. The numbers were interested in the story and decided to join a project of the Kochi Laos Association to build schools in Laos. They began to collect money through donations and bazaars held in the school festival.

The money they collected in two years was about 1.2 million yen. They sent it to the Laotian Ministry of Education by way of the association. The ministry used the money to build two primary schools in Laos.



Section2

In 1996, the new members of the student council wanted to continue the project. This time they changed from the donation-oriented one. So they decided to start a corporation. By doing this, both Laotian and Japanese people could be involved in the project equally.

The student council sold shares to students, teachers, and parents in the corporation. The price was 300 yen each. They used part of this money to help send some students to Laos. In Laos the students went to markets where they could buy Laotian goods. They brought the goods back to Kochi and sold them at the school festival. They used the money to buy back the shares and give the shareholders a small profit. The remaining money was given to the association to help build a third school. Then they dissolved the corporation.



Section3

The corporation was started again the next year. The students wanted the people of Kochi to know about the project. So they opened a Laotian goods corner in a local department store. In the corner, they showed pictures painted by Laotian children. They also gave demonstrations of Laotian dances. These impressed people who visited the corner. From the profit of goods sold at the department store and the school festival, a fourth school was built.

In the council's final meeting, a number of the next year's student council said, "Let's have a joint project with the local people." This proposal was accepted, and the students decided to join a festival on a local shopping street. They held the first 'Harimaya Street Festival' in 2000. That was the year when they made the greatest profit in the project's history. It was another success for them, their community, and their Laotian friends.

Section4

The Kochi students feel there are three basic reasons why their project has been successful. First, the students have changed from a 'one-way donation' to a 'two-way exchange'. The students and people of Kochi learned a lot through Laotian goods and displays of Laotian life. And the Laotian students learned about Japanese life and culture when the Japanese students visited Laos.

Second, the profit they got from the project has been mainly used for the benefit of society. It has paid back society at both local and global levels. The project was very useful for the betterment of people. This is the fundamental aim of 'economic activities'.

Third, because they have banded down the project from 1994 to the present, it has become recognized. Through this continuity, connections between people in Japan and Laos have been deepened and improved.



Work-sheet for Section1

1. Answer the questions in English.

- ① What did the member of the student council?
- ② How did they collect the money?



2. Think and share the idea.

Dear Visitors,

This school is in trouble with lack of money.

Your donation helps them to buy teaching materials and tools for school children.

Please kindly donate your \$10 to this school!

Aiko Nakamura

Source: 開発教育協会『「援助」する前に考えよう』p.9

Situation

You visit Donko Village, Laos. This is the village of ethnic minority. There are dogs, pigs, and chickens in this village. There is also a small primary school. This night, you are billeted in a private home. When you eat dinner villagers made, one of your members say, "I noticed the signboard near the primary school." Your group are interested in the contents of the signboard.

Q 1 あなたはドンコー村の小学校に 10 ドルを寄付しますか。グループとして皆さんが寄付した金額を合計してください(例えば、3 人が寄付するとすれば、合計で 30 ドルになります)。

Q 2 あなたはアイ子の活動について賛成しますか、反対しますか。それはどのような理由でしょうか。(「賛成」「やや賛成」「やや反対」「反対」の 4 段階)

Q 3 アイ子の活動がよりよいものになるためには、どうしたらよいでしょうか。アドバイスを考えてください。

Work-sheet for Section2. 3

1. Answer the questions in English.

- ① Who wanted to do something more than just collecting donations?
- ② What did the student council do to get money?
- ③ Where did the students open a Laotian goods corner?
- ④ Who suggested the idea of a joint project?

2. Think and share the idea.

Situation

You visited Donko Village and came back to Vientiane, the capital of Laos. While staying in Vientiane, you will visit local NGOs working for Donko Village. The purpose of the visit is to know the local NGOs and get hints for our activity.

You visited three NGOs. These NGOs require funds for their projects.

もしあなたが資金援助するとしたら、以下のうちのどのプロジェクトに支援するのが最も良いと思いますか。3つのプロジェクトに優先順位を1から3までつけてください。優先順位をつけた理由も考えてください。

プロジェクトと実施団体は次のとおりです。

- プロジェクトX エイズや性被害を受けた子どもたちの養護施設
【Village Focus International】
- プロジェクトY 不発弾処理技術を指導する団体
【UXO-Lao Vientiane】
- プロジェクトZ クッキー製作を通して未来を築く
【ADDP】

A. あなた自身の順位は？

第1位

第2位

第3位

B. グループでの順位は？

第1位

第2位

第3位

C. その理由は何ですか？



■プロジェクトX エイズや性被害を受けた子どもたちの養護施設

【Village Focus International】

ラオス南部にはエイズや性被害により親を失った子どもたちがたくさんいる。パクセーに拠点をおくNGO「Village Focus International」ではエイズや性被害により親と生活できなくなったり、学校に通うことができなくなったりした子どもたちを対象に、教育と生活を支援するプロジェクトを行っている。

ここでは日中は職業訓練の一貫として、裁縫、染め物、人形作りなどを行う。これらの製品は支援者を通してみやげものなどとして売られていて、施設の運営費の一部になっている。

施設にはラオス人のスタッフがいて、職業訓練や保育士の役割、そして食事の世話などを行っている。Village Focus Internationalでは、寄宿舎に入所することを希望する村や家族が多いことから、あと10名ほど受け入れを増やしたいと考えている。そのための費用を現在募集しているところである。

■プロジェクトY 不発弾処理技術を指導する団体

【UXO-Lao Vientiane】

ラオスはベトナム戦争時代の負の遺産である、地雷や不発弾がたくさん残されている。ラオスでは不発弾処理の技術が乏しいので、日本の専門家が入っている。

そこで「UXO-Lao Vientiane」では不発弾除去や効率的な不発弾の見つけ方などの研修を行っている。ラオス人の研修生を招いて、技術の研修を行っている。このプロジェクトには様々な助成団体が支援しているが、年々助成金が少なくなり、運営費用の捻出に苦労している。

■プロジェクトZ クッキー製作を通して未来を築く

【ADDP】

障がい者支援施設「ADDP」では、自分たちでクッキーを作り、それを売り運営費の一部にしている。同情で買ってもらうのではなく味で勝負しておいしいから買ってもらうように、自分たちで工夫をしている。よりおいしいクッキーを作るためには、様々な設備投資が必要であるが資金が不足している現状。

Work-sheet for Section4

1. Answer the questions in English.

- ① How many reasons are there for the success of the project?

- ② Why has the project become recognized?

私にできること・できないこと

Q 1 あなたたちのグループがドンコー村にできることは何でしょうか？
もっとも重要と思われる順にダイヤモンド型に順位をつけてください。

- A. ドンコー村を支援している現地のNGOの活動にお金を寄付する
- B. ドンコー村やラオスのNGOについてもっと学ぶ
- C. ドンコー村の学校に寄付を続ける
- D. ドンコー村やラオスのNGO活動について、日本の周囲の人々に伝える
- E. ドンコー村にしばしば訪問して交流を深める
- F. ドンコー村の村人のニーズを把握するための調査を行う
- G. ドンコー村の人々を日本に招き、講演会を開いたり、日本の村を視察する
- H. 特に何もしない方がよい
- I. (あなたが考えるその他の項目)

Q2 このワークを学習して、自分として「A. してみたいこと」と「B. してはいけない」と思ったことを書いてみましょう。

A. このワークを学習して、自分として「してみたいこと」を書いてください。

わたしは、 _____ してみたい。

わたしは、 _____ してみたい。

わたしは、 _____ してみたい。

B. このワークを学習して、自分として「してはいけない」と思ったことを書いてください。

わたしは、 _____ してはいけないと思った。

わたしは、 _____ してはいけないと思った。

わたしは、 _____ してはいけないと思った。

Q3 感想

A Bridge between Japan and Laos

Section1

1994 年のある日の新聞記事が高知商業高校生徒会執行部の目に留まりました。記事にはラオスでは学校が足りないとありました。彼は生徒会執行部の会議でそれについて話しました。生徒会執行部の役員はその話に興味を持ち、ラオスに学校を建設するために、高知ラオス会のプロジェクトに参加することを決めました。彼らは募金や文化祭で開いたバザーなどによってお金を集め始めました。

2 年間で彼らが集めたお金はおよそ 1200 万円になりました。彼らはそのお金を高知ラオス会を經由してラオス教育省に送りました。教育省はラオスに 2 つの小学校を建てるのにそのお金を使いました。

Section2

1996 年、生徒会執行部の新しいメンバーはこのプロジェクトを続けたかった。この時、彼らは「募金中心の方法」から「交換中心の方法」へと変更した。だから、彼らは会社を興すことを決めた。そうすることによって、ラオス人と日本人の相互が平等にこのプロジェクトに関わられた。

生徒会執行部は生徒、教員、保護者に会社の株を売った。株は 1 株 300 円であった。彼らはその売上げの一部を生徒をラオスに送る支援をするために使った。ラオスでは、生徒たちはラオスのグッズが買える市場に行った。彼らはその買ったグッズを高知に持ち帰り、文化祭で販売した。彼らは自社株を買い戻したり、株主に利益を還元したりするためにお金を使いました。残ったお金は、3 つ目の学校を建設するために高知ラオス協会に渡されました。そして彼らは会社を解散しました。

Section3

会社は翌年再び始められました。生徒たちは高知の人々にプロジェクトについて知って欲しかった。だから彼らは地元のデパートでラオスグッズを販売するコーナーをオープンしました。そのコーナーでは、彼らはラオスの子どもたちによって描かれた絵を見せました。彼らはラオスのダンスのデモンストレーションもしました。これらはコーナーを訪れた人々に感銘を与えました。デパートと文化祭で販売したグッズの売り上げで、4 つ目の学校が建設されました。

生徒会執行部の最後の会議で、翌年の生徒会執行部のメンバーが「地元の人々と合同のプロジェクトをしよう」と言いました。この提案は受け入れられ、生徒たちは地元のショッピング街でのお祭りに参加することを決めました。彼らは2000年に最初の「はりまやストリートフェスティバルを開きました。これはこのプロジェクトの歴史の中で彼らが最も利益をあげた年です。それは彼ら、彼らのコミュニティ、ラオスの友達にとってもう一つの成功であった。

Section4

高知商業の生徒たちは、プロジェクトの成功には3つの基本的な理由があると思っている。一つ目は生徒たちが、「一方方向の募金」から「双方向の交換」に変えたことだ。生徒たちと高知の人々はラオスの生活様式やラオスのグッズからたくさんのことを学んだ。そしてラオスの生徒たちは、日本の生徒たちがラオスを訪問した時に日本の生活様式や文化を学んだ。

二つ目はプロジェクトから彼らが出た利益が主に社会の利益のために使われていることだ。それは地元レベル、世界レベルともに社会に換金されている。プロジェクトは人々の向上のために非常に役立った。これは経済活動の基本的な目的である。

三つ目は、彼らは1994年から現在までこのプロジェクトを継承しているので、様々な人に認識されていることだ。このコミュニティを通して、日本の人々とラオスの人々のつながりが深くなり、良くなっている。



【書籍】

- ・新井彩花(2010) 『ラオス豊かさと「貧しさ」のあいだー現場で考えた国際協力とNGOの意義』
コモンズ
- ・小川弘敏・中本智・松谷緑(2014) 「英語を学ぶことと教育を通じた国際協力のあり方」 『山口
大学教育学部研究論叢』 第64巻 第1部 173-180
- ・オードリー・オスラー(2002) 『世界の開発教育』 明石書店
- ・開発教育協会(2013) 『開発教育実践ハンドブッカー参加型学習で世界を感じる』 開発教育協会
- ・開発教育推進セミナー(2001) 『新しい開発教育のすすめ方』 古今書院
- ・菊池陽子他(2015) 『ラオスを知るための60章』 明石書店
- ・田中治彦(2008) 『国際協力と開発教育「援助」の近未来を探る』 明石書店
- ・三浦孝他(2002) 『だから英語は教育なんだ 心を育てる英語授業のアプローチ』 研究社

【教材】

- ・開発教育協会(2006) 『「援助」する前に考えよう』 開発教育協会
- ・森住衛他(2006) 『EXCEED English Series I New Edition』 三省堂

主催：独立行政法人国際協力機構 中国国際センター（JICA中国）

後援：外務省、文部科学省

広島県教育委員会、広島市教育委員会、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、
山口県教育委員会、島根県教育委員会、鳥取県教育委員会

*本報告書はJICA中国ホームページ（<https://www.jica.go.jp/chugoku/>）からもダウンロードできます。
一部のワークシートはそのままご使用頂けますので、どうぞご活用ください。



独立行政法人 国際協力機構
中国国際センター (JICA 中国)

〒739-0046 広島県東広島市鏡山 3-3-1 ひろしま国際プラザ内
TEL 082-421-6305 FAX 082-420-8082 <http://www.jica.go.jp/chugoku/>

